

# 地方自治情報管理概要

～電子自治体の推進状況(平成25年4月1日現在)～

平成26年3月

総務省 自治行政局 地域情報政策室

# 目 次

## I はじめに

- 1 地方公共団体における行政情報化・IT戦略の経緯……………1
- 2 近年の電子自治体推進の取組……………3
- 3 本書の概要……………3

## II 調査結果

### 第1節 電子自治体の推進体制等

- 1 電子自治体の推進体制…………… 4
- 2 C I O（情報化統括責任者）の任命…………… 5
- 3 C I O補佐官（ネットワーク管理者を含む）の任命…………… 7
- 4 電子自治体推進計画等の策定等…………… 8
- 5 情報化についての職員の人材育成等…………… 9
- 6 情報主管課の職員・要員数…………… 9
- 7 情報主管課の経費…………… 10

### 第2節 電子自治体の基盤の整備

- 1 機器構成及び庁内L A Nの整備…………… 11
  - (1) 一人一台パソコンの整備状況
  - (2) 庁内L A Nの整備状況
- 2 台帳の電子化…………… 13
- 3 L G W A Nとの接続形態…………… 14

### 第3節 行政サービスの向上・高度化

- 1 ホームページの状況…………… 16
- 2 I C Tを活用した地域の課題解決への取組状況…………… 17
- 3 「災害時の被災者情報管理」業務システムの整備状況…………… 18
- 4 災害情報伝達手段の整備状況…………… 19
- 5 行政手続のオンライン化の推進状況…………… 21
  - (1) 行政手続のオンライン化計画及びオンライン利用促進計画の策定状況
  - (2) 行政手続をオンライン化するための通則条例の制定
  - (3) e-文書条例の制定
  - (4) 行政手続をオンライン化するためのシステムの導入
  - (5) 行政手続の各種オンラインシステムにおけるA S P・Saa Sの利用
  - (6) オンライン利用実績
  - (7) オンライン利用の促進等に向けて講じた措置
- 6 地理情報システム（G I S）の整備…………… 27
  - (1) 統合型地理情報システム（統合型G I S）の整備
  - (2) 個別型地理情報システム（個別型G I S）の整備
  - (3) G I Sの整備方法及び活用状況

### 第4節 業務・システムの効率化

- 1 複数の地方公共団体による業務システムの共同化（共同利用）…………… 31
  - (1) 協議会等への参加
  - (2) 各種オンラインシステムの共同利用

(3) クラウド技術及び外部のデータセンターを活用した情報システム（基幹系業務）の利用	
2 情報システムの最適化及び I T 調達の適正化	36
3 地域情報プラットフォーム標準仕様を活用したシステム整備	38
4 中間標準レイアウトを活用したシステム整備	41
第5節 情報セキュリティ対策の実施状況	
1 組織体制・規程類の整備	43
2 情報資産の管理方法	44
3 情報セキュリティ対策の実施	45
(1) 物理的セキュリティ対策の実施	
(2) 人的セキュリティ対策の実施	
(3) 技術的セキュリティ対策の実施	
4 各種データのバックアップの状況	47
(1) 住民基本台帳データ	
(2) 税業務データ	
5 情報セキュリティ対策の運用	49
6 情報セキュリティ対策の評価・見直し	50
7 情報システムに関する業務継続計画（I C T－B C P）の策定状況	51
凡 例	52
参考：電子自治体に関する近年の主要な取組	56

# I はじめに

## 1 地方公共団体における行政情報化・IT戦略の経緯

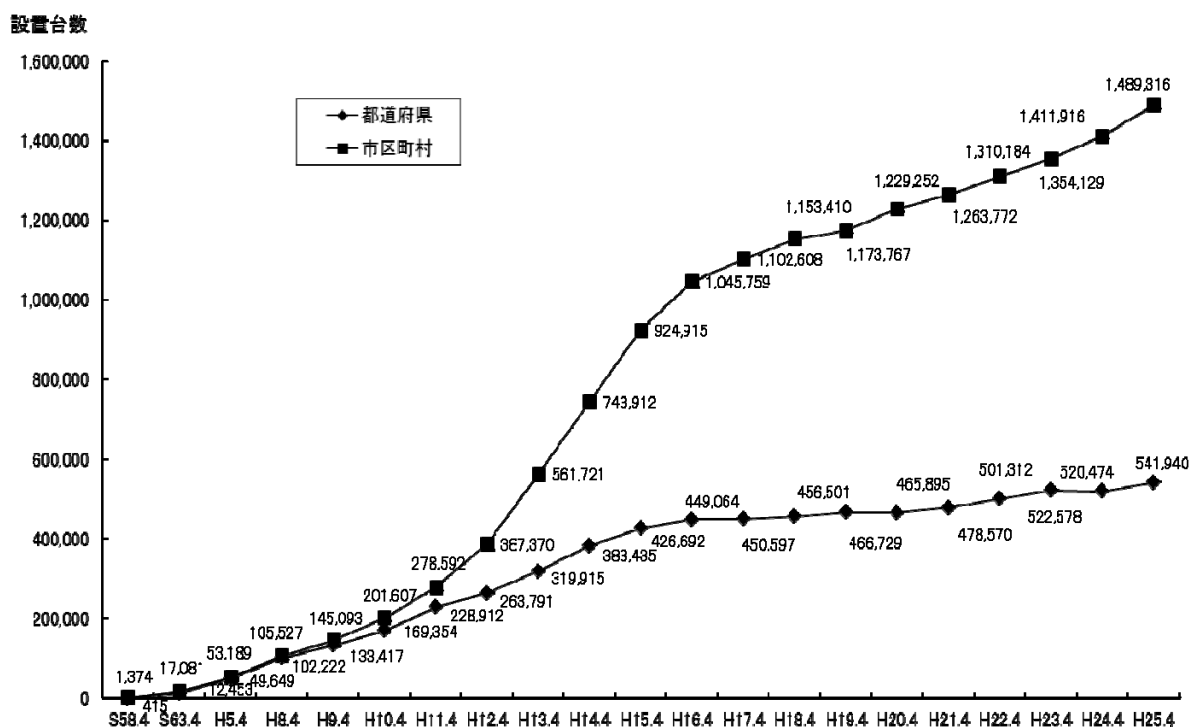
地方公共団体における情報通信技術を用いた行政情報化は、昭和35年に大阪市に電子計算機が導入されたことに始まる。電子計算機は、翌36年には京都市に導入され、都道府県では、昭和38年に東京都及び神奈川県に導入された。この背景には、日本経済の急激な成長に伴う行政需要の飛躍的な増大と大都市地域における新規職員の採用難等の事情があった。昭和30年代、行財政の効率的な運営のための取組が強化され、各地方公共団体は、窓口事務の一本化、事務処理に関する組織・機構等の改善を推進する一方、事務処理への機械導入による合理化を積極的に進めた。

昭和40年代に入ると、地方公共団体において電子計算機が積極的に活用されることとなり、大都市に限らず、全国的に利用・導入が進み、事務処理の迅速化、効率化に大きく貢献することとなった。また、税務事務における事務処理システムの開発や市町村における住民記録システムの実施、(財)地方自治情報センターの発足等、現在の地方行政の実務で用いられている各種の情報処理システムや仕組みの基本が構築された。

昭和50年代は、40年代末期におけるわが国経済の構造的変化から、国・地方を通じて財政悪化が深刻化したため、多くの地方公共団体では、事務処理の合理化から効率的な事務処理機器、特に電子計算機の導入利用が積極的に推し進められた。また、地方公共団体における情報処理機器の利用を処理業務の内容及びシステムの面からみると、汎用電子計算機においては、当初の各種統計、税務、給与等の大量・定型業務を中心とした集中処理から少量・多種・非定型業務へと適用範囲が拡大し、内部事務の効率化に留まらず、住民に対する行政サービスの向上に直接利用されるようになった。

昭和60年代から平成になり、庁内LAN等の情報通信ネットワークの整備が進むとともに、衛星通信、CATV、ICカード等の新しいメディア(ニューメディア, マルチメディア)を活用した地域情報化施策が進められるようになった。

パソコンの設置状況の変遷



21世紀になり、政府はIT戦略を策定し、官民の総力をあげてIT化を推進していくことになった。平成13年1月に、IT戦略本部は「我が国が5年以内に世界最先端のIT国家となる」ことを目標とした「e-Japan戦略」を策定し、ブロードバンド等のIT基盤の整備などを推進した。このような中で、地方公共団体におけるパソコンの設置台数も急速に増加した。さらに、平成15年7月に、IT戦略本部は「e-Japan戦略Ⅱ」を策定し、医療、行政サービス等の7分野でITの利活用に向けた先導的な取組を推進した。電子政府・電子自治体は、いずれの戦略においても重点分野の一つとして位置付けられ、「e-Japan戦略」では平成15年度までに「電子情報を紙情報と同等に扱う行政を実現」することを、また、「e-Japan戦略Ⅱ」では「重複投資は徹底排除、行政の透明性を高め、民の参画を促進」することを目標としていた。

これらのIT戦略を受け、総務省においても、平成13年10月に「電子政府・電子自治体推進プログラム」を、平成15年8月に「電子自治体推進指針」を策定し、電子自治体の基盤整備、行政サービスの向上、行政の効率化、地域の課題解決、情報セキュリティの確保に向けた各種の施策を講じてきた。その結果、各団体におけるIT基盤であるホームページや庁内LAN、また、LGWANや住民基本台帳ネットワーク、公的個人認証などの全国的な電子自治体の基盤が整備されるとともに、CIOの任命や電子自治体推進計画等の策定などの庁内推進体制が強化されてきた。また、多くの団体で電子申請、電子入札などの行政サービスのオンライン化が実現し、共同アウトソーシングによる業務・システムの効率化に向けた取組も全国的に展開されてきた。

平成18年、IT戦略本部は、新たなIT国家戦略として「IT新改革戦略－いつでも、どこでも、だれでもITの恩恵を実感できる社会の実現－」を定め、電子行政については、「世界一便利で効率的な電子行政-オンライン申請率50%達成や小さくて効率的な政府の実現－」を図ることが目標とされた。総務省では、これらの戦略・計画を踏まえ、平成18年7月に「電子自治体オンライン利用促進指針」を、平成19年3月には「新電子自治体推進指針」を策定し、地方公共団体におけるオンライン利用促進の取組の推進に取り組んできた。また、平成20年8月にはICT部門の業務継続計画（ICT-BCP）を策定するなど、情報セキュリティ対策の強化にも取り組んだ。

平成22年5月、IT戦略本部は「新たな情報通信技術戦略」を公表し、新たな国民主権の社会を確立するため重点戦略（3本柱）と目標を設定した。同戦略の中で「国民本位の電子行政の実現」が1つの柱とされ、その具体的取組として、自治体クラウドによる情報システムの統合・集約化が位置付けられた。自治体クラウドの導入は行政コストの大幅な圧縮、実質的な業務の標準化の進展等が図られるとともに、災害時の業務継続も図られることから、有効な取組である。総務省においては、地方公共団体がASP・SaaSを導入する際に留意すべき点等を取りまとめたガイドラインの公表（平成22年4月）や自治体クラウド開発実証事業（平成21年～22年）を実施した。

また、平成22年7月末には、自治体クラウドを総合的かつ迅速に展開するため、総務大臣を本部長とする「自治体クラウド推進本部」を設置し、自治体クラウドの全国展開に向けた具体的な検討を行った。その後、平成25年2月には地域の元気創造本部を発足させ、その中でクラウドを活用した官民通じた業務の効率化を目指している。

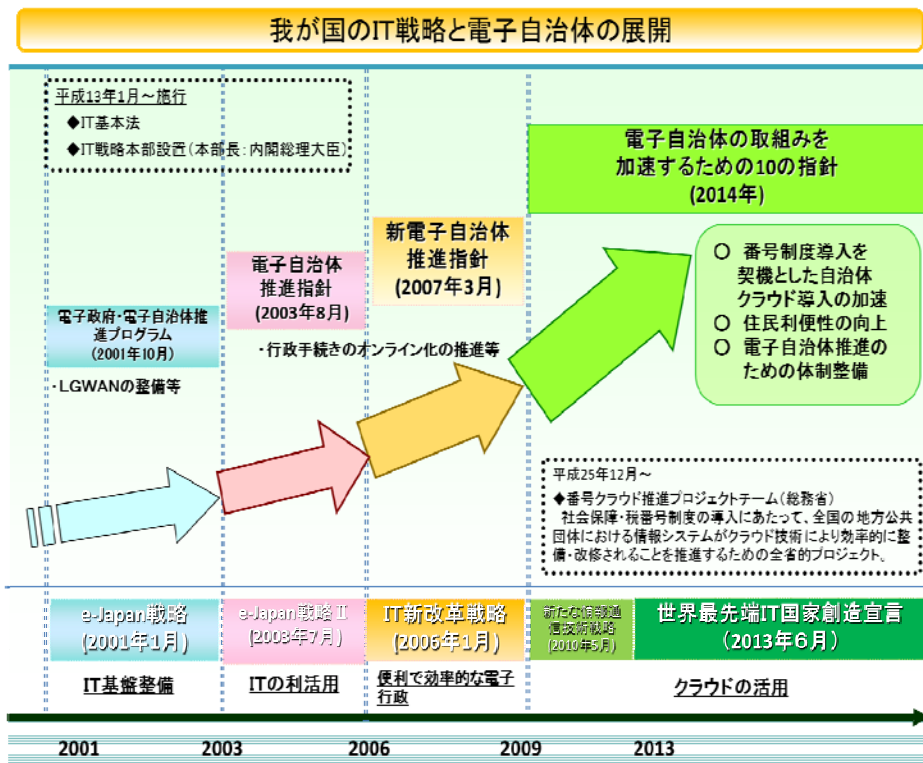
平成23年度からは、地方公共団体における円滑な自治体クラウド導入を支援するため、複数の地方公共団体による情報システムの集約と共同利用に向けた取組に対して特別交付税措置を講じることとした。

また、平成23年3月に発生した東日本大震災を受けて、平成24年1月から「災害に強い電子自治体に関する研究会」を開催し、大災害が発生した場合の地方公共団体の業務継続及び住民へのサービス提供の観点から検討を行い、平成25年5月に地方公共団体におけるICT部門の業務継続計画（ICT-BCP）初動版サンプルほかを公表した。

## 2 近年の電子自治体推進の取組

平成25年5月には、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」等が成立した。また、政府の新たなIT戦略として、平成25年6月に「世界最先端IT国家創造宣言」が閣議決定され、地方公共団体の具体的な取組みとして、自治体クラウドについて、今後4年間を集中取組期間と位置付け、番号制度の導入と併せて共通化・標準化を行いつつ、地方公共団体における取組を加速するとされ、「経済財政運営と改革の基本方針～脱デフレ・経済再生～」(平成25年6月閣議決定)においても、自治体クラウドの取組を加速させることとされた。

総務省では、これらの戦略等を受けて7年ぶりに電子自治体推進指針である「電子自治体の取組みを加速するための10の指針」を策定した。これまでの指針がICTの進展や動向等について広く地方公共団体に情報提供することを目的の一つとしていたのに対し、「電子自治体の取組みを加速するための10の指針」は、「世界最先端IT国家創造宣言」を踏まえた番号制度の導入に併せた自治体クラウド導入の加速を最優先課題と位置付け、行政情報システムの改革に関して地方公共団体に期待される具体的な取組みを提示することに重点を置いた。



## 3 本書の概要

このような背景の下、本書は、地方公共団体における行政情報化の推進状況について、都道府県47団体、市区町村1,742団体を対象に実施した調査の結果を平成25年4月1日現在の状況として取りまとめたものである。なお、当概要及びそれぞれの調査項目の個別データ（一部を除く。）については総務省のホームページに掲載しているので、適宜参考にされたい。

## II 調査結果

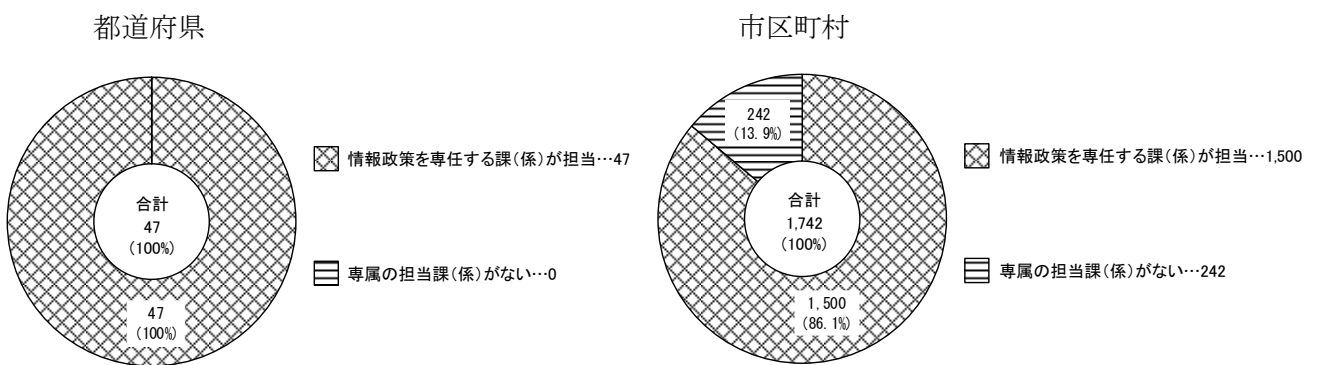
### 第1節 電子自治体の推進体制等

#### 1 電子自治体の推進体制

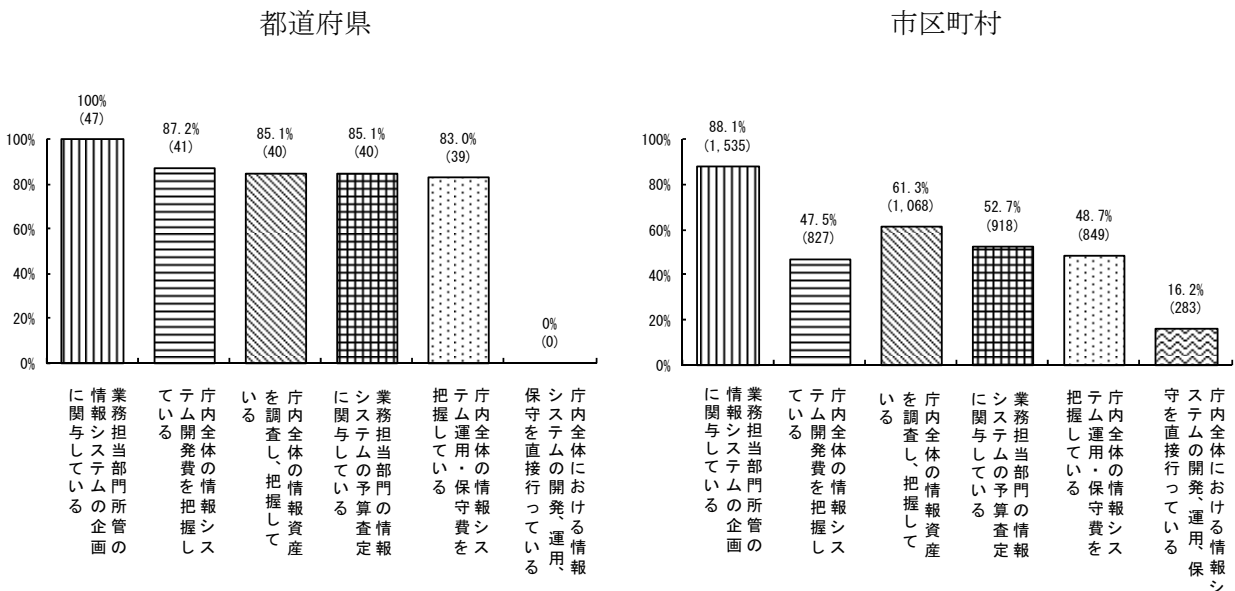
電子自治体の推進について、情報主管課（係）が担当しているのは、都道府県では全団体、市区町村では1,500団体（86.1%）であった（第1図）。

情報主管課（係）の役割として、「業務担当部門所管の情報システムの企画に参与している」ものが最も多く、都道府県では全団体、市区町村では1,535団体（88.1%）であった（第2図）。

第1図 電子自治体の推進体制



第2図 情報主管課（係）の役割（複数回答）

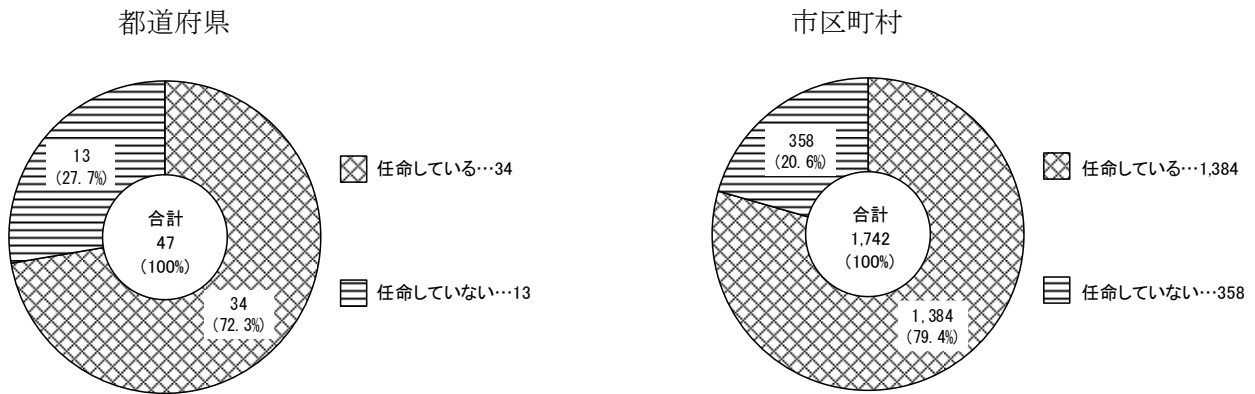


## 2 C I O（情報化統括責任者）の任命

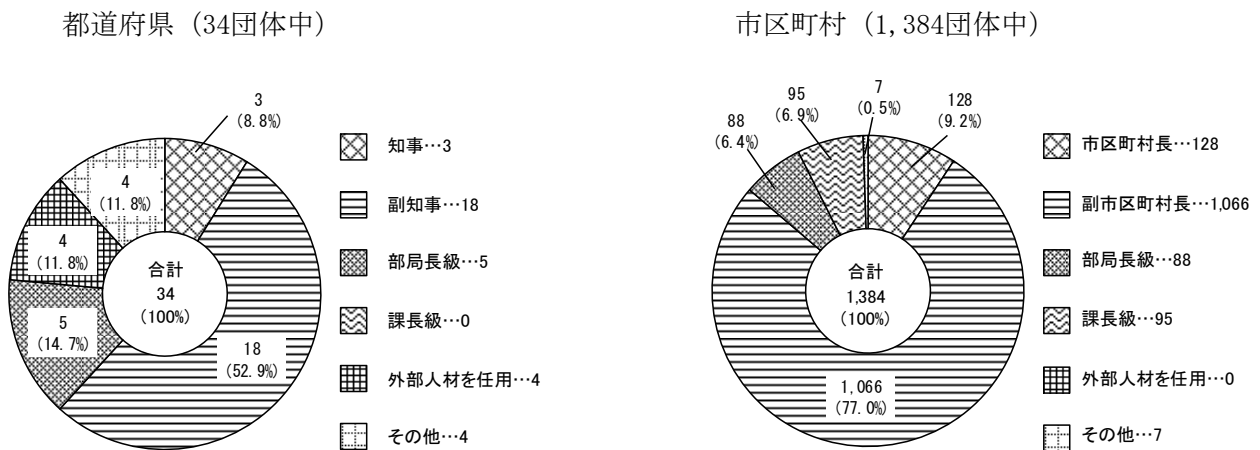
C I O（情報化統括責任者）については、都道府県では34団体（72.3%）、市区町村では1,384団体（79.4%）が任命している（第3図）。また、C I Oの役職は、都道府県では副知事が18団体（52.9%）と最も多く、市区町村においても副市区町村長が1,066団体（77.0%）と最も多かった（第4図）。

また、C I Oの役割については、「情報システム関係の企画に参与している」ものが都道府県19団体（55.9%）、市区町村737団体（53.3%）と最も多かったが、他の項目と大きな差はなかった（第5図）。

第3図 C I Oの任命の有無



第4図 C I Oの役職

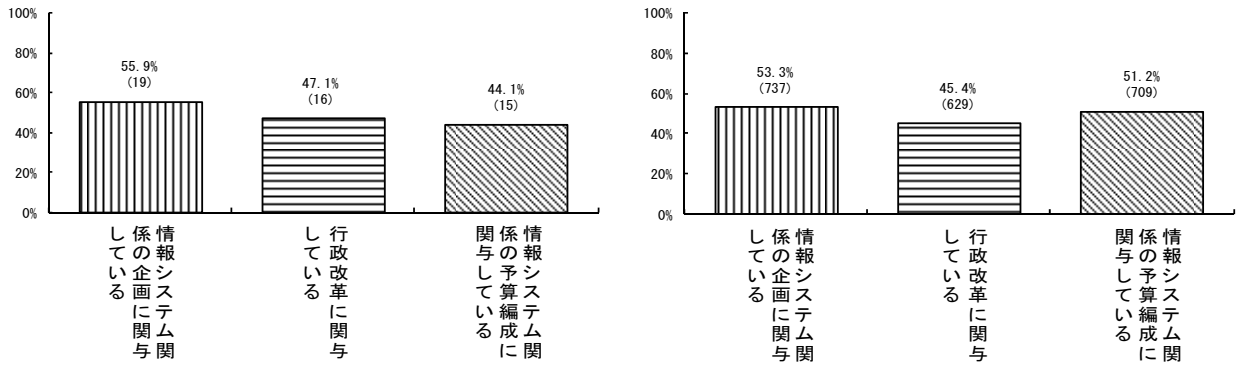




第5図 C I Oの役割等（複数回答）

都道府県（34団体中）

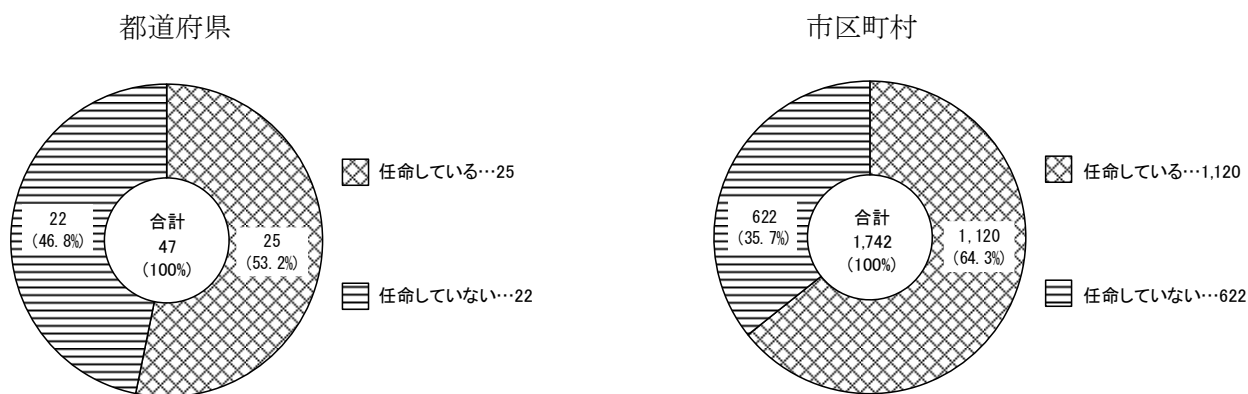
市区町村（1,384団体中）



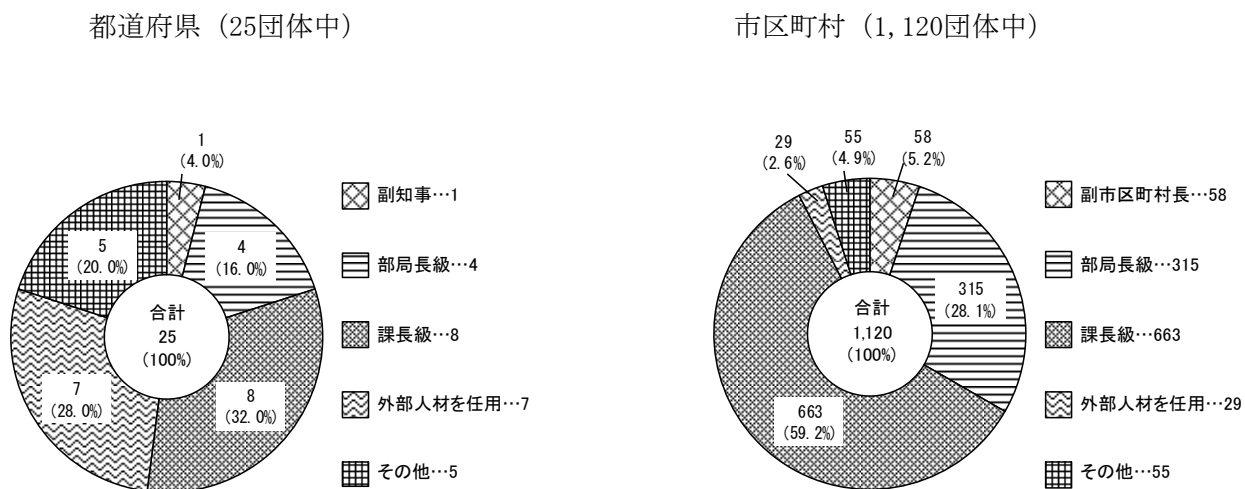
### 3 C I O補佐官（ネットワーク管理者を含む）の任命

C I O補佐官については、都道府県では25団体（53.2%）、市区町村では1,120団体（64.3%）が任命している（第6図）。また、C I O補佐官の役職については、都道府県では課長級が8団体（32.0%）と最も多く、市区町村においても課長級が663団体（59.2%）と最も多かった（第7図）。

第6図 C I O補佐官の任命の有無



第7図 C I O補佐官の役職

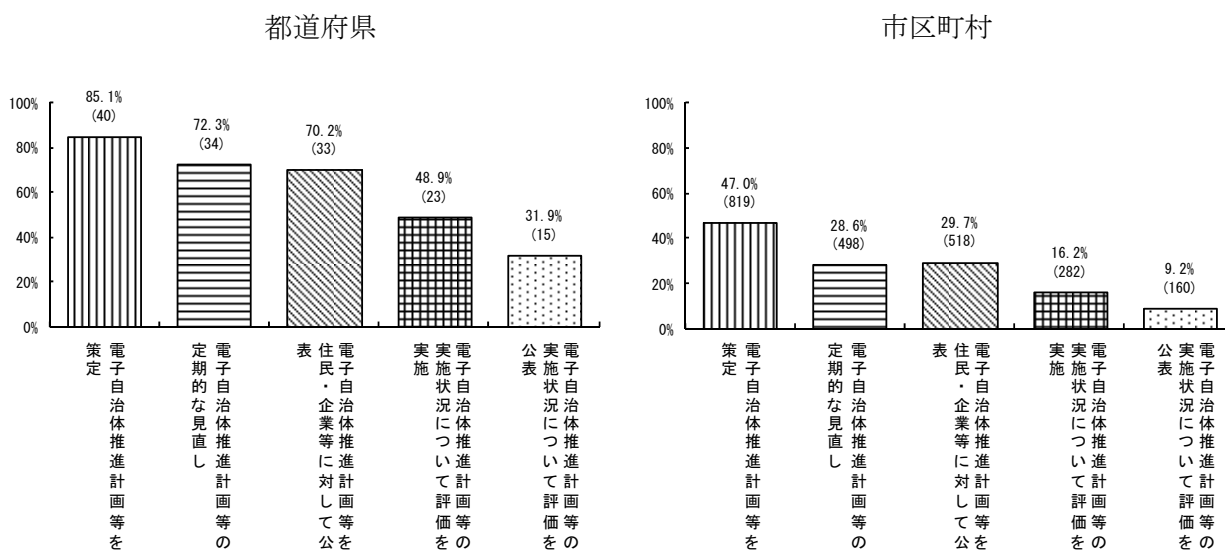


#### 4 電子自治体推進計画等の策定等

「電子自治体推進計画等を策定」している団体は、都道府県では40団体（85.1%）、市区町村では819団体（47.0%）であった。

また、「電子自治体推進計画等を住民・企業等に対して公表」している団体は、都道府県では33団体（70.2%）、市区町村では518団体（29.7%）であり、「電子自治体推進計画等の定期的な見直し」を行っている団体は、都道府県では34団体（72.3%）、市区町村では498団体（28.6%）であった。

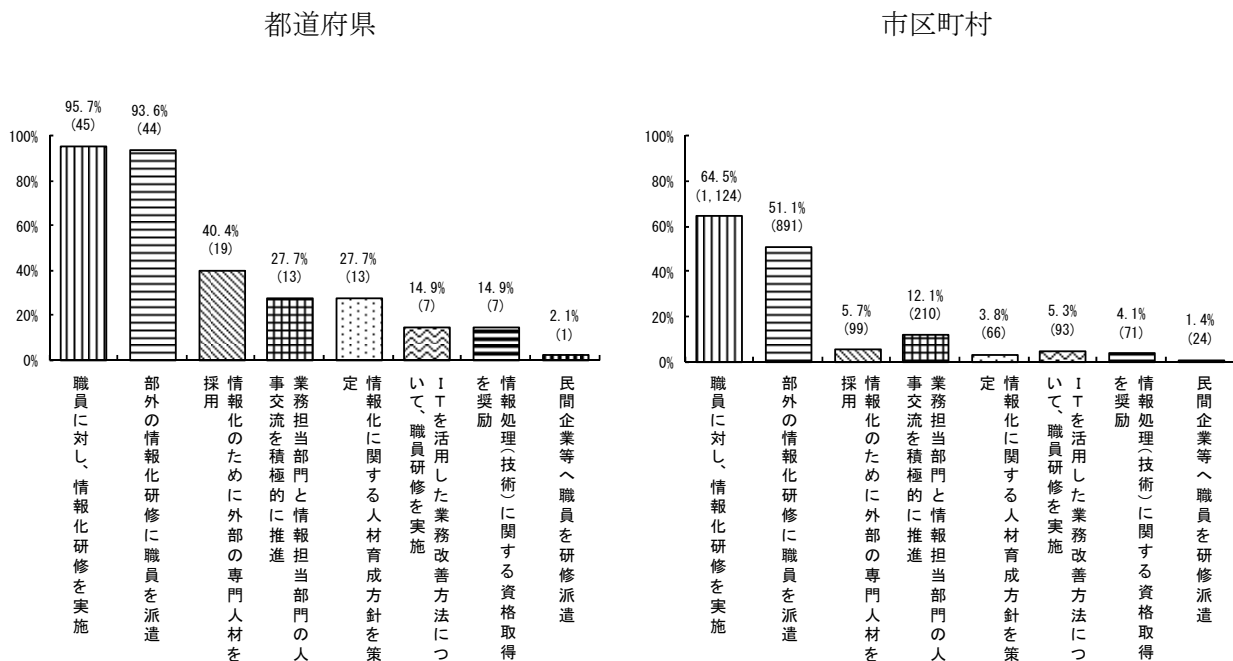
第8図 電子自治体推進計画等の策定等（複数回答）



## 5 情報化についての職員の人材育成等

「職員に対し、情報化研修を実施している」団体は、都道府県では45団体（95.7%）、市区町村では1,124団体（64.5%）であった。また、「部外の情報化研修に職員を派遣」している団体は、都道府県では44団体（93.6%）、市区町村では891団体（51.1%）であった。

第9図 情報化についての職員の人材育成等の実施状況（複数回答）



## 6 情報主管課の職員・要員数

情報主管課の職員数は、都道府県では1,202人、市区町村では9,725人であった。

また、外部委託等による要員人員のうち、常駐要員は都道府県では478人、市区町村では2,125人であった。

第1表 情報主管課の職員・要員数

	所属職員人数	外部委託等による要員人数	外部委託等による要員人数のうち常駐要員
都道府県	1,202	703	478
市区町村	9,725	3,586	2,125
総数	10,927	4,289	2,603

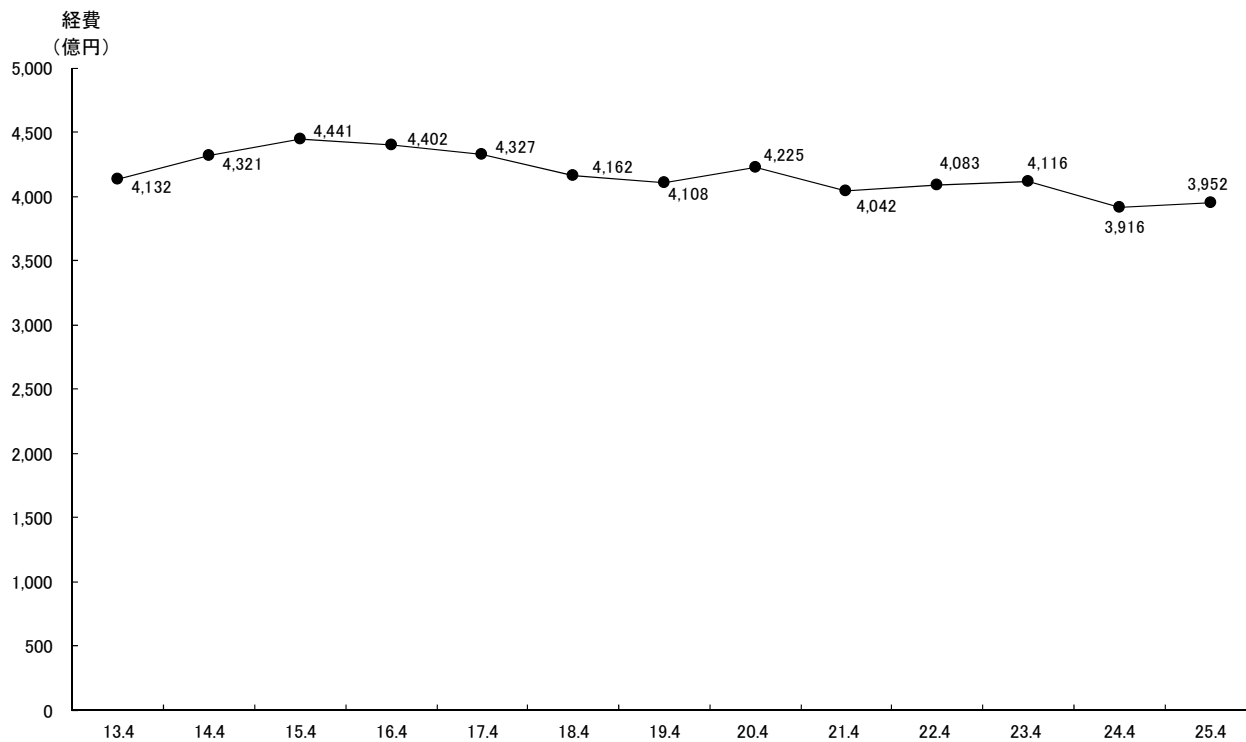
所属職員人数・・・各地方公共団体において採用された職員であり、行政情報化担当課に所属する職員

外部委託等による要員人数・・・各地方公共団体において、外部委託等により業務を委託し、当該業務を処理するために民間企業等から派遣された者

## 7 情報主管課の経費

情報主管課における経費は、都道府県540億円、市区町村3,412億円で合計3,952億円であった。

第10図 情報主管課の経費の状況



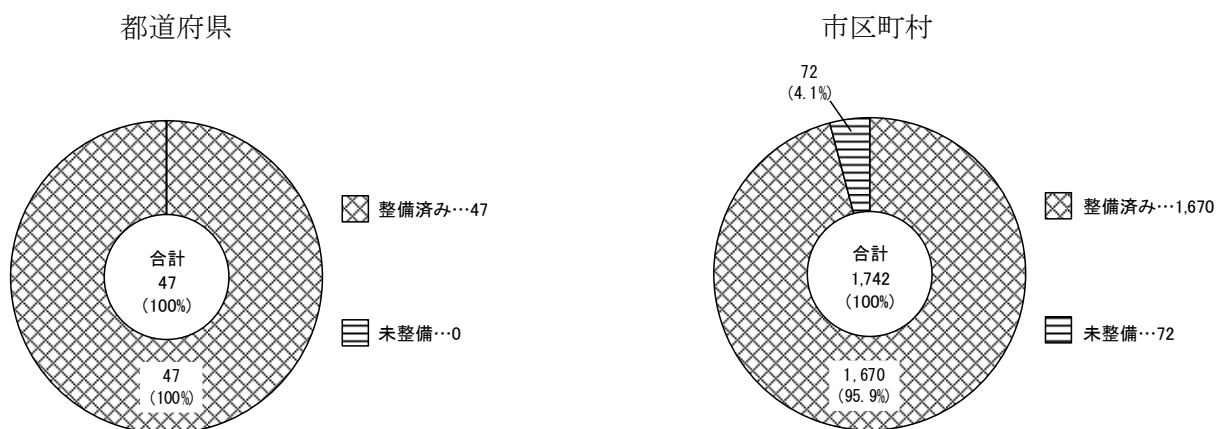
## 第2節 電子自治体の基盤の整備

### 1 機器構成及び市内LANの整備

知事・市長部局（本庁舎）において、一人一台パソコンが整備されている団体は、都道府県では全団体、市区町村では1,670団体（95.9%）であった。

#### (1) 一人一台パソコンの整備状況

第11図 一人一台パソコンの整備状況



(2) 庁内LANの整備状況

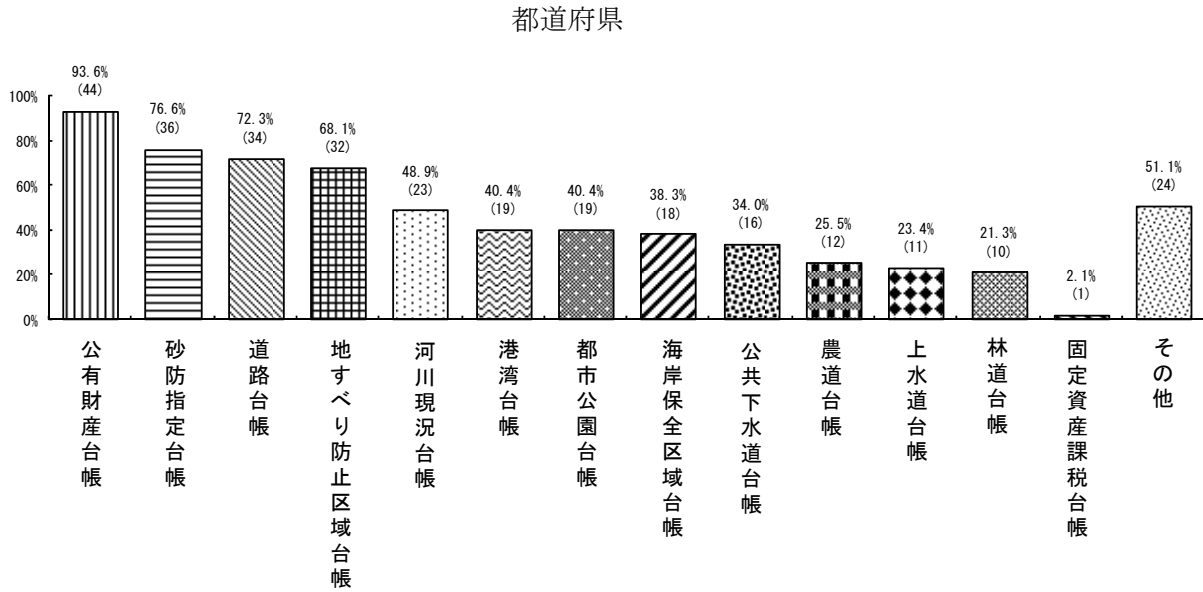
第2表 庁内LANの整備状況

項目	団体区分		市区町村											合計		
	都道府県		特別区		政令指定都市		市 (政令指定都市を除く)		町村		小計					
団体数	47		23		20		769		930		1,742		1,789			
運用団体数	47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	769	100.0%	929	99.9%	1,741	99.9%	1,788	99.9%		
外部接続	外部接続の有無		47	100.0%	23	100.0%	19	95.0%	761	99.0%	920	98.9%	1,723	98.9%	1,770	98.9%
	外部接続先	インターネット	46	97.9%	23	100.0%	19	95.0%	744	96.7%	879	94.5%	1,665	95.6%	1,711	95.6%
		団体内公共施設	36	76.6%	17	73.9%	16	80.0%	692	90.0%	758	81.5%	1,483	85.1%	1,519	84.9%
		その他	6	12.8%	0	0.0%	4	20.0%	123	16.0%	137	14.7%	264	15.2%	270	15.1%
LANの機能	イントラネット		47	100.0%	22	95.7%	20	100.0%	763	99.2%	852	91.6%	1,657	95.1%	1,704	95.2%
	電子メール		47	100.0%	22	95.7%	20	100.0%	769	100.0%	915	98.4%	1,726	99.1%	1,773	99.1%
	電子掲示板		47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	748	97.3%	820	88.2%	1,611	92.5%	1,658	92.7%
	スケジュール管理		46	97.9%	23	100.0%	20	100.0%	753	97.9%	856	92.0%	1,652	94.8%	1,698	94.9%
	施設等管理		45	95.7%	21	91.3%	19	95.0%	669	87.0%	731	78.6%	1,440	82.7%	1,485	83.0%
	文書管理		42	89.4%	20	87.0%	20	100.0%	458	59.6%	423	45.5%	921	52.9%	963	53.8%
	電子会議		35	74.5%	8	34.8%	12	60.0%	285	37.1%	243	26.1%	548	31.5%	583	32.6%
	電子決裁		40	85.1%	20	87.0%	20	100.0%	293	38.1%	151	16.2%	484	27.8%	524	29.3%
	ファイルの共有		47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	768	99.9%	912	98.1%	1,723	98.9%	1,770	98.9%
	プリンタの共有		47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	765	99.5%	925	99.5%	1,733	99.5%	1,780	99.5%
	VoIP対応		12	25.5%	8	34.8%	7	35.0%	306	39.8%	202	21.7%	523	30.0%	535	29.9%
	会議室予約		47	100.0%	23	100.0%	19	95.0%	754	98.0%	821	88.3%	1,617	92.8%	1,664	93.0%
	GIS		32	68.1%	18	78.3%	18	90.0%	520	67.6%	356	38.3%	912	52.4%	944	52.8%
その他		6	12.8%	7	30.4%	4	20.0%	75	9.8%	45	4.8%	131	7.5%	137	7.7%	
運用管理状況	システム管理者		47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	742	96.5%	841	90.4%	1,626	93.3%	1,673	93.5%
	ファイアーウォール		47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	757	98.4%	897	96.5%	1,697	97.4%	1,744	97.5%
	運用管理規程		45	95.7%	23	100.0%	19	95.0%	639	83.1%	600	64.5%	1,281	73.5%	1,326	74.1%
	障害時マニュアル		46	97.9%	22	95.7%	19	95.0%	465	60.5%	407	43.8%	913	52.4%	959	53.6%
	利用者研修		44	93.6%	23	100.0%	20	100.0%	645	83.9%	575	61.8%	1,263	72.5%	1,307	73.1%
	ウィルス対策		47	100.0%	23	100.0%	20	100.0%	768	99.9%	926	99.6%	1,737	99.7%	1,784	99.7%
	運用管理体制	自己	0	0.0%	1	4.3%	0	0.0%	163	21.2%	215	23.1%	379	21.8%	379	21.2%
		委託	11	23.4%	1	4.3%	4	20.0%	50	6.5%	96	10.3%	151	8.7%	162	9.1%
併用		36	76.6%	21	91.3%	16	80.0%	556	72.3%	618	66.5%	1,211	69.5%	1,247	69.7%	
庁内LANの支所との接続	全ての支所と接続		45	95.7%	22	95.7%	18	90.0%	641	83.4%	455	48.9%	1,136	65.2%	1,181	66.0%
	一部の支所のみ接続		1	2.1%	1	4.3%	2	10.0%	42	5.5%	89	9.6%	134	7.7%	135	7.5%
	支所と接続していない		0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	0.5%	20	2.2%	24	1.4%	24	1.3%
	支所がない		1	2.1%	0	0.0%	0	0.0%	82	10.7%	365	39.2%	447	25.7%	448	25.0%

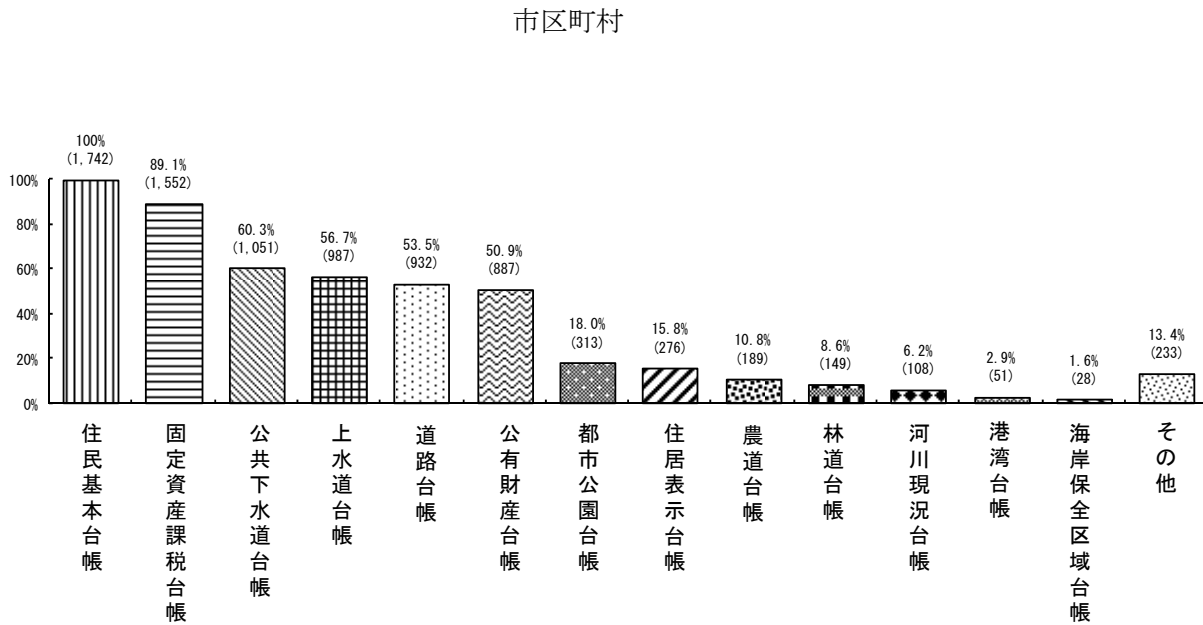
## 2 台帳の電子化

各種台帳の電子化については、都道府県では公有財産台帳が44団体（93.6%）、道路台帳が34団体（72.3%）で電子化されており、市区町村では住民基本台帳が1,742団体（100%）、固定資産課税台帳が1,552団体（89.1%）で電子化されている。

第12-1図 電子化されている台帳



第12-2図 電子化されている台帳



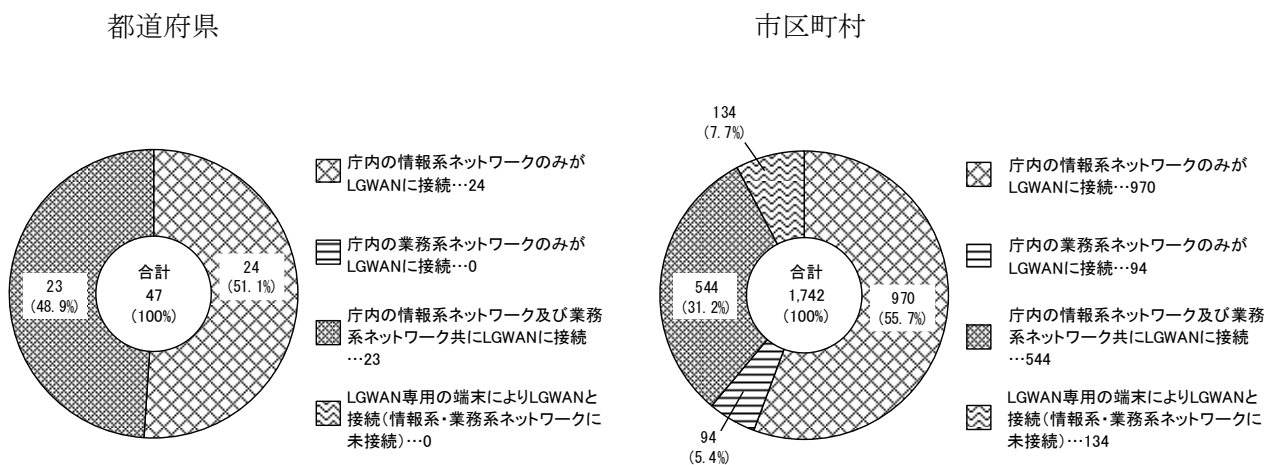


### 3 LGWANとの接続形態

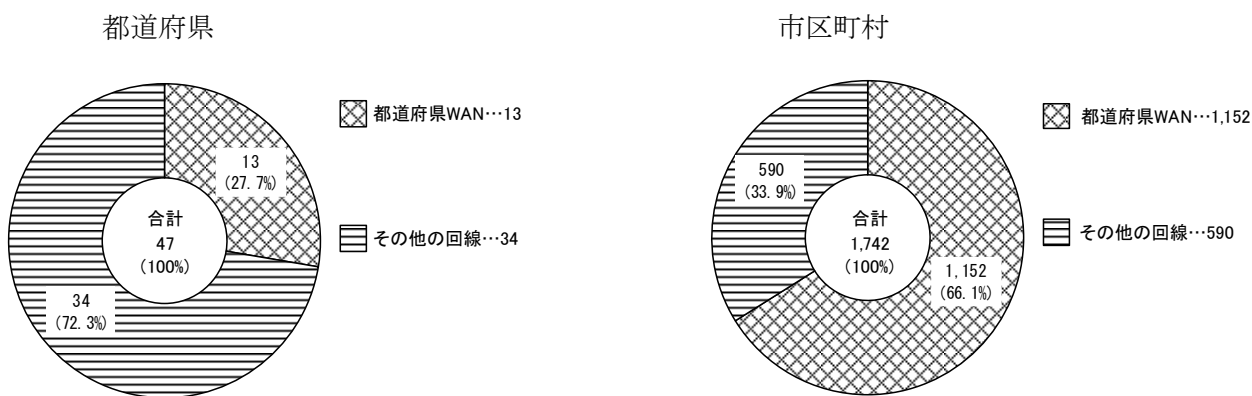
LGWANとの接続形態については「庁内の情報系ネットワークのみが接続」が都道府県では24団体(51.1%)、市区町村では970団体(55.7%)と最も多く、次に「庁内の情報系ネットワーク及び業務系ネットワーク共に接続」が都道府県では23団体(48.9%)、市区町村では544団体(31.2%)であった(第13図)。

また、今後のアクセス回線の増強の予定がある団体は都道府県では1団体(2.1%)、市区町村では192団体(11.0%)であった(第16図)。

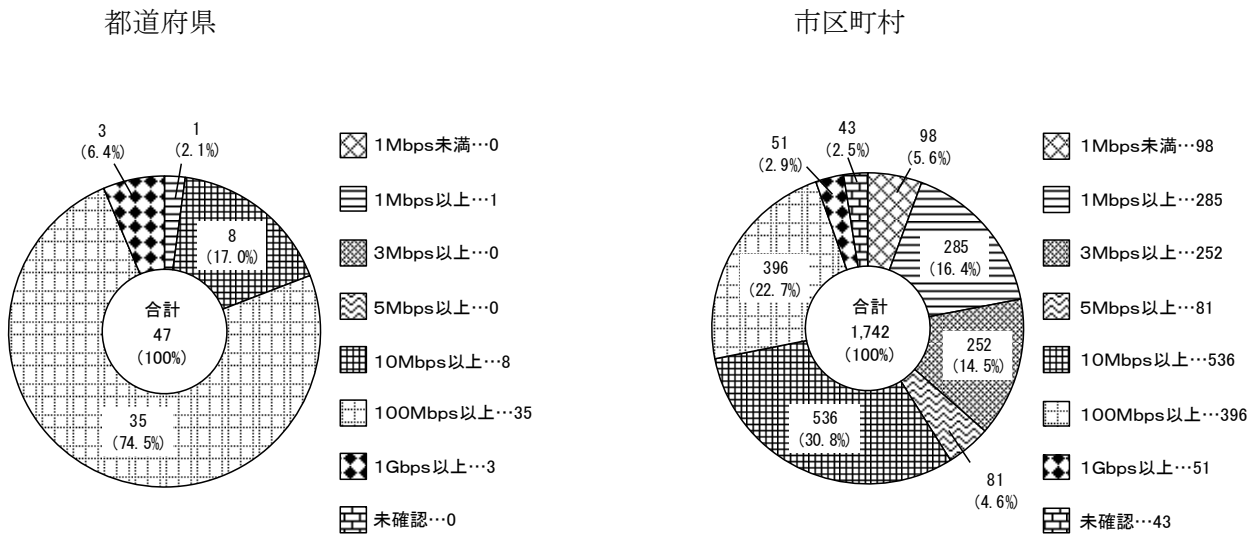
第13図 LGWANとの接続形態



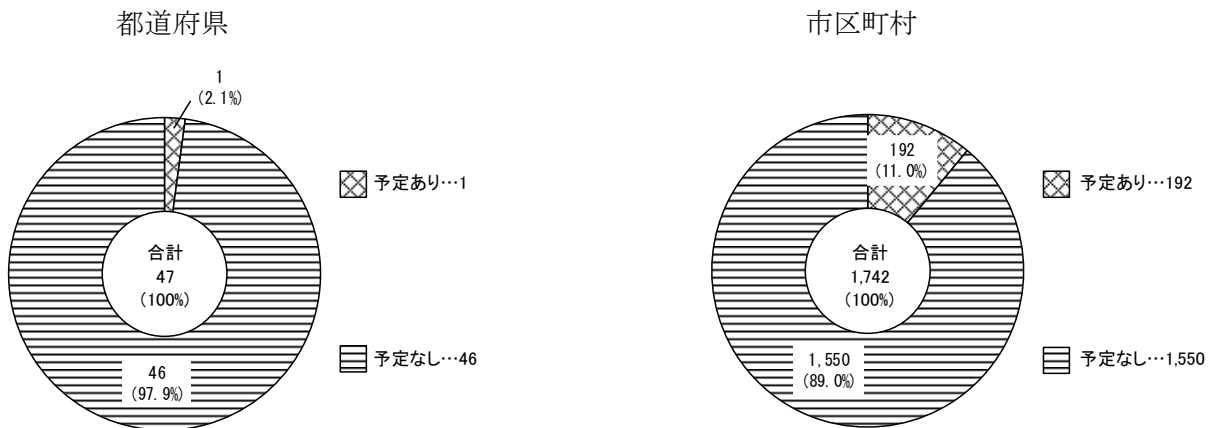
第14図 LGWANアクセス回線の種類



第15図 LGWANアクセス回線の回線速度



第16図 今後のLGWANアクセス回線の増強の予定

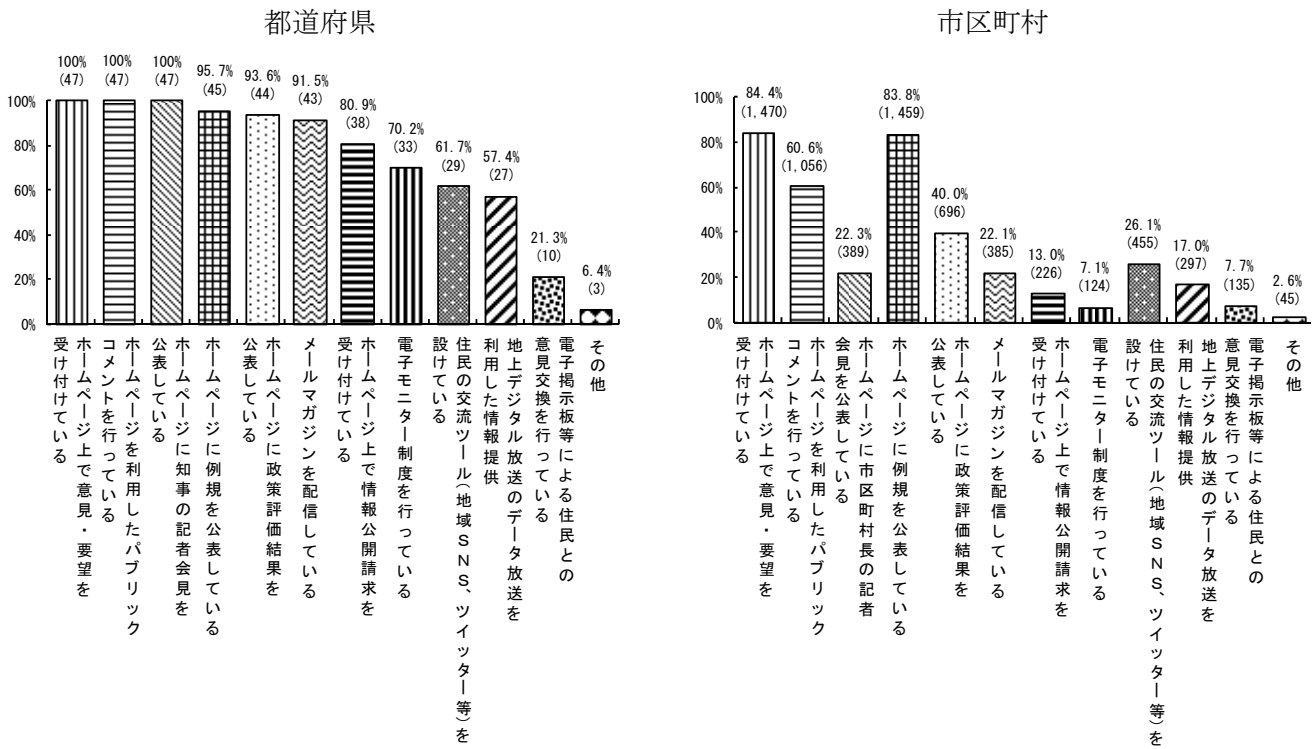


### 第3節 行政サービスの向上・高度化

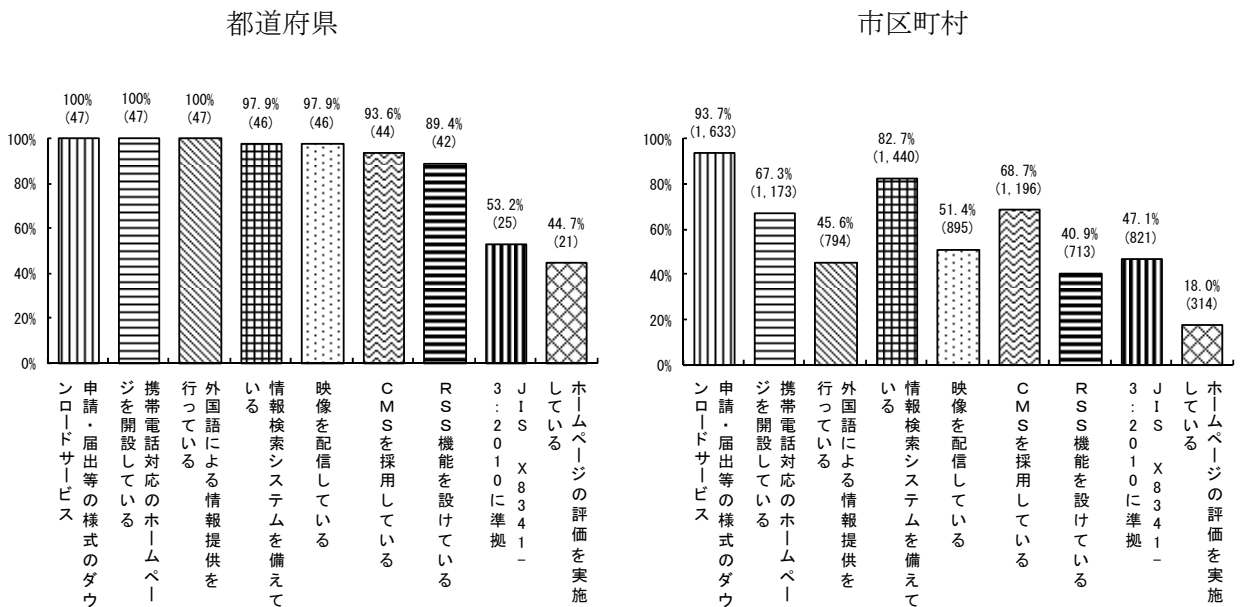
#### 1 ホームページ等の状況

ホームページは、都道府県・市区町村ともに全団体が開設している。

第17図 ホームページ等での住民参画や行政の透明性確保（複数回答）

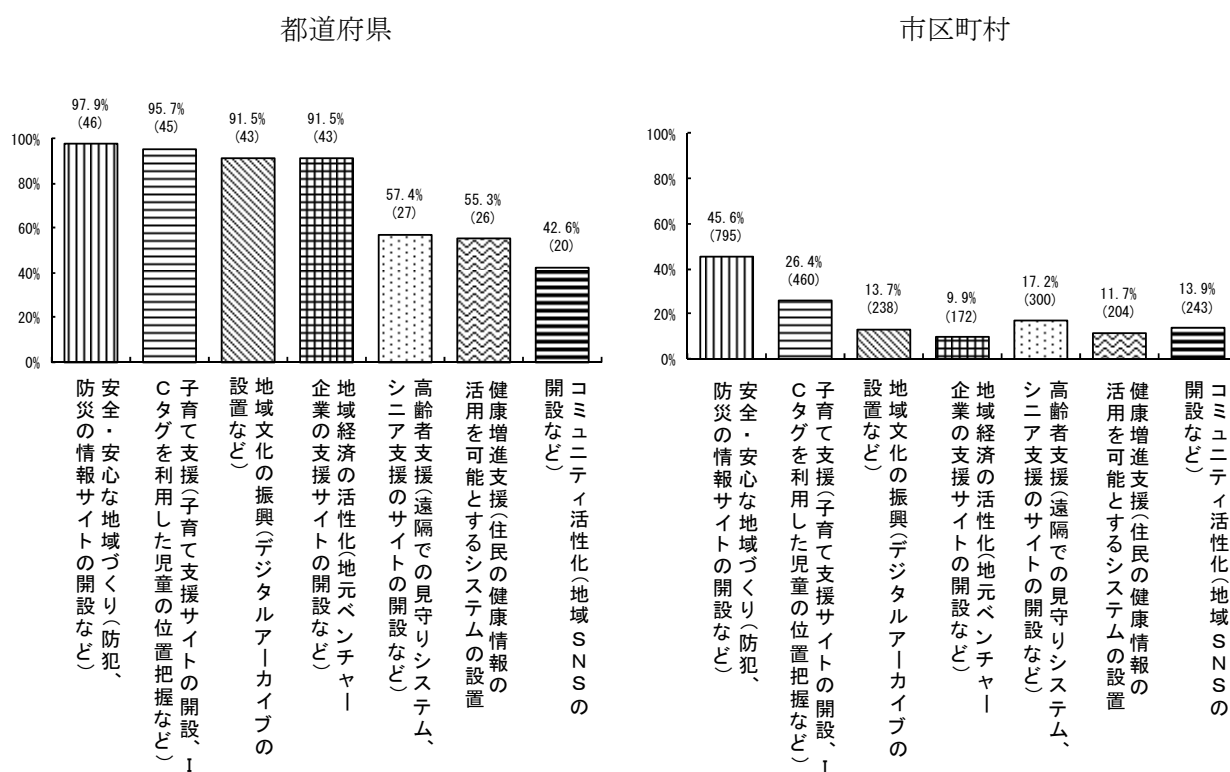


第18図 ホームページの機能等（複数回答）



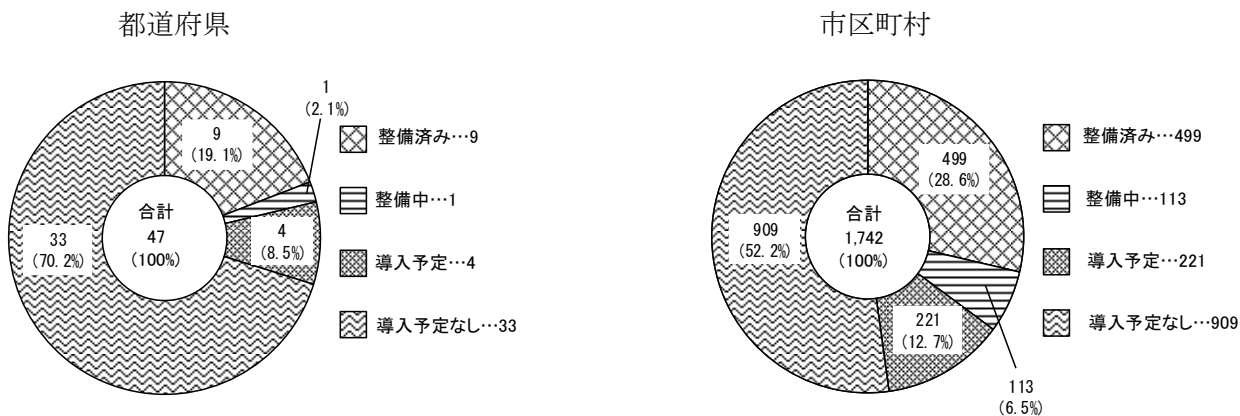
## 2 ICTを活用した地域の課題解決への取組状況

第19図 ICTを活用した地域の課題解決への取組状況（複数回答）

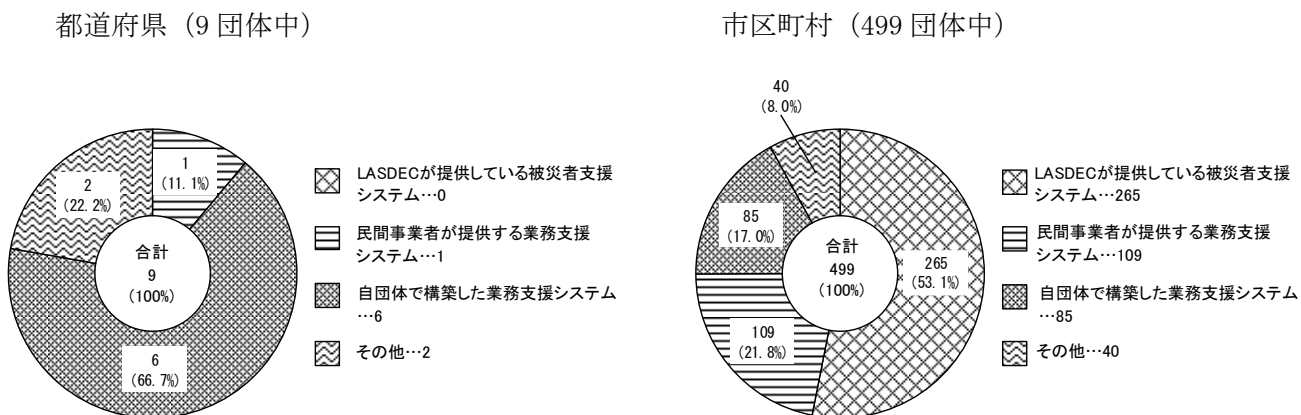


3 「災害時の被災者情報管理」業務システムの整備状況

第20図 「災害時の被災者情報管理」業務システムの整備状況



第21図 「災害時の被災者情報管理」業務システムの種類

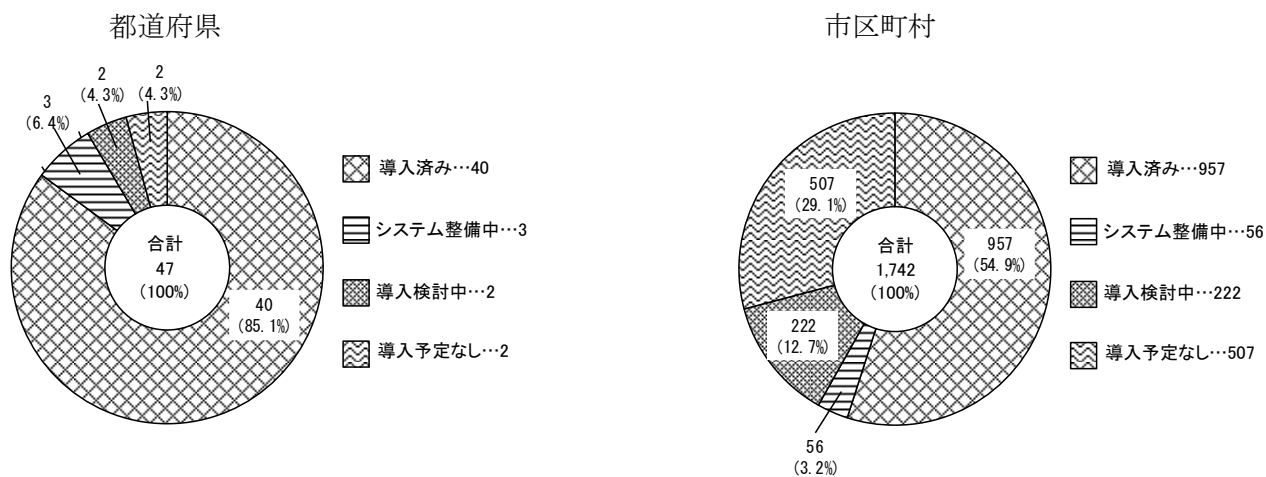


#### 4 災害情報伝達手段の整備状況

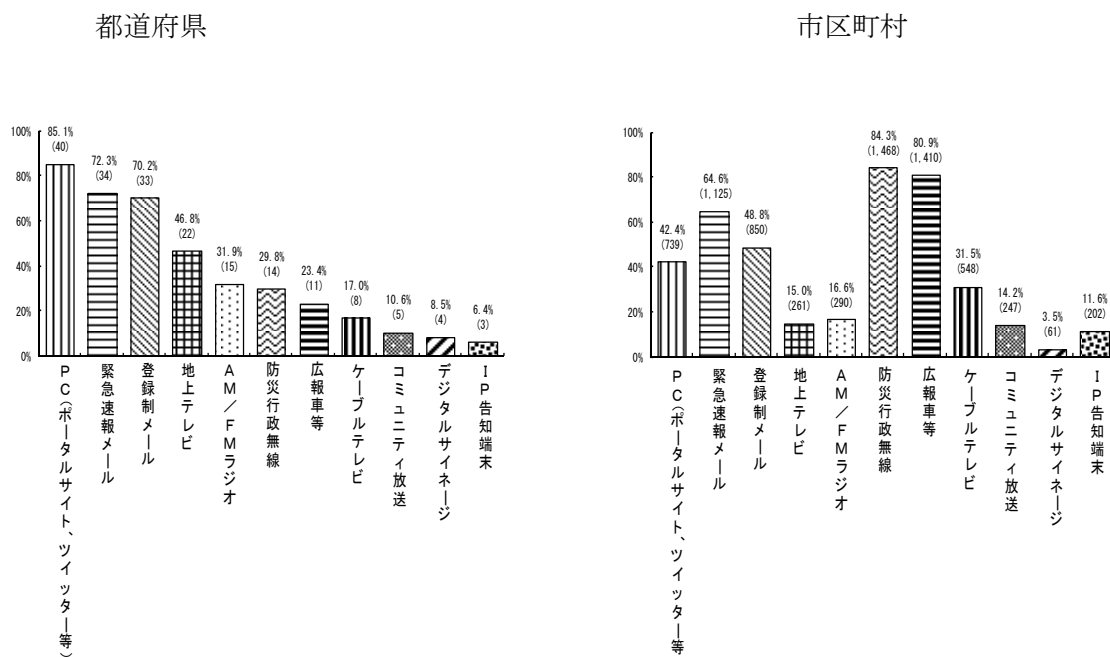
防災情報システムを導入済みの団体は、都道府県では40団体（85.1%）、市区町村では957団体（54.9%）であった。（第22図）。

また、公共情報commonsを導入済みの団体は、都道府県では12団体（25.5%）、市区町村では245団体（14.1%）であった。（第24図）。

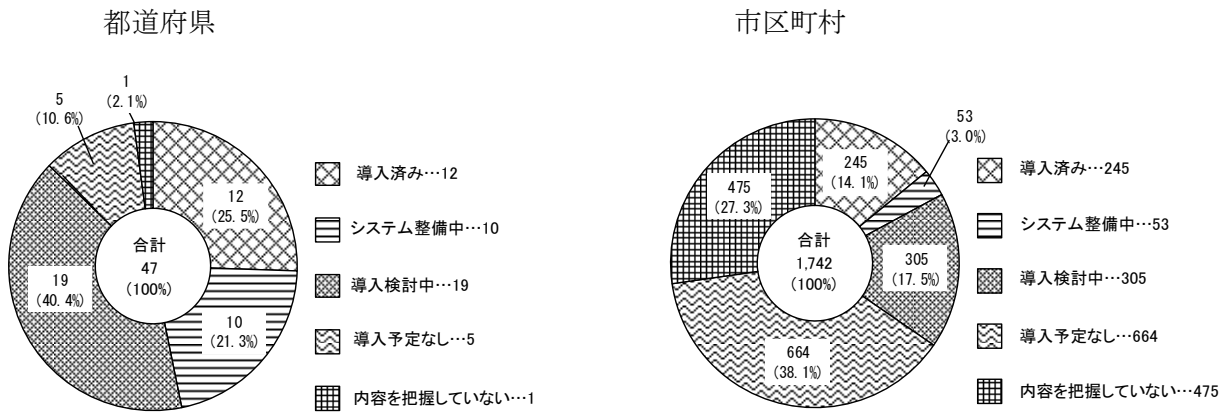
第22図 防災情報システムの導入状況



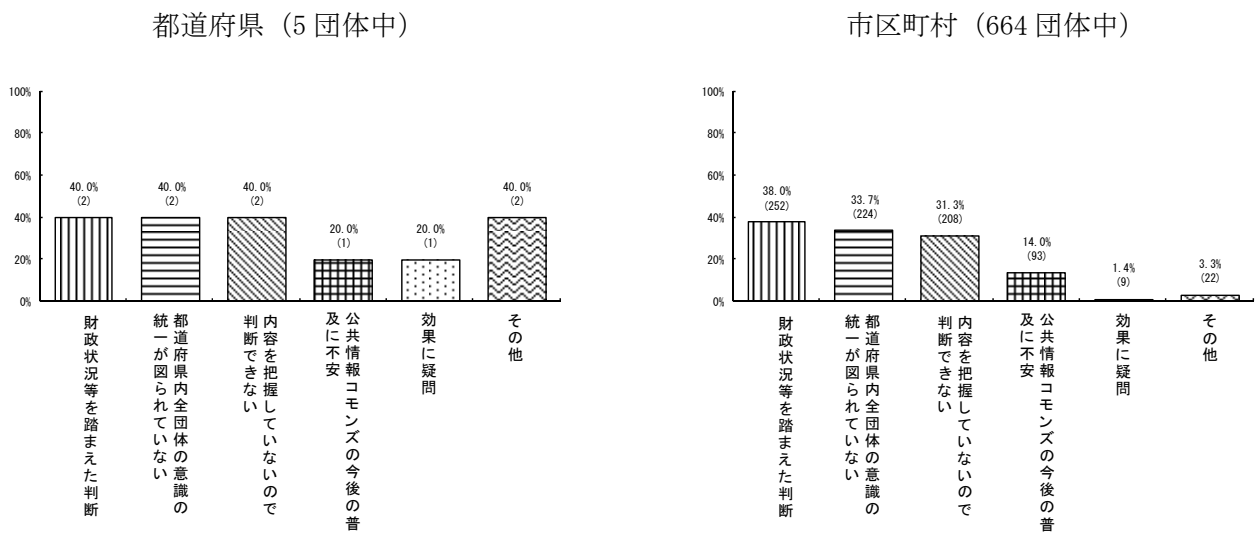
第23図 住民への災害情報伝達手段の導入状況(複数回答)



第 24 図 公共情報コモンズの取組状況



第 25 図 公共情報コモンズの取組について妨げとなっている原因(複数回答)



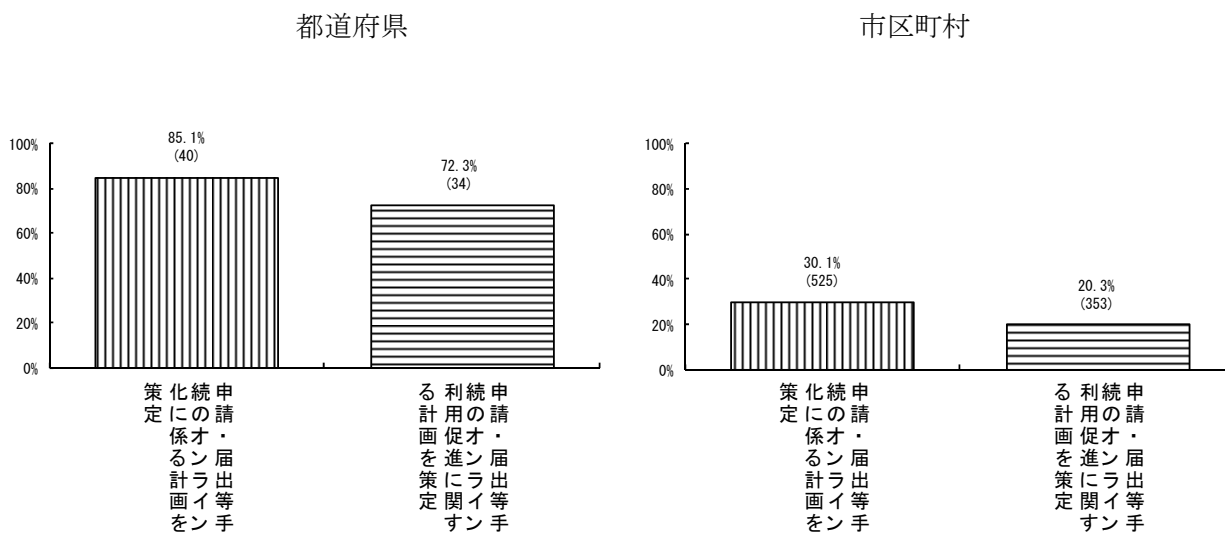
## 5 行政手続のオンライン化の推進状況

### (1) 行政手続のオンライン化計画及びオンライン利用促進計画の策定状況

行政手続のオンライン化実現に関する計画を策定している団体は、都道府県では40団体(85.1%)、市区町村では525団体(30.1%)であった。

なお、オンライン利用促進に関する計画を策定している団体は、都道府県では34団体(72.3%)、市区町村では353団体(20.3%)であった。

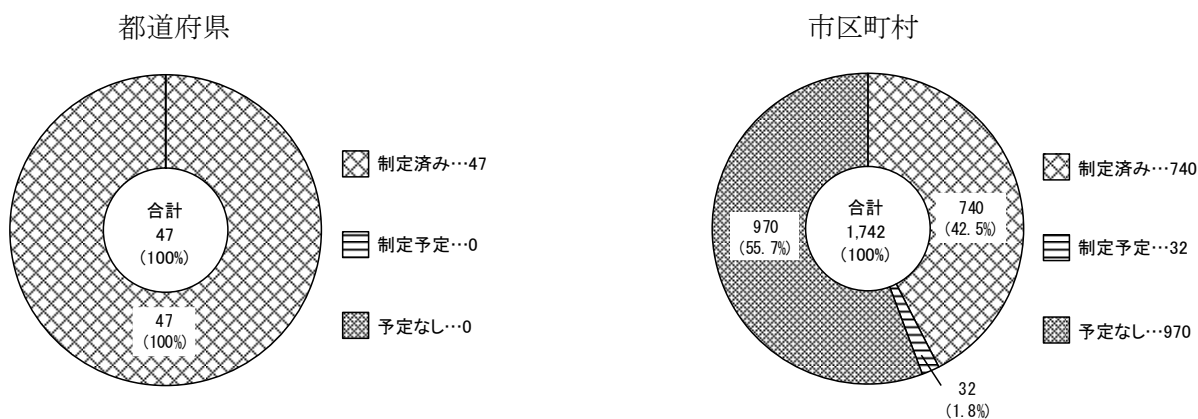
第26図 行政手続のオンライン化に関する計画の策定状況（複数回答）



### (2) 行政手続をオンライン化するための通則条例の制定

行政手続をオンライン化するための通則条例を制定済みの団体は、都道府県では全団体、市区町村では740団体(42.5%)であった。

第27図 通則条例の制定状況

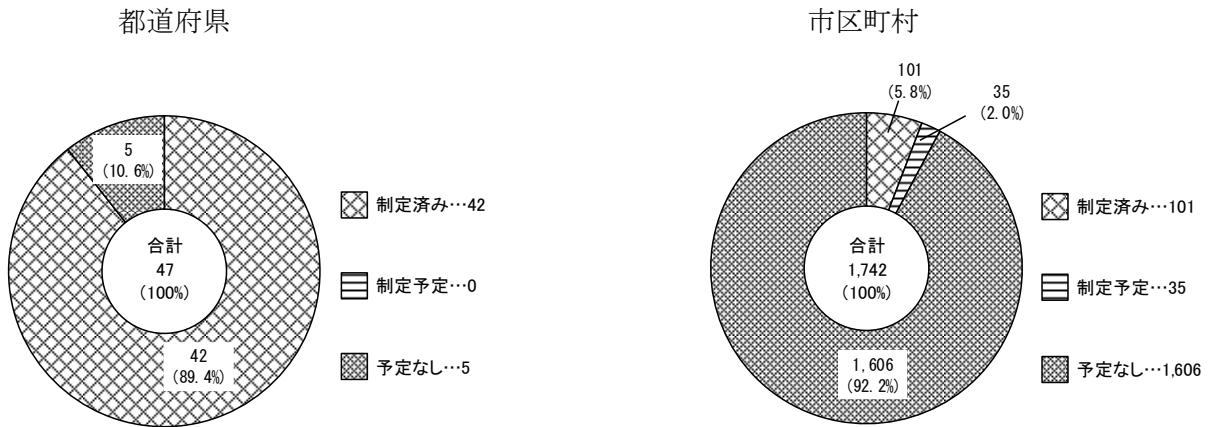




(3) e-文書条例の制定

e-文書条例を制定済みの団体は、都道府県においては42団体（89.4%）、市区町村においては101団体（5.8%）であった。また、市区町村においては35団体（2.0%）が、平成25年度以降の制定を予定している。

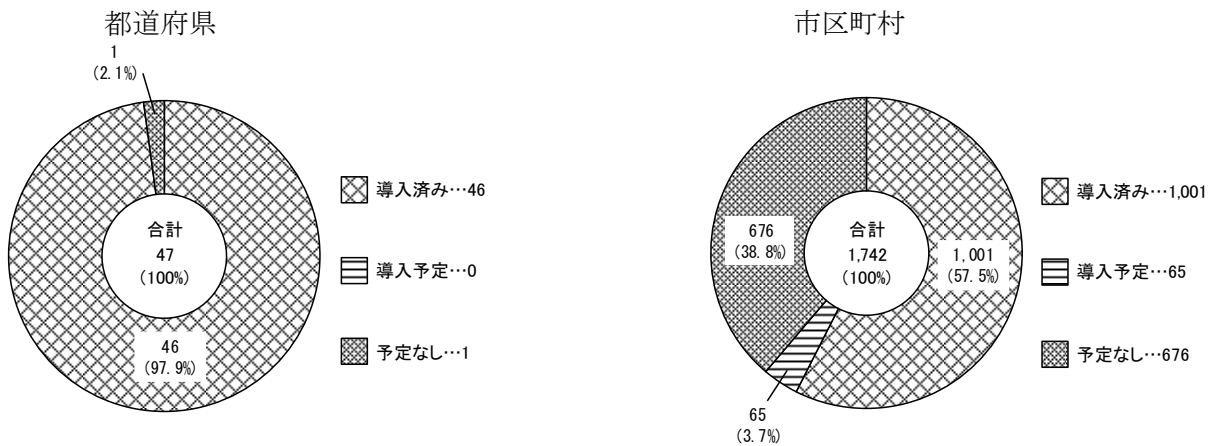
第28図 e-文書条例の制定状況



(4) 行政手続をオンライン化するためのシステムの導入

申請・届出等手続をオンライン化するためのシステムを導入している団体は、都道府県においては46団体（97.9%）、市区町村においては1,001団体（57.5%）であった。

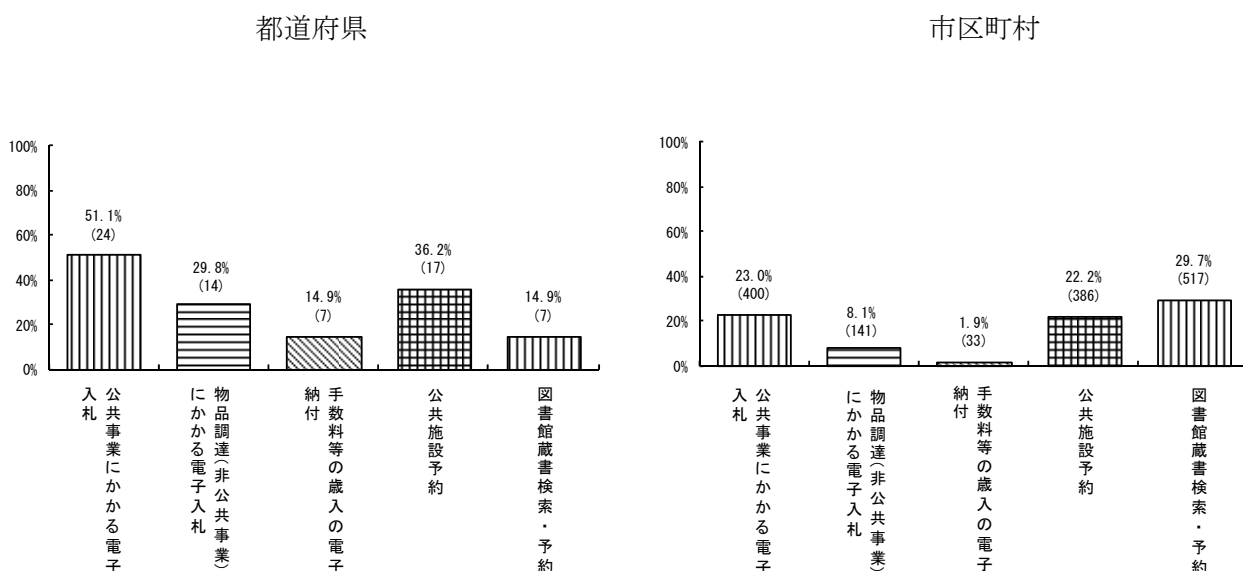
第29図 申請・届出等手続をオンライン化するためのシステムの導入状況



(5) 行政手続の各種オンラインシステムにおけるASP・SaaSの利用

各種オンラインシステムにおけるASP・SaaSの利用状況は、都道府県では、「公共事業にかかる電子入札」が24団体(51.1%)、市区町村では、「図書館蔵書検索・予約」517団体(29.7%)と最も多かった。

第30図 各種オンラインシステムにおけるASP・SaaSの利用



(6) オンライン利用実績

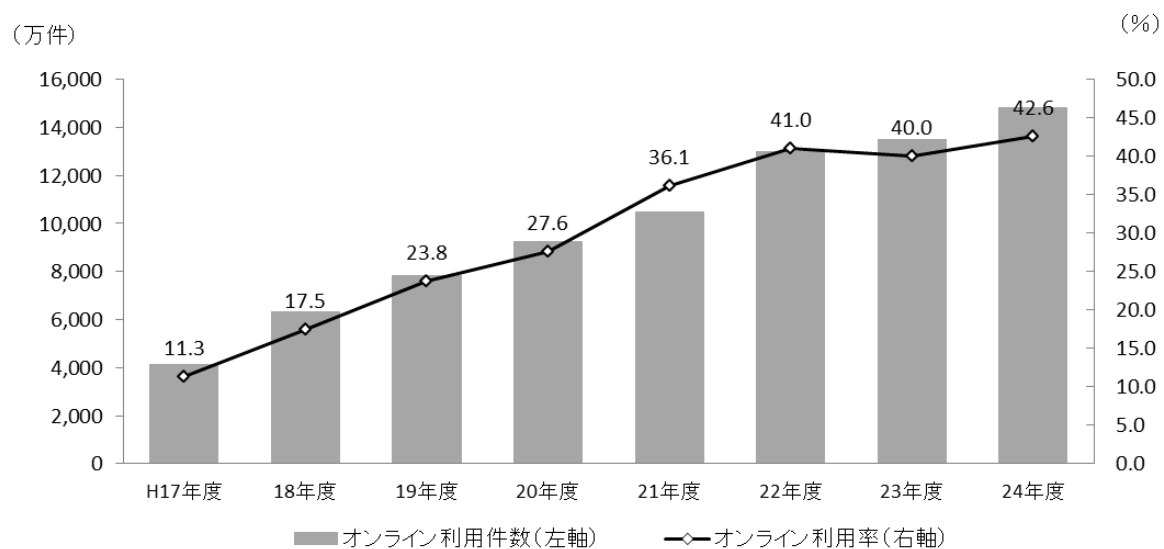
オンライン利用促進対象手続(総務省が平成18年7月に定めた「電子自治体オンライン利用促進指針」において選定)の平成24年度のオンライン利用率は、42.6%である。

第3-1表 オンライン利用実績

手続の類型		年間総手続件数 (単位: 万件)	オンライン利用率
1	図書館の図書貸出予約等	1億3,403	56.1%
2	文化・スポーツ施設等の利用予約等	8,966	55.4%
3	粗みどり収集の申込	2,648	5.6%
4	水道使用開始届等	1,246	3.1%
5	地方税中告子続(eLTAX)	7,016	26.5%
6	入札参加資格審査申請等	231	32.5%
7	道路占用許可申請等	177	10.9%
8	研修・講習・各種イベント等の申込	377	16.6%
9	浄化槽使用開始報告等	35	1.1%
10	入札	115	49.0%
11	産業廃棄物の処理、運搬の実績報告等	69	1.4%
12	犬の登録申請、死亡届等	150	0.2%
13	自動車税住所変更届等	102	8.6%
14	港湾関係手続	118	34.6%
15	職員採用試験申込	82	33.6%
16	公文書開示請求	78	9.9%
17	感染症調査報告等	63	6.7%
18	食品営業関係の届出	28	0.3%
19	特定化学物質排出量届等	7	24.8%
20	後援名義の申請等	22	0.2%
21	暴力団員による不当な行為の防止等に関する責任者選任届等	8	1.3%
合計		3億4,900	42.6%

【出典】平成25年12月26日総務省通知「地方公共団体の行政手続等に係るオンライン利用状況について」

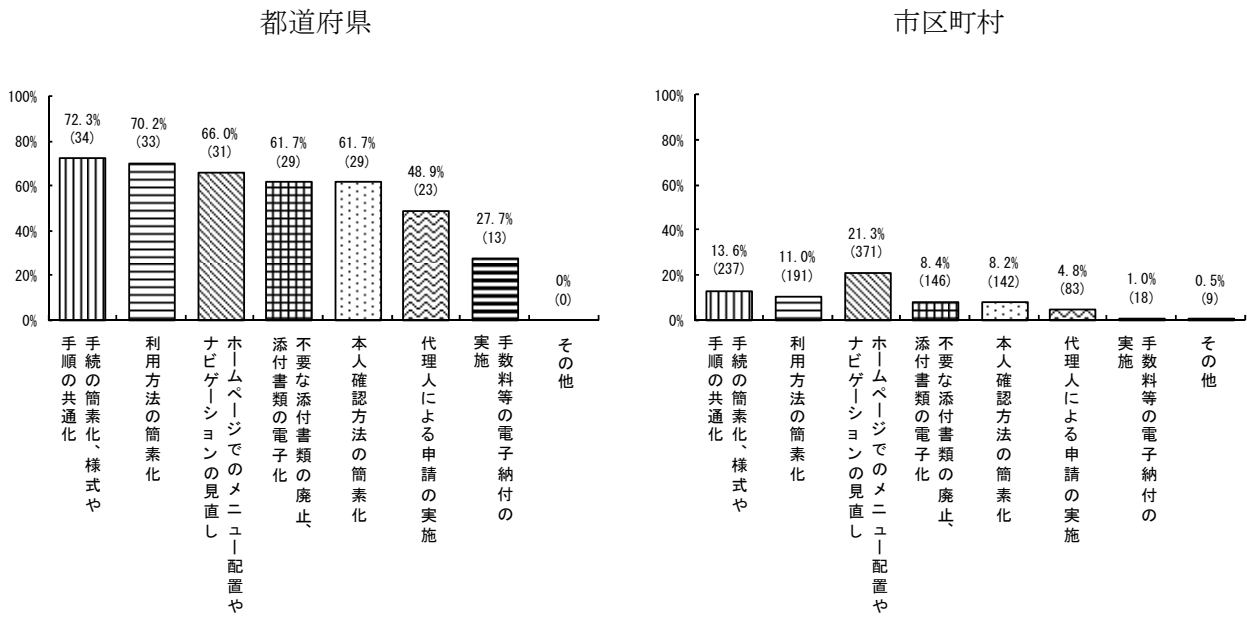
第3-2表 オンライン利用状況の推移



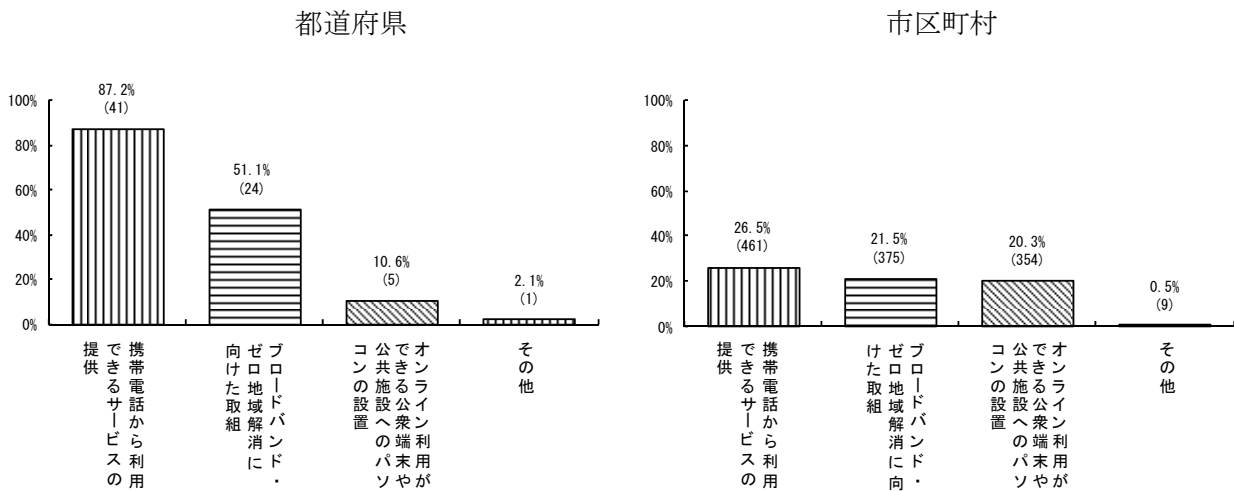
(注) オンライン利用率 (%) = オンライン利用件数 / 年間総手続件数 × 100  
 年間総手続件数は、オンライン実施団体における総手続件数と人口を元に算出した、全国における推計値 (平成20年度まではオンライン実施団体における総手続件数及び団体数により推計)。

(7) オンライン利用の促進等に向けて講じた措置

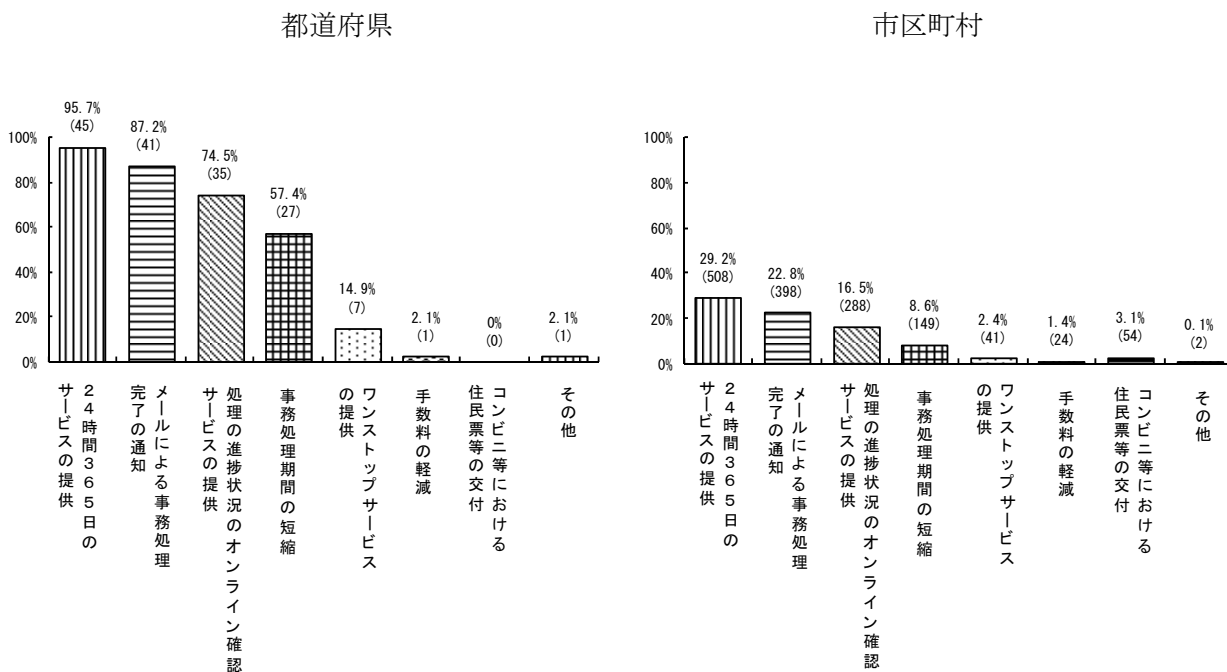
第31図 オンライン利用時の利便性向上のために講じた措置（複数回答）



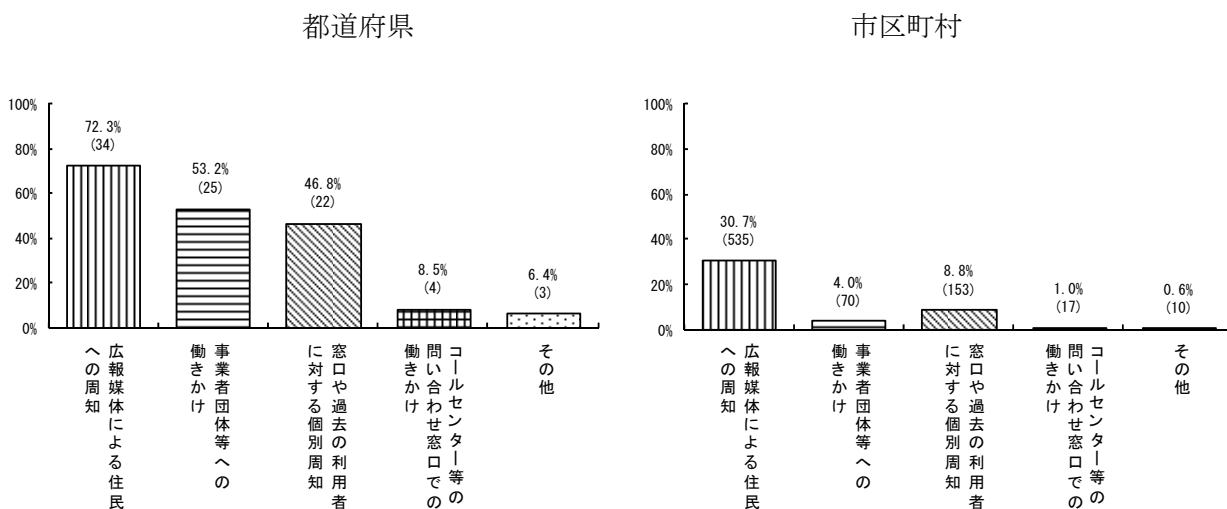
第32図 オンラインサービスの提供手段の改善のために講じた措置（複数回答）



第33図 オンライン利用のメリットの拡大のために講じた措置（複数回答）



第34図 オンライン手続の広報・普及の強化のために講じた措置（複数回答）



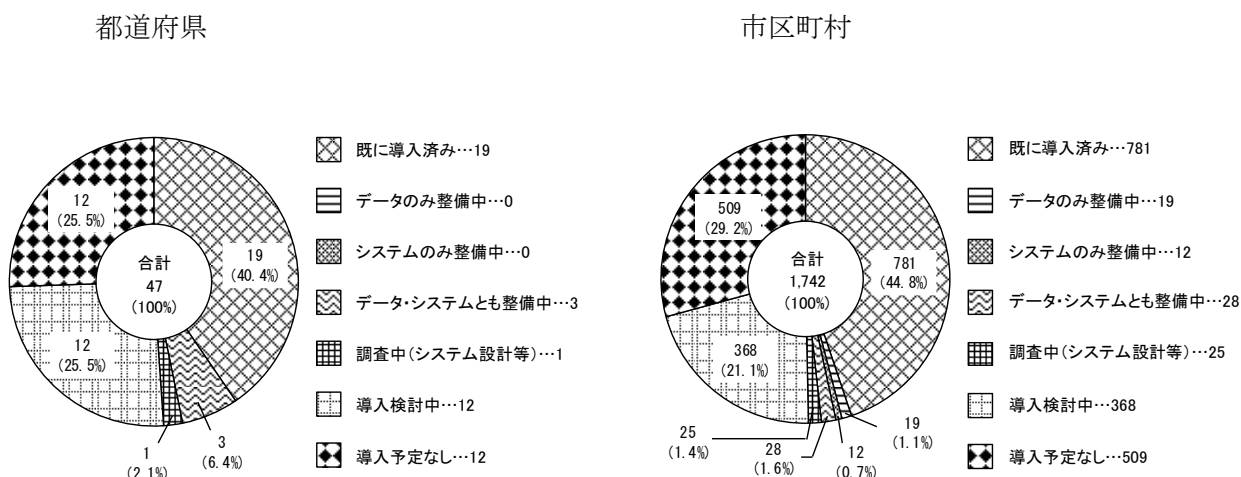
## 6 地理情報システム（GIS）の整備

### (1) 統合型地理情報システム（統合型GIS）の整備

#### ア 統合型GISへの取組状況

統合型GISを既に導入している団体は、都道府県では19団体（40.4%）、市区町村では781団体（44.8%）であった。

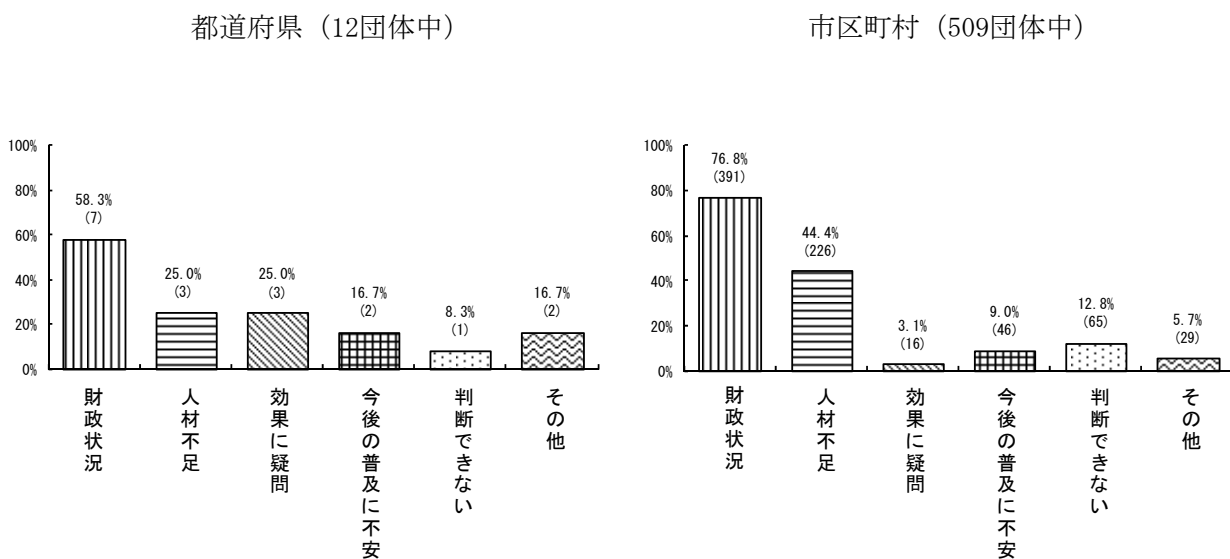
第35図 統合型GISへの取組状況



#### イ 統合型GISの取組について妨げとなっている原因

統合型GISの導入予定がない団体において、統合型GISの取組の妨げとなっている原因は、都道府県では7団体（58.3%）、市区町村では391団体（76.8%）が「財政状況」であった。

第36図 統合型GISへの取組について妨げとなっている原因（複数回答）

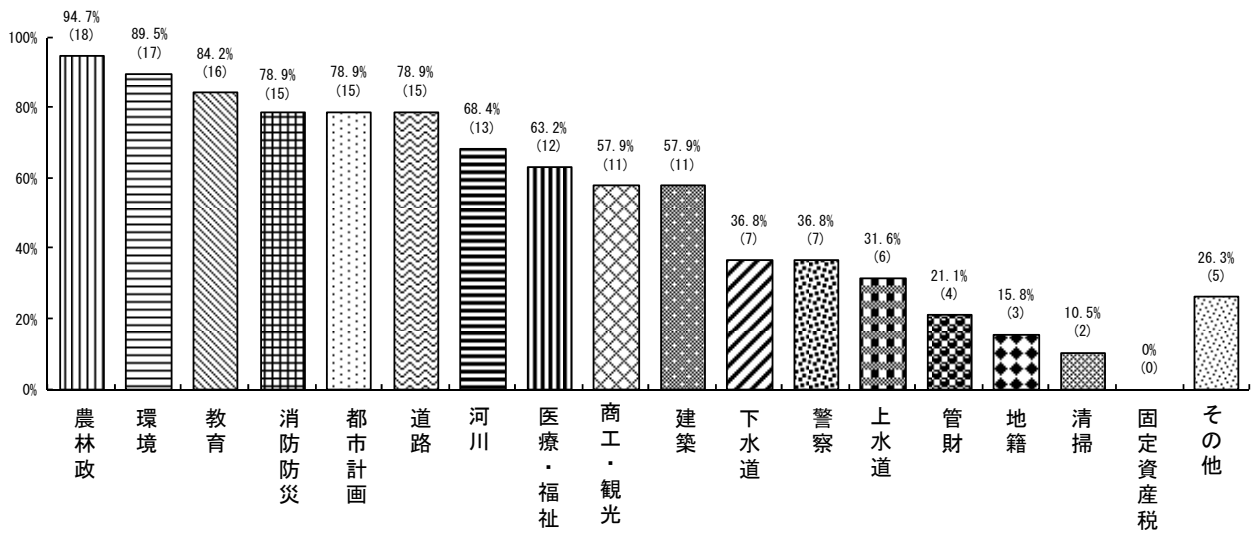


ウ 統合型GISの利用業務

統合型GISを導入している団体における利用業務は、都道府県では、「農林政」業務が18団体（94.7%）と最も多く、市区町村では、「道路」業務が503団体（64.4%）と最も多かった。

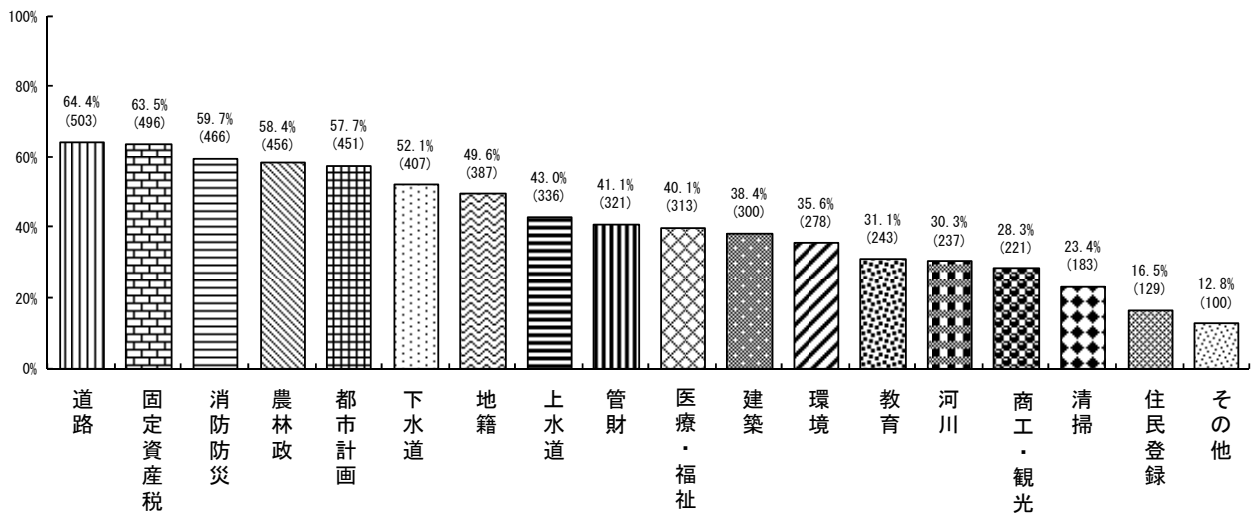
第37-1図 統合型GISの利用業務（複数回答）

都道府県（19団体中）



第37-2図 統合型GISの利用業務（複数回答）

市区町村（781団体中）

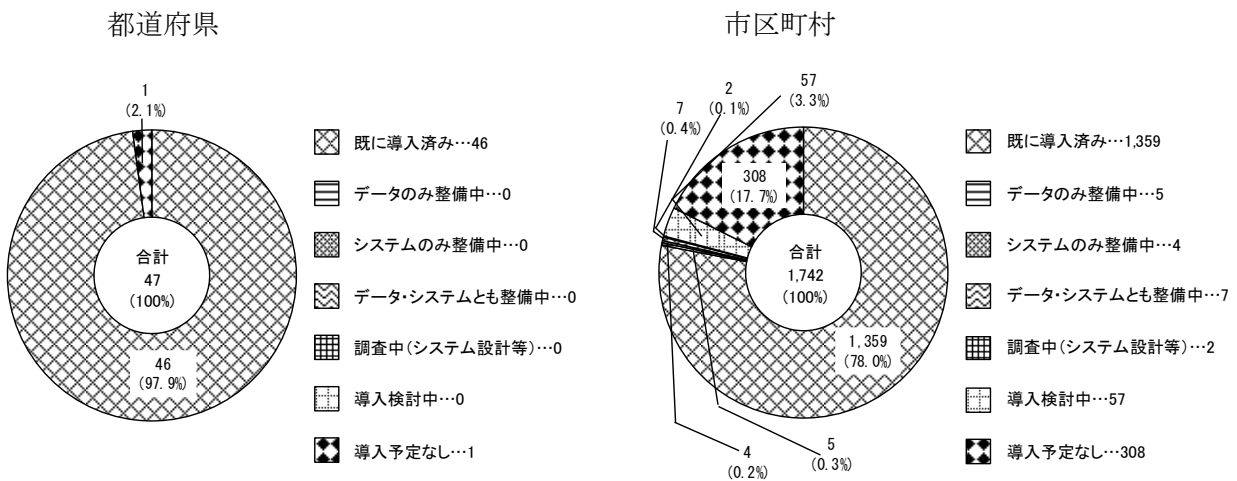


(2) 個別型地理情報システム（個別型GIS）の整備

ア 個別型GISへの取組状況

個別型GISを導入している団体は、都道府県では46団体（97.9%）、市区町村では1,359団体（78.0%）であった。

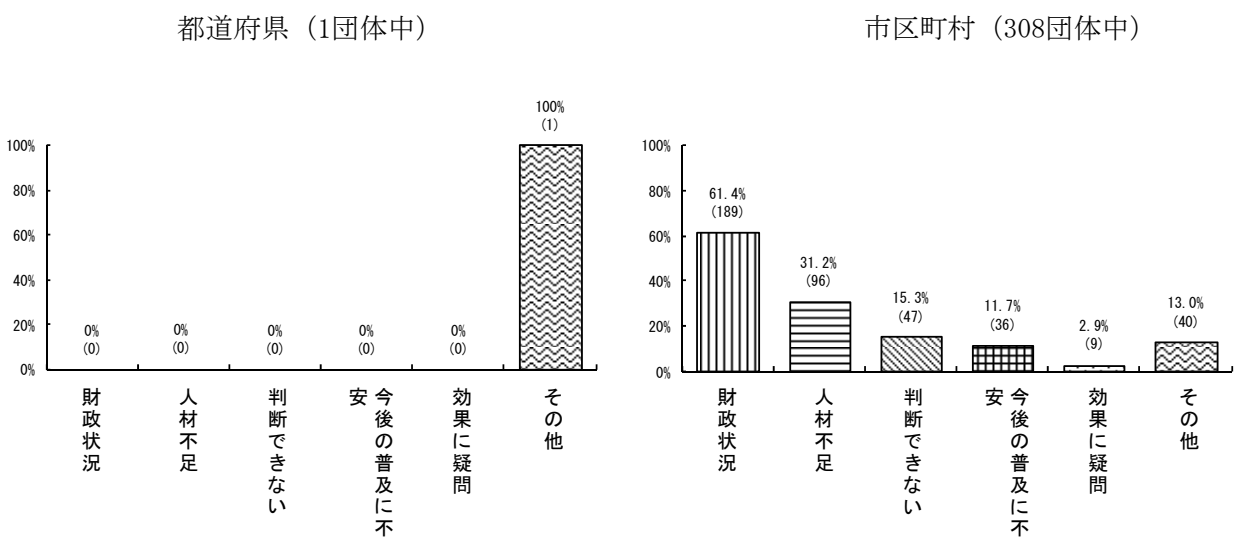
第38図 個別型GISへの取組状況



イ 個別型GISの取組について妨げとなっている原因

個別型GISの導入予定がない団体において個別型GISの取組の妨げとなっている原因は、市区町村では189団体（61.4%）が「財政状況」であった。

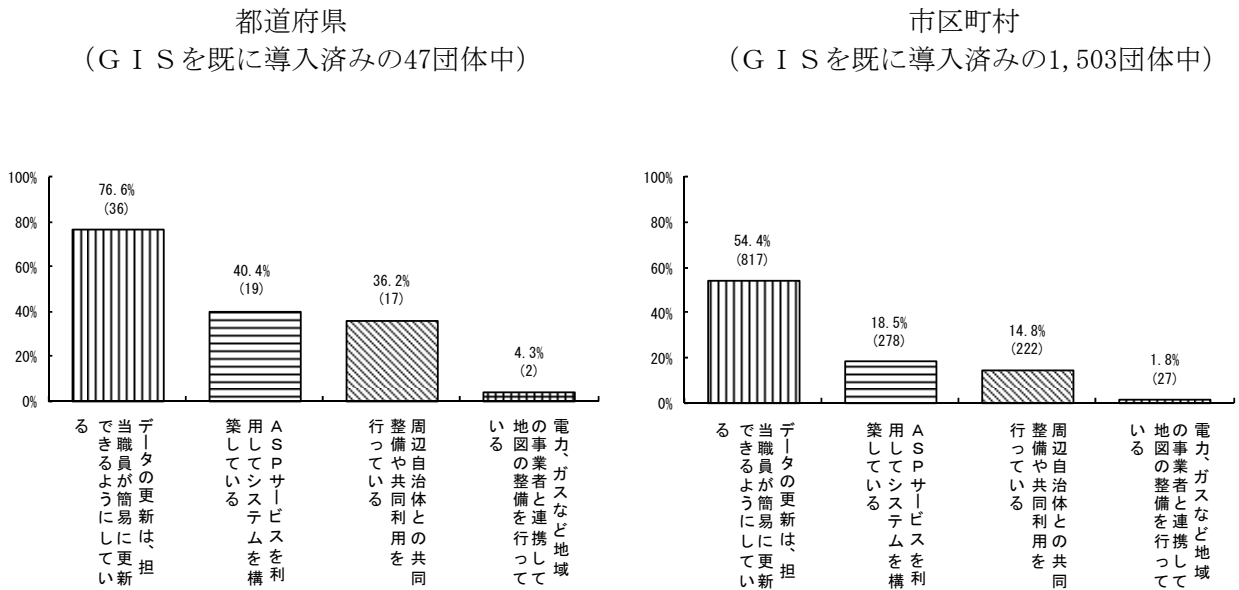
第39図 個別型GISへの取組について妨げとなっている原因（複数回答）



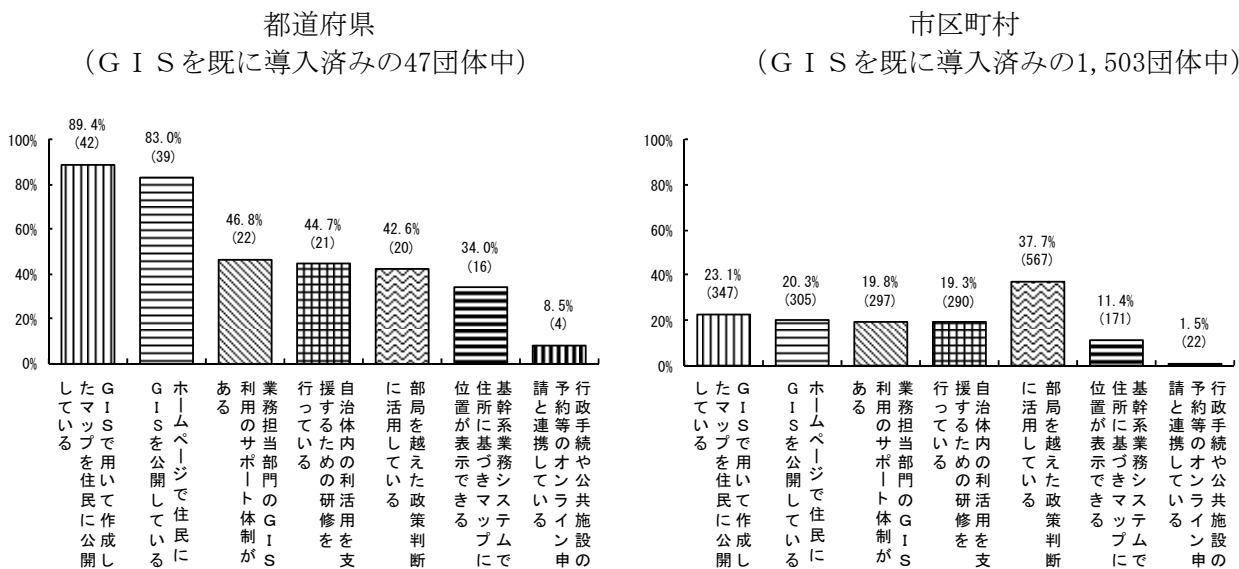


(3) GISの整備方法及び活用状況

第40図 GISの整備方法（複数回答）



第41図 GISの活用状況（複数回答）



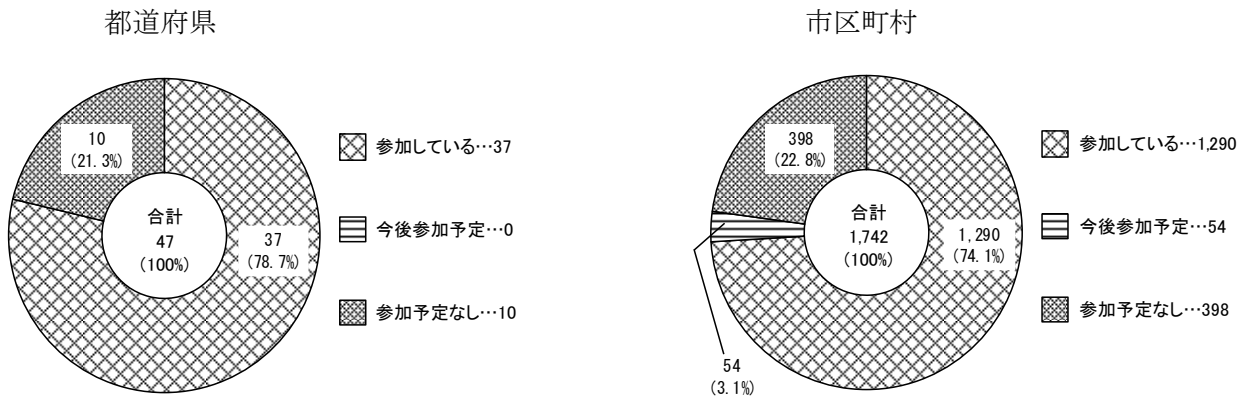
## 第4節 業務・システムの効率化

### 1 複数の地方公共団体による業務システムの共同化（共同利用）

#### (1) 協議会等への参加

複数の地方公共団体による情報システムの集約と共同利用の共同化を実施している協議会等に参加しているのは、都道府県では37団体（78.7%）、市区町村では1,290団体（74.1%）であった。

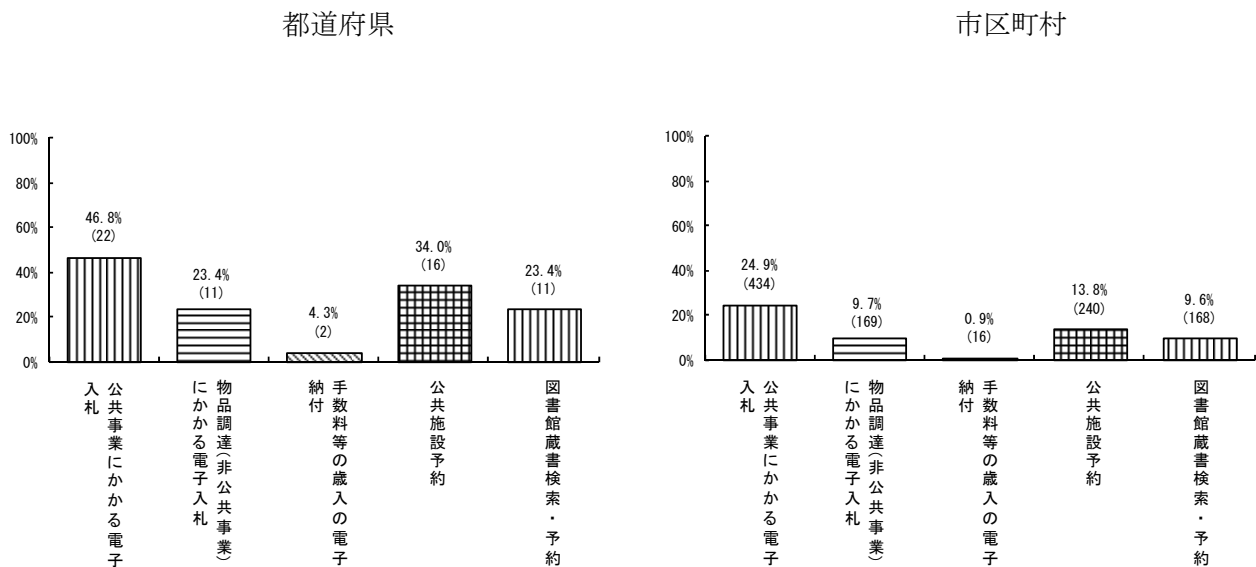
第42図 協議会等への参加状況



#### (2) 各種オンラインシステムの共同利用

各種オンラインシステムの共同利用の状況については、「公共事業にかかる電子入札」が都道府県では22団体（46.8%）、市区町村では434団体（24.9%）と最も多かった。

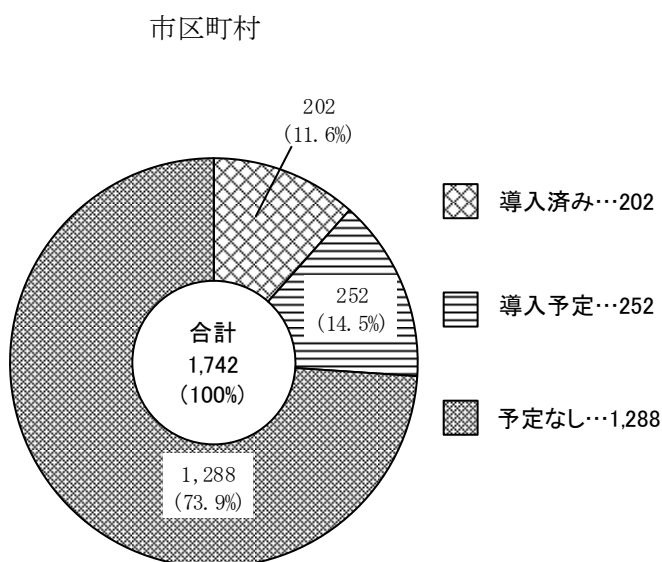
第43図 各種オンラインシステムの共同利用



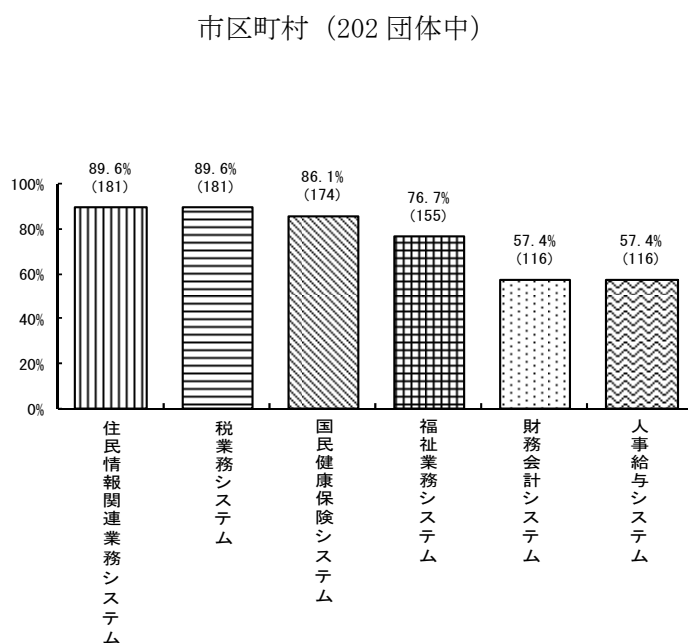
(3) クラウド技術及び外部のデータセンターを活用した情報システム（基幹系業務）の利用  
 ※基幹系業務についてクラウド技術（ASP・SaaS、仮想化等）を活用し、情報システムを外部のデータセンター（庁舎別館や一部事務組合の施設等を除く。）にて運用している状況

ア 複数団体の協議に基づく共同による基幹系業務システムの導入

第44図 導入状況

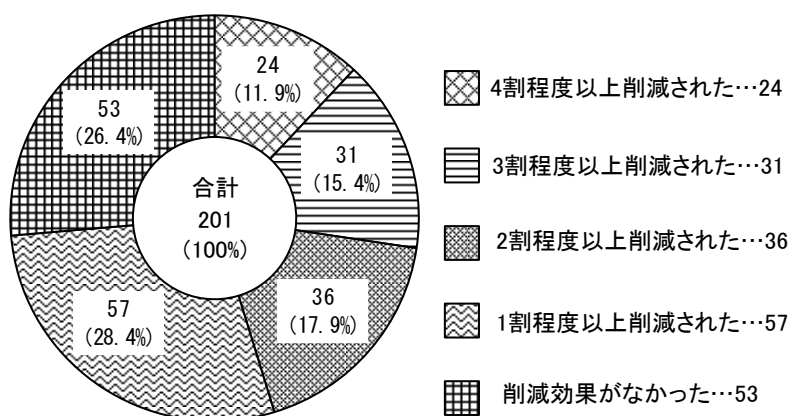


第45図 導入した業務システム



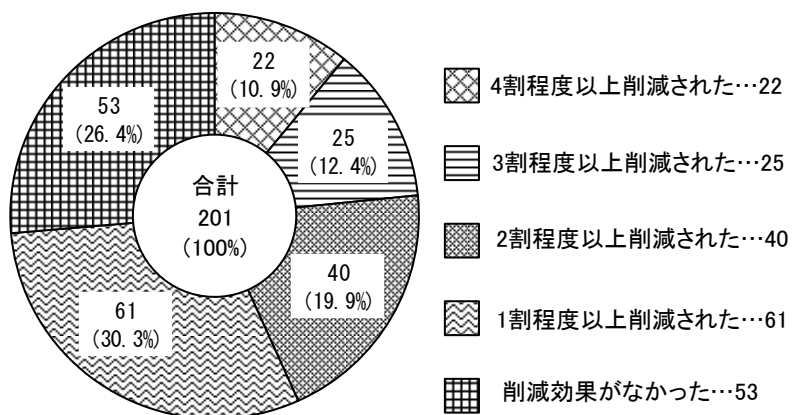
第 46 図 導入によるコスト削減効果（導入・運用コスト全体）

市区町村（201 団体中）



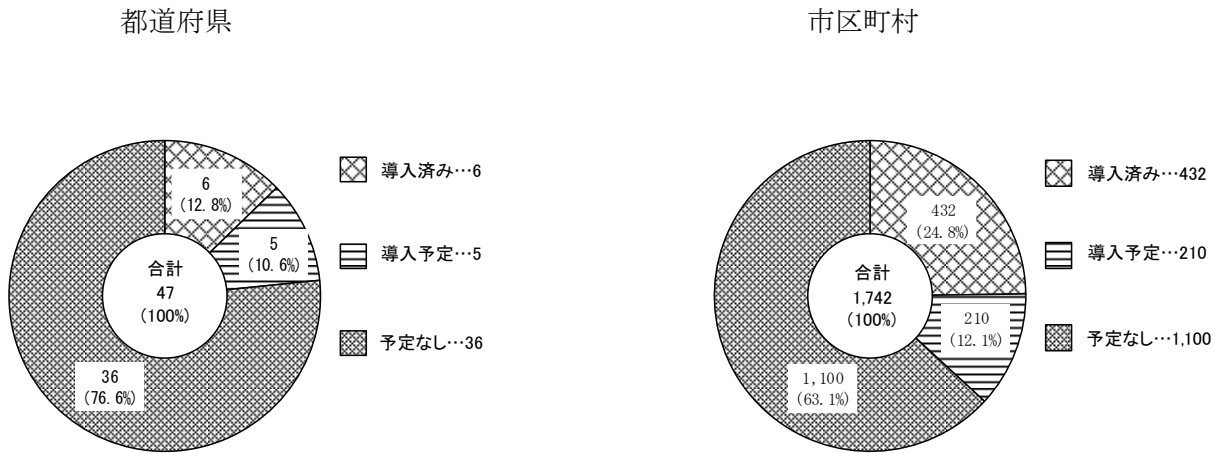
第 47 図 導入によるコスト削減効果（運用コストのみ）

市区町村（201 団体中）

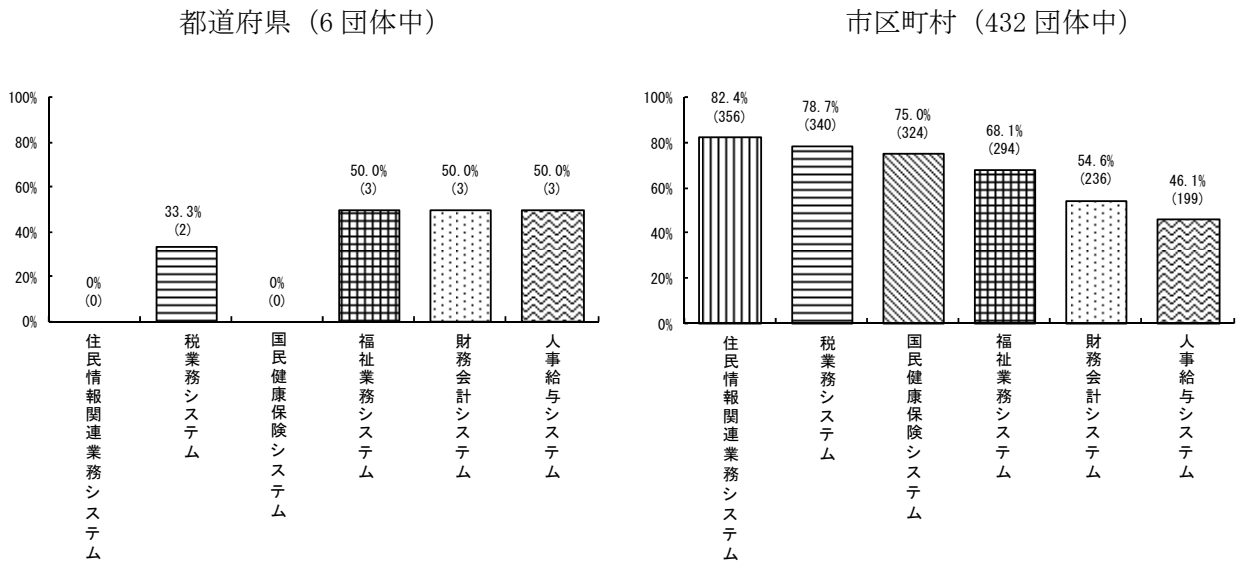


イ 単独団体による基幹系業務システムの導入

第 48 図 導入状況

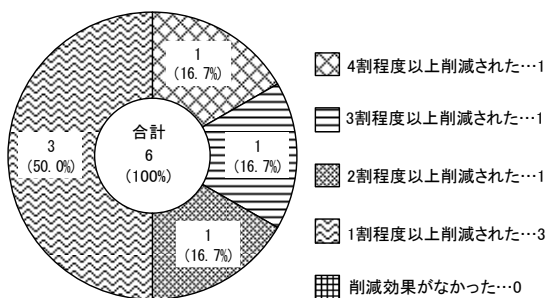


第 49 図 導入した業務システム

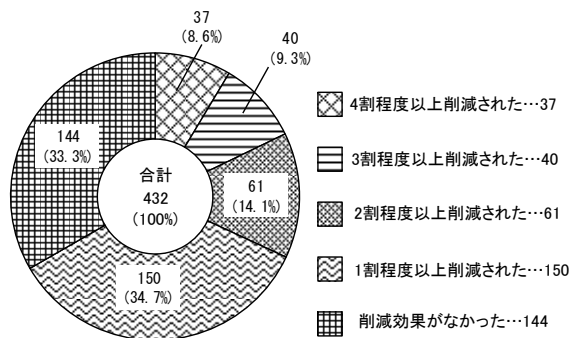


第 50 図 導入によるコスト削減効果（導入・運用コスト全体）

都道府県（6 団体中）

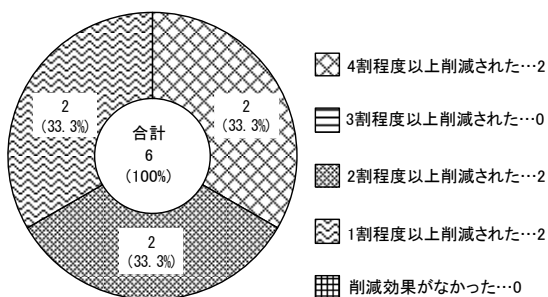


市区町村（432 団体中）

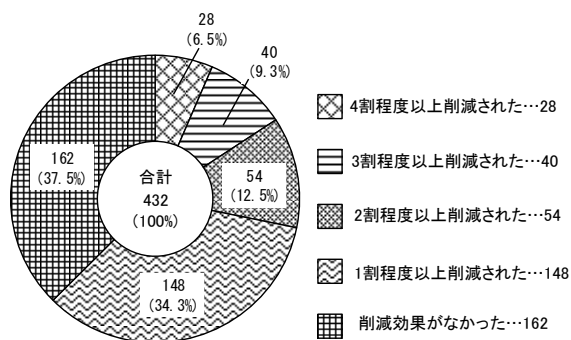


第 51 図 導入によるコスト削減効果（運用コストのみ）

都道府県（6 団体中）



市区町村（432 団体中）

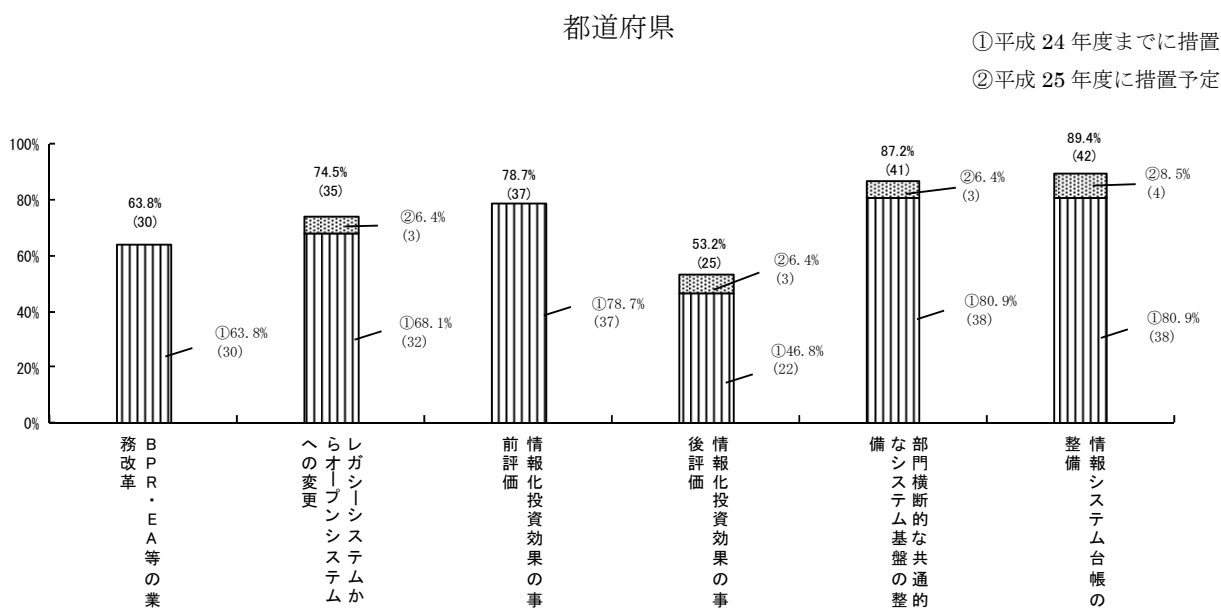


## 2 情報システムの最適化及びIT調達の適正化

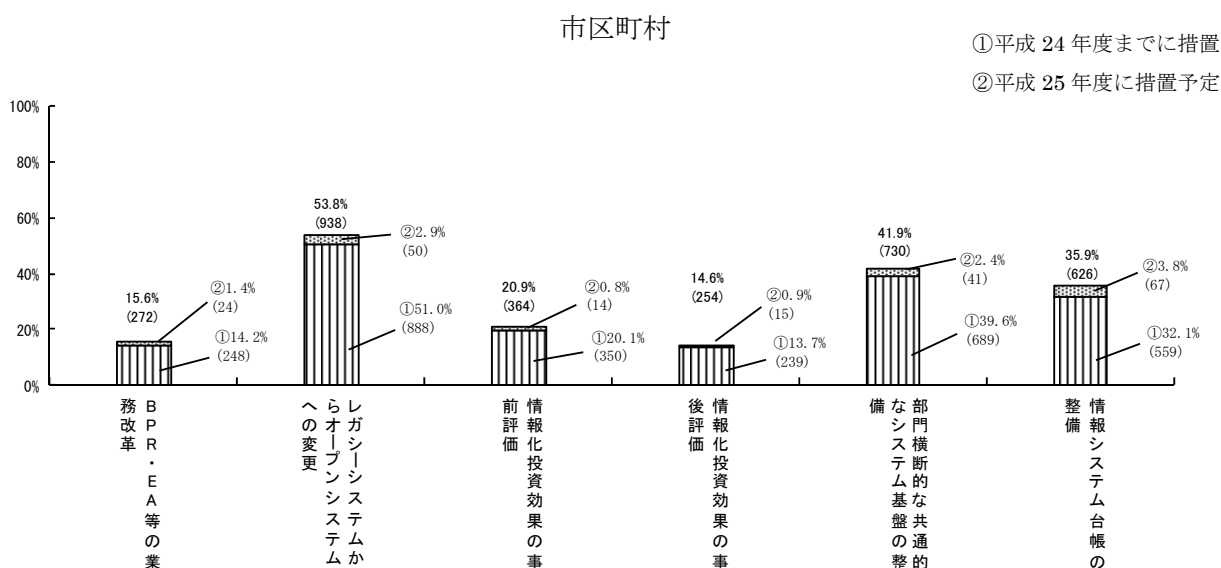
情報システムの最適化のため平成24年度までに講じている措置については、都道府県では「部門横断的な共通的なシステム基盤の整備」「情報システム台帳の整備」が38団体(80.9%)、市区町村では「レガシーシステムからオープンシステムへの変更」が888団体(51.0%)と最も多かった(第52-1図、第52-2図)。

また、IT調達の適正化のために講じた措置については、「各部署のIT調達に対する情報担当部署による支援・チェック体制の整備」が、都道府県においては全団体、市区町村においては861団体(49.4%)と最も多かった(第53-1図、第53-2図)。

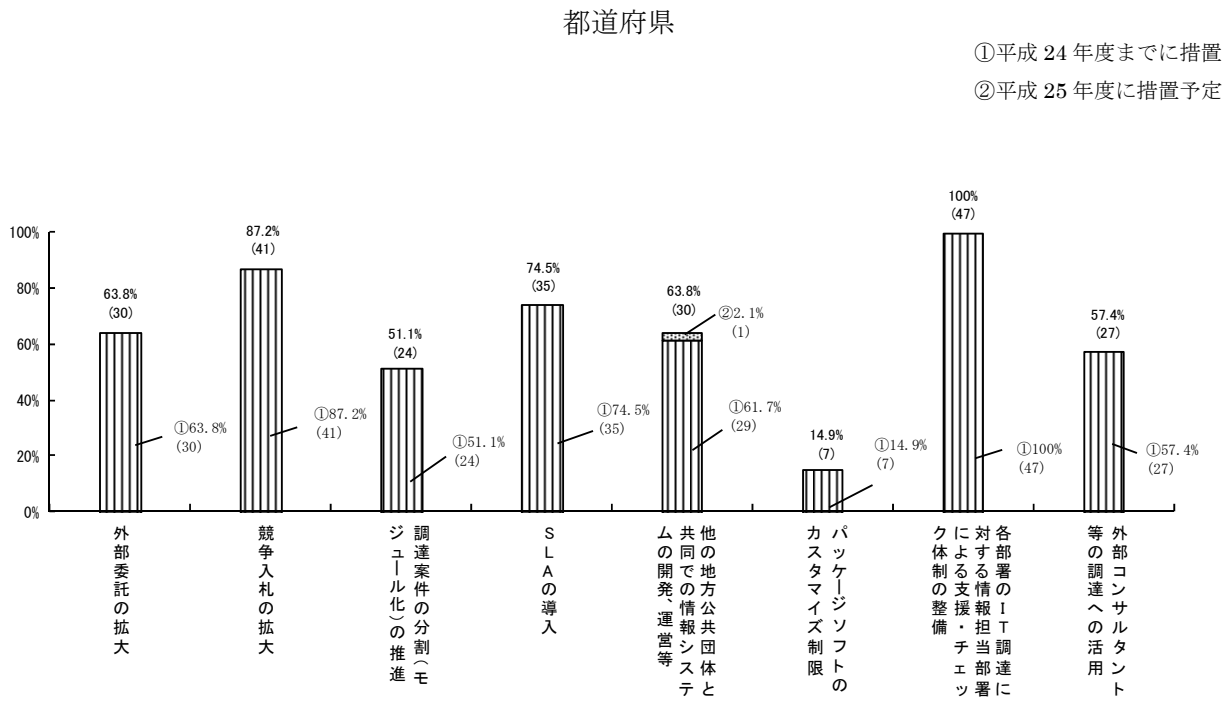
第52-1図 情報システムの最適化のために講じた措置



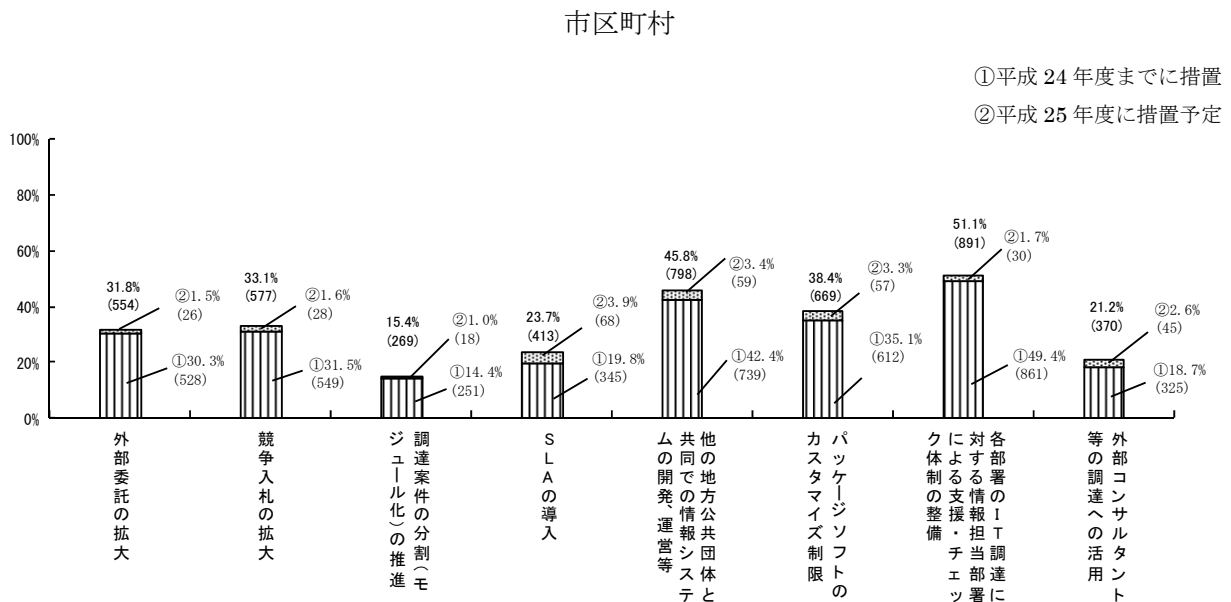
第52-2図 情報システムの最適化のために講じた措置



第53-1図 IT調達に適正化のために講じた措置



第53-2図 IT調達に適正化のために講じた措置

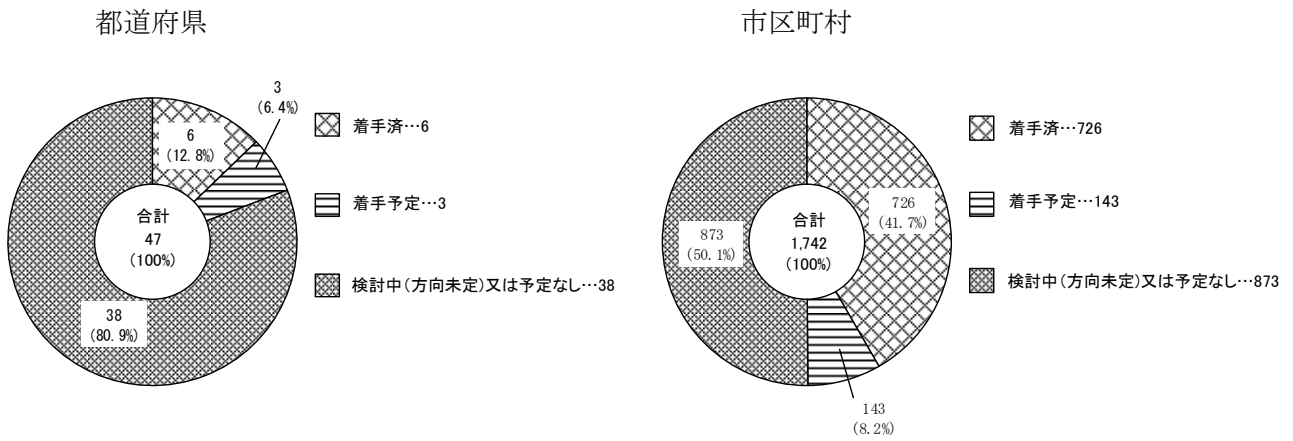




### 3 地域情報プラットフォーム標準仕様を活用したシステム整備

地域情報プラットフォーム標準仕様を活用したシステム整備について、「着手済」は都道府県では6団体(12.8%)、市区町村では726団体(41.7%)であった。

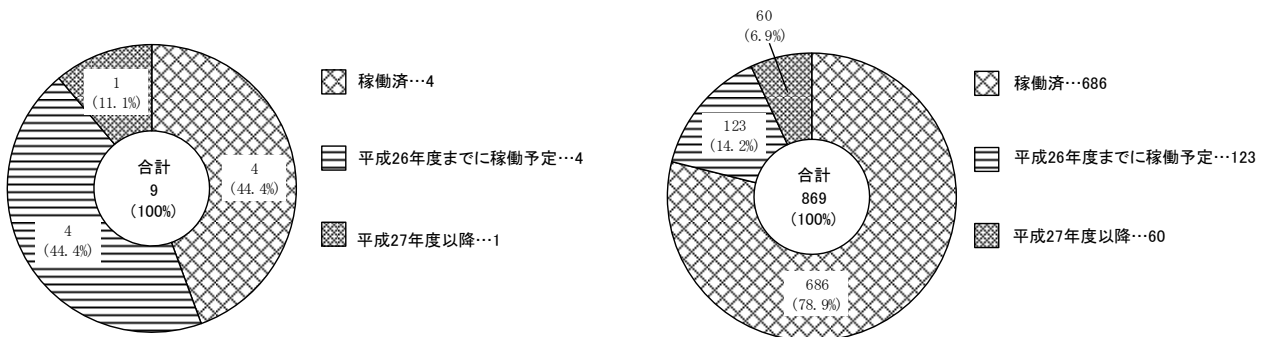
第54図 システム整備 着手時期



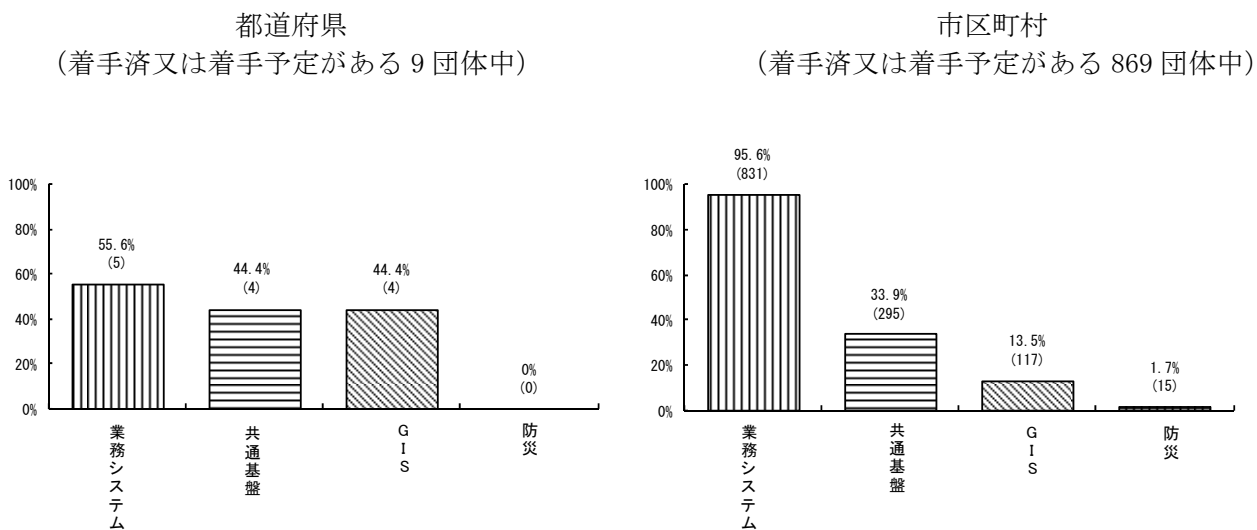
第55図 システムの稼働時期

都道府県 (9 団体中)

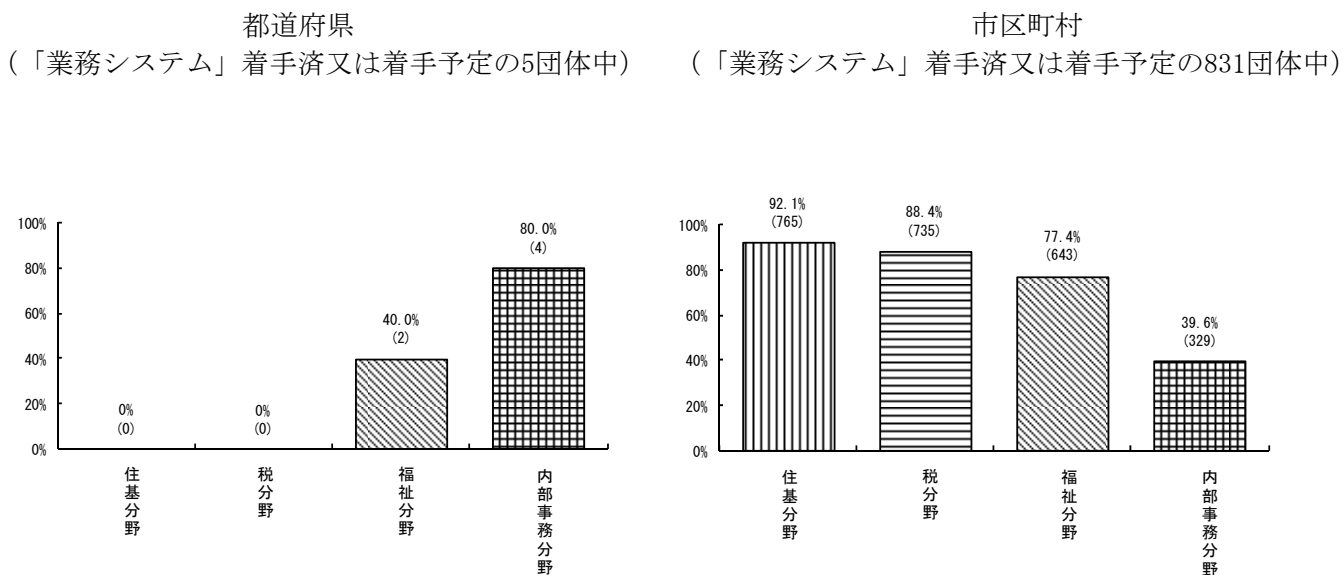
市区町村 (869 団体中)



第56図 システムの種類（複数回答）



第57図 「業務システム」の分野（複数回答）



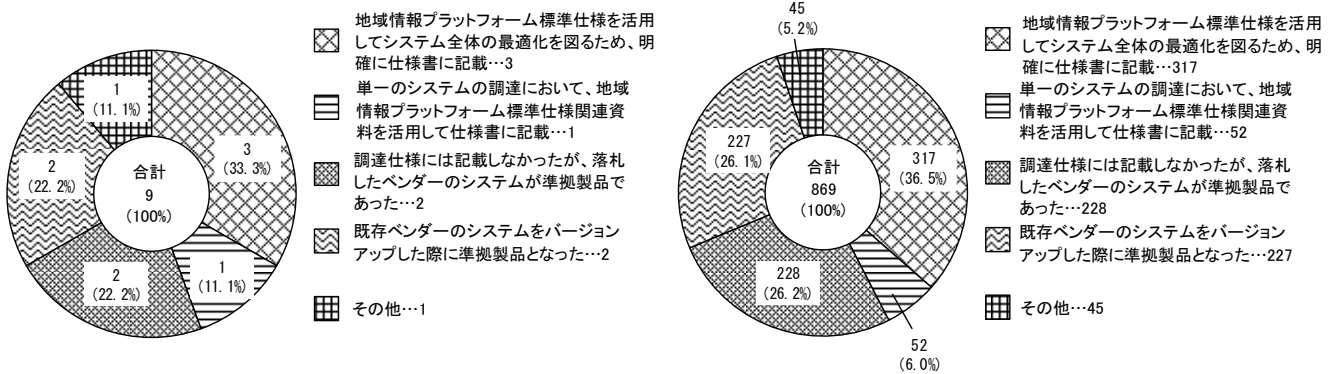
※上記のうち1団体（20.0%）は  
パッケージ型製品を利用

※上記のうち、596 団体（71.7%）は  
パッケージ型製品を利用

### 第58図 システムの導入経緯

都道府県（着手済又は着手予定がある9団体中）

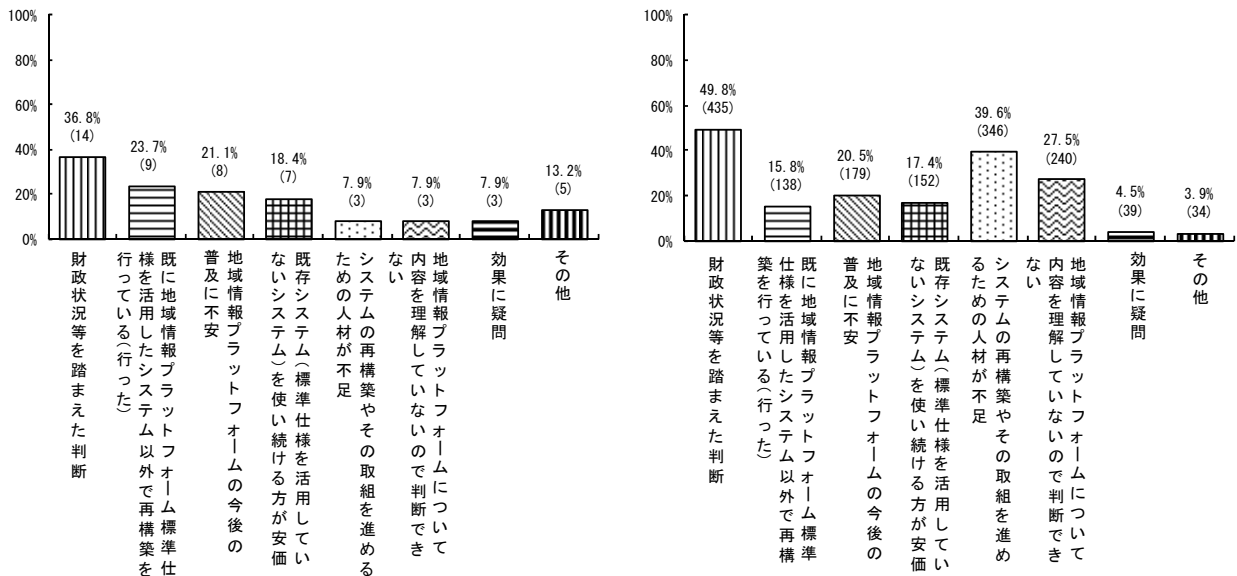
市区町村（着手済又は着手予定がある869団体中）



### 第59図 システム整備の妨げになっている原因（複数回答）

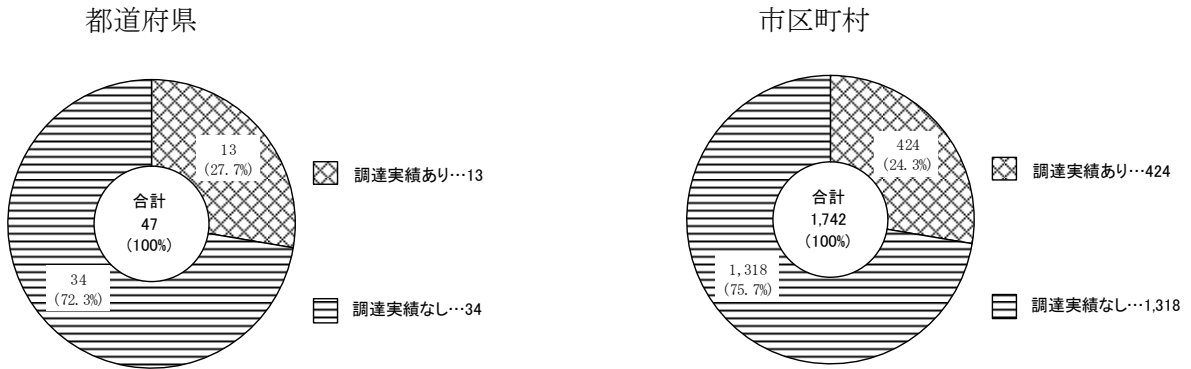
都道府県  
(検討中又は予定なしの38団体中)

市区町村  
(検討中又は予定なしの873団体中)

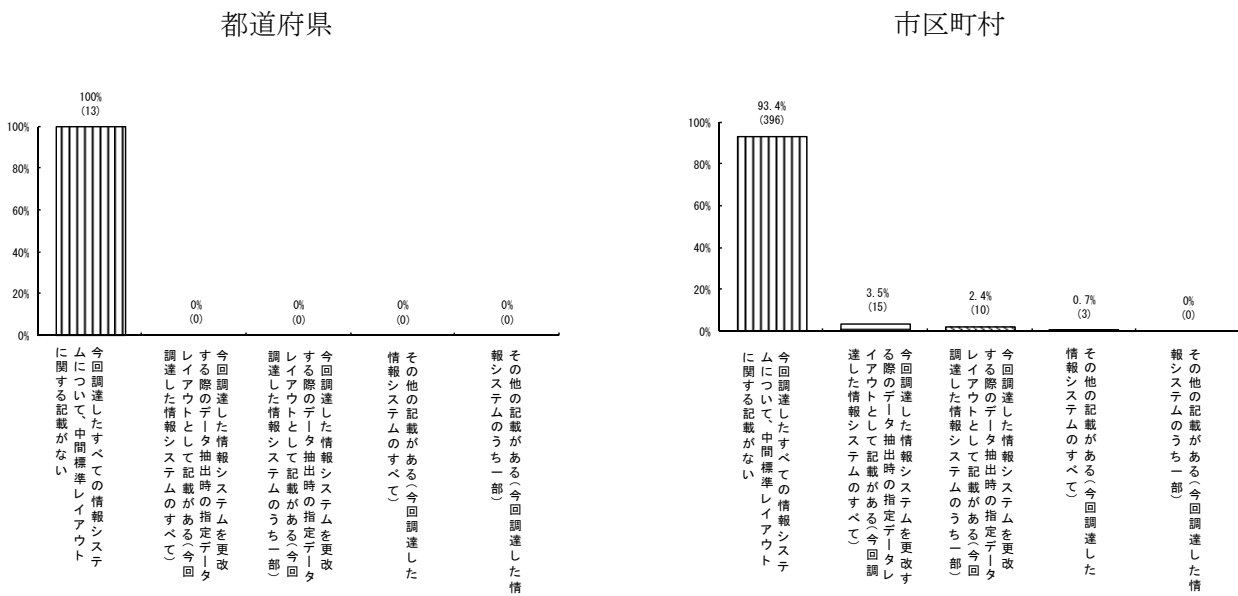


#### 4 中間標準レイアウトを活用したシステム整備

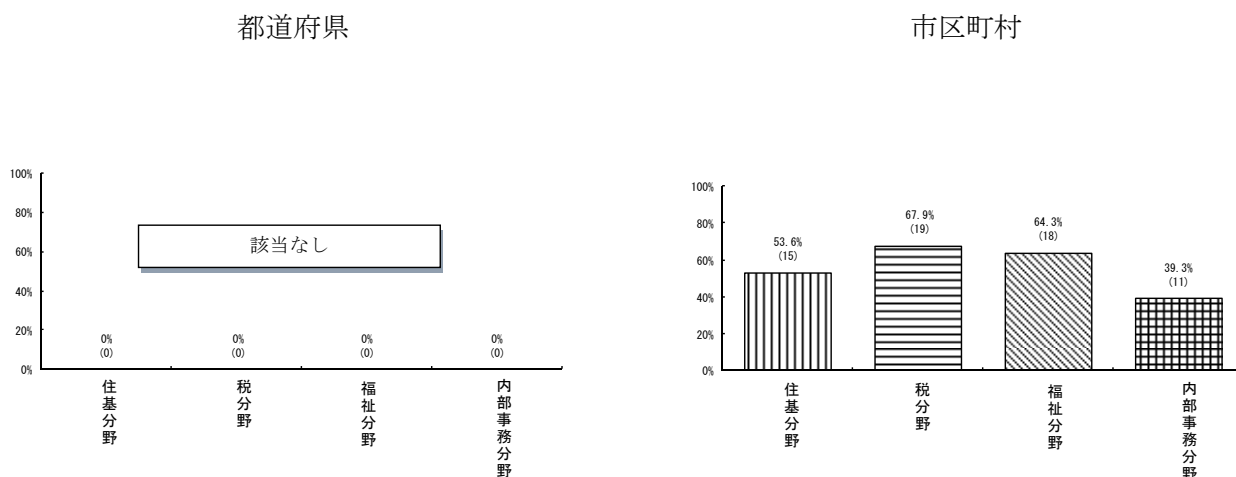
第 60 図 情報システムの調達実績（平成 24 年度実績）



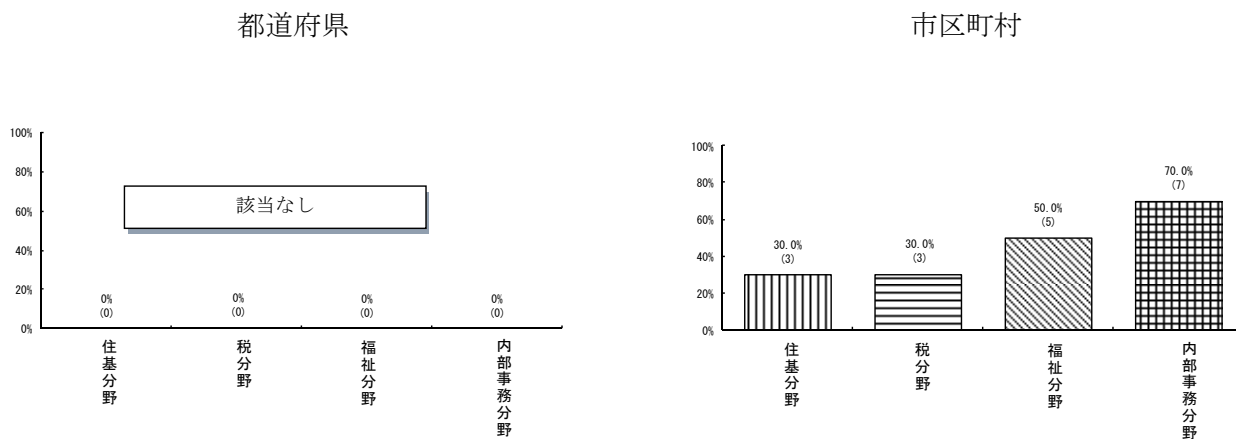
第 61 図 調達仕様書への中間標準レイアウトの記載状況（調達実績あり団体中）



第 62 図 中間標準レイアウトに関する記載がある業務システムの分野（複数選択可）  
（調達仕様書に中間標準レイアウトに関する記載がある団体中）



第 63 図 中間標準レイアウトに関する記載がない業務システムの分野（複数選択可）  
（調達仕様書に中間標準レイアウトに関する記載がある団体で一部しか記載がない団体中）



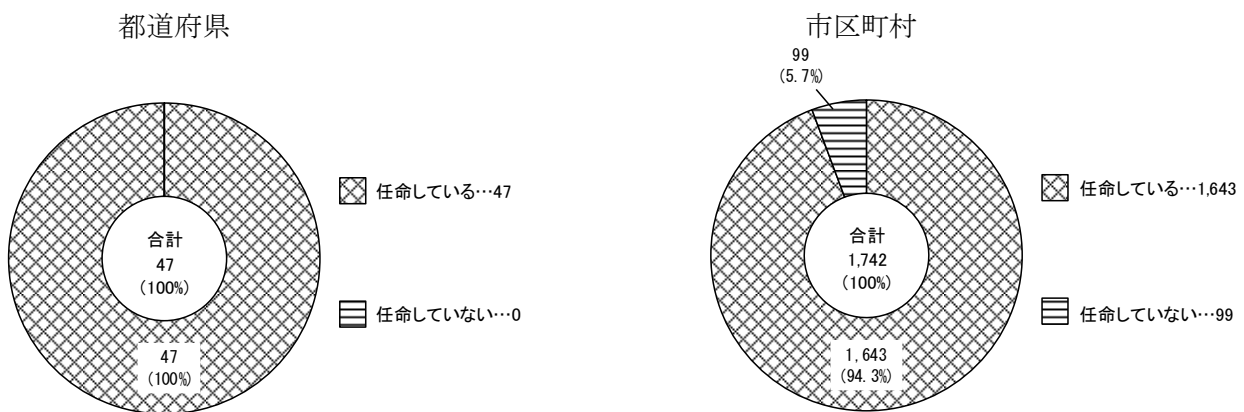
## 第5節 情報セキュリティ対策の実施状況

### 1 組織体制・規程類の整備

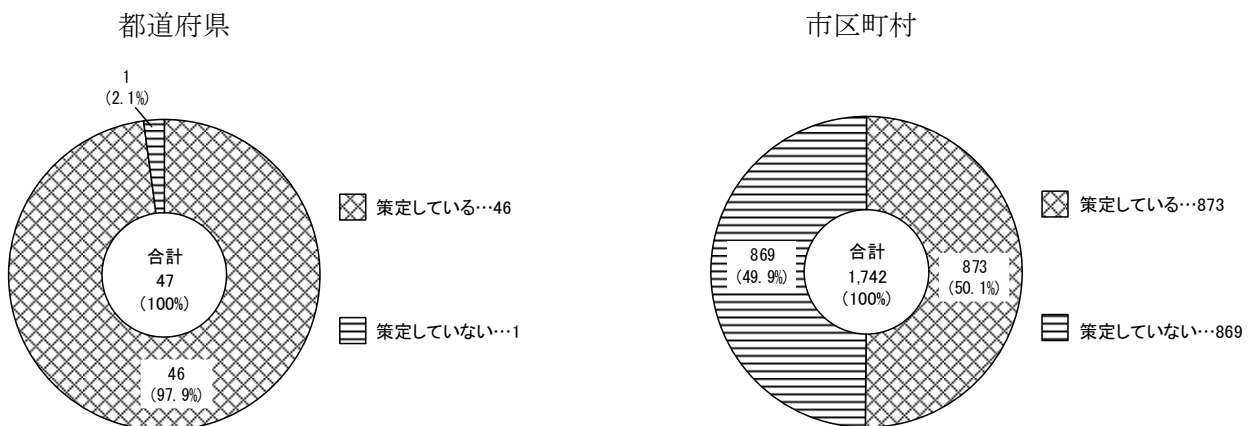
情報セキュリティの責任者や管理者等については、都道府県では全団体、市区町村では1,643団体(94.3%)で任命されている(第64図)。

また、情報セキュリティポリシーについては、都道府県では全団体、市区町村では1,702団体(97.7%)とほとんどの団体で策定されており(第66図)、都道府県では46団体(97.9%)、市区町村では873団体(50.1%)が、主要な情報資産についてのセキュリティ対策実施手順を策定している(第65図)。

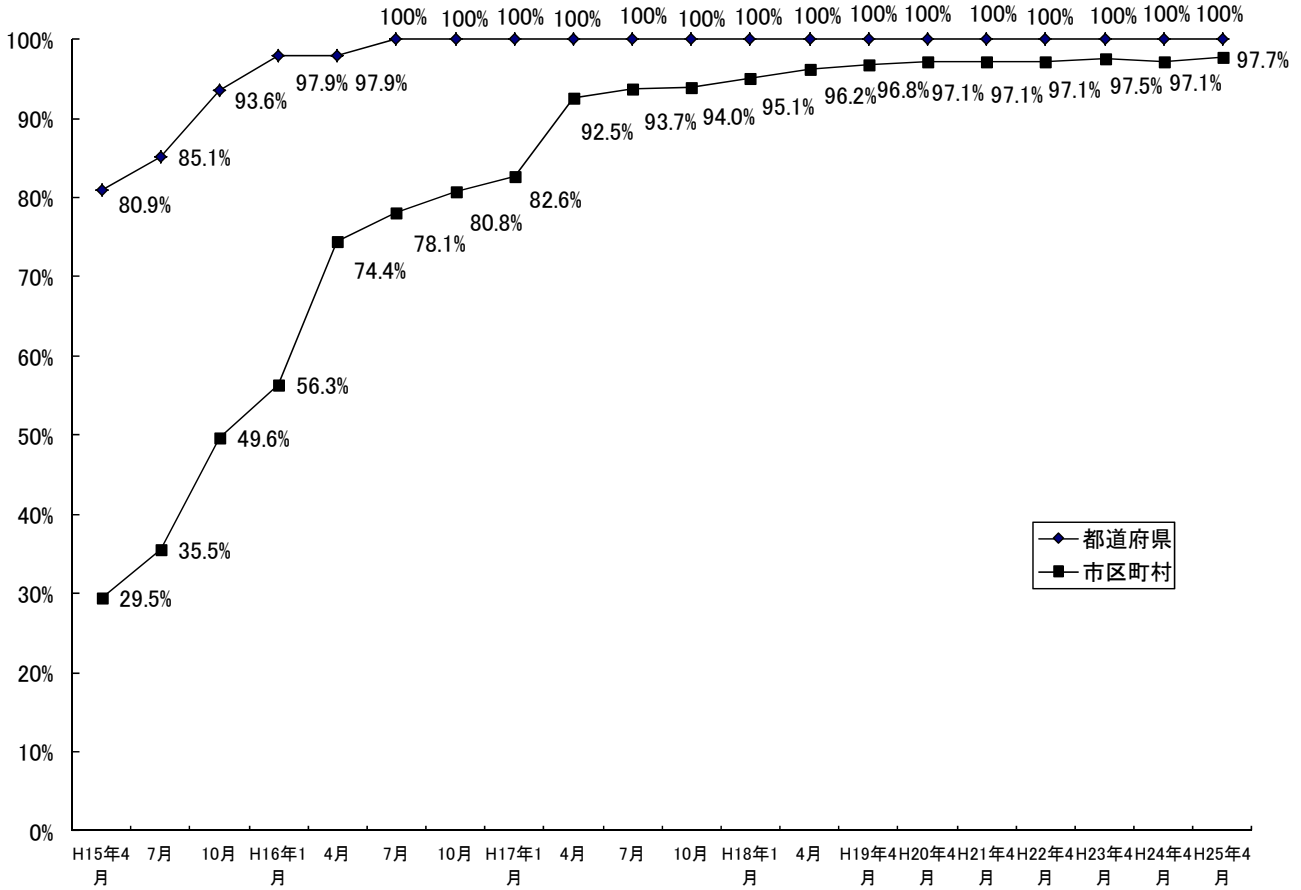
第64図 情報セキュリティの責任者や管理者等の任命の有無



第65図 主要な情報資産についてのセキュリティ対策実施手順の策定の有無

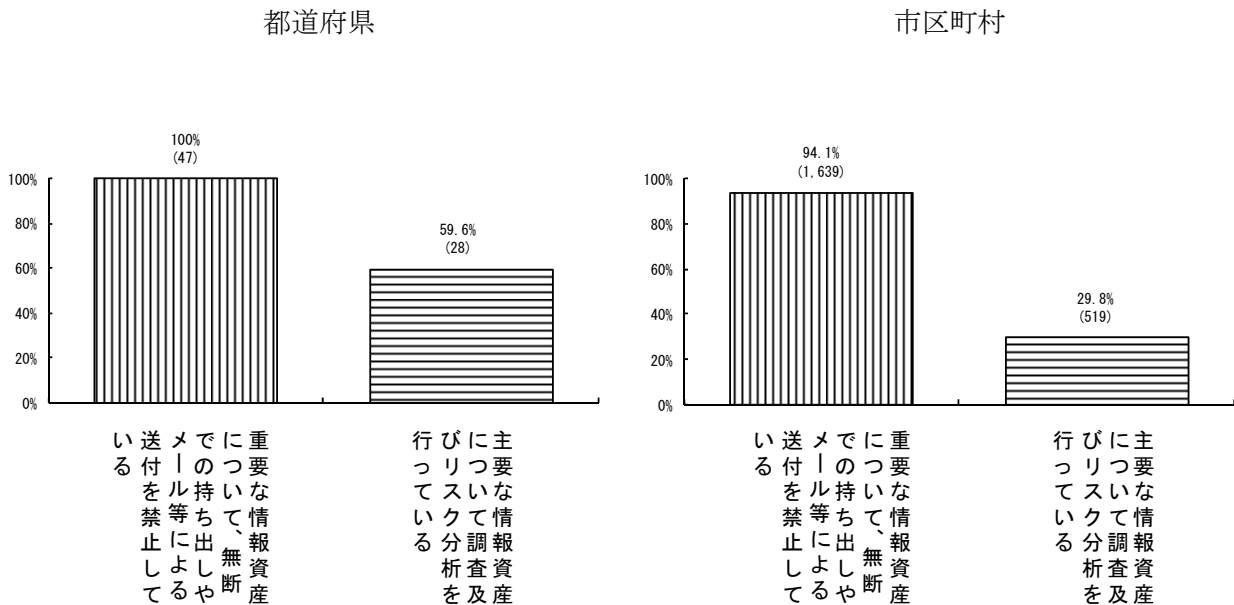


第66図 情報セキュリティポリシーの策定状況の推移



2 情報資産の管理方法

第67図 情報資産の分類と管理方法（複数回答）

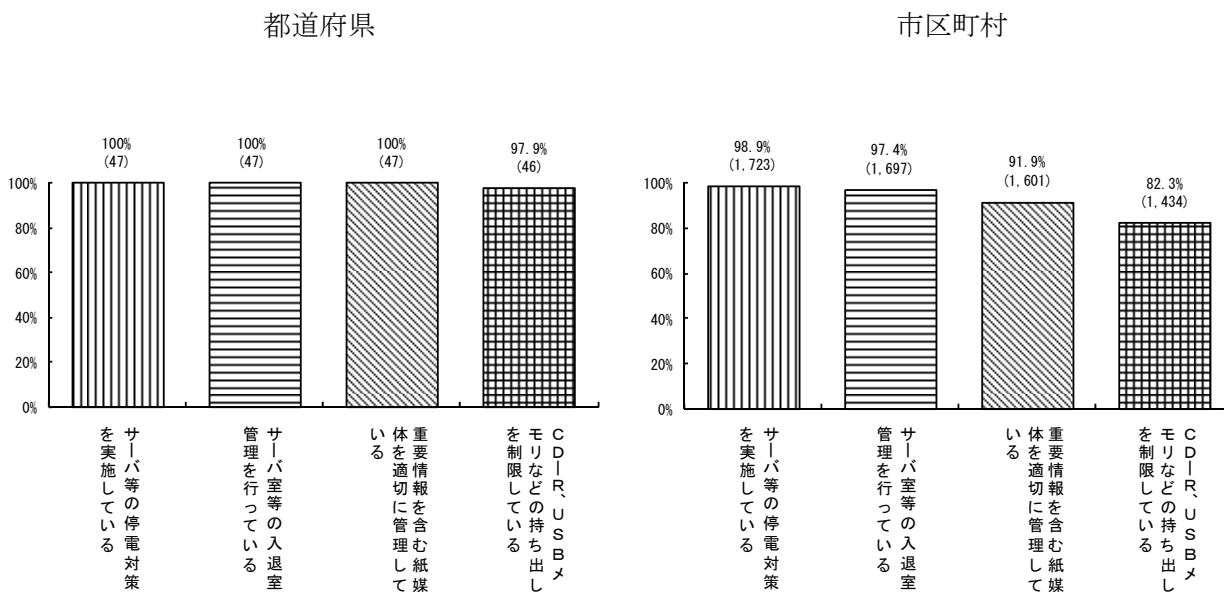


### 3 情報セキュリティ対策の実施

#### (1) 物理的セキュリティ対策の実施

物理的セキュリティ対策については、都道府県では「サーバ等の停電対策」、「サーバ室等の入退室管理」、「重要情報を含む紙媒体の適切な管理」を全団体で実施している。

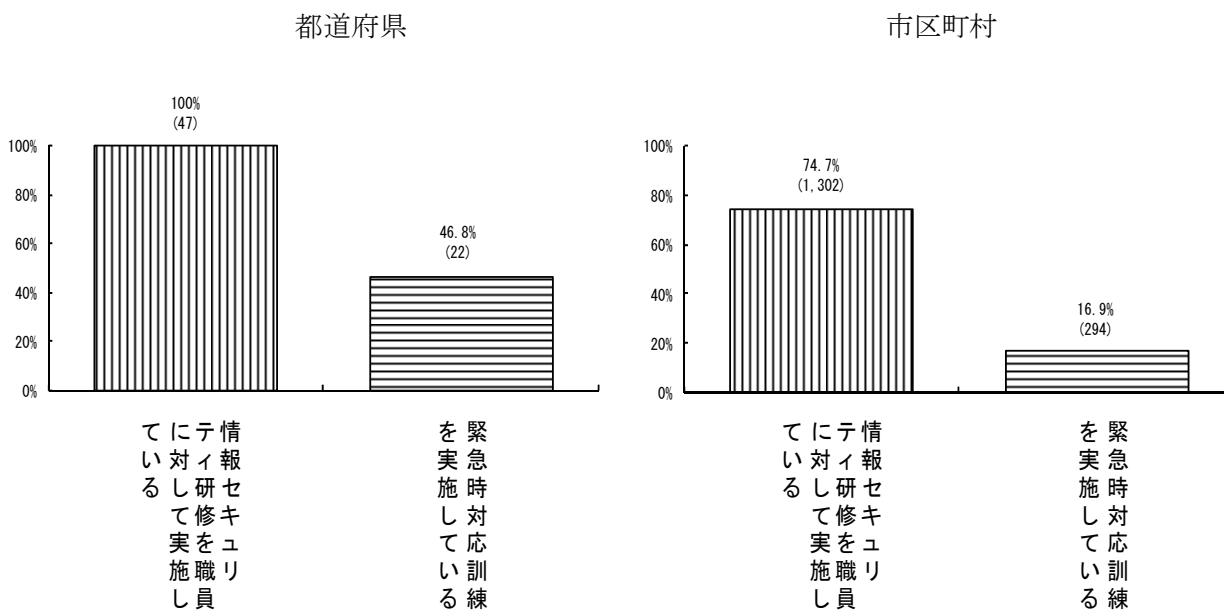
第68図 物理的セキュリティ対策の実施（複数回答）



#### (2) 人的セキュリティ対策の実施

人的セキュリティ対策については、都道府県においては全団体、市区町村では1,302団体（74.7%）が「情報セキュリティ研修を職員に対して実施」しており、都道府県においては22団体（46.8%）、市区町村では294団体（16.9%）が「緊急時対応訓練を実施」している。

第69図 人的セキュリティ対策の実施（複数回答）

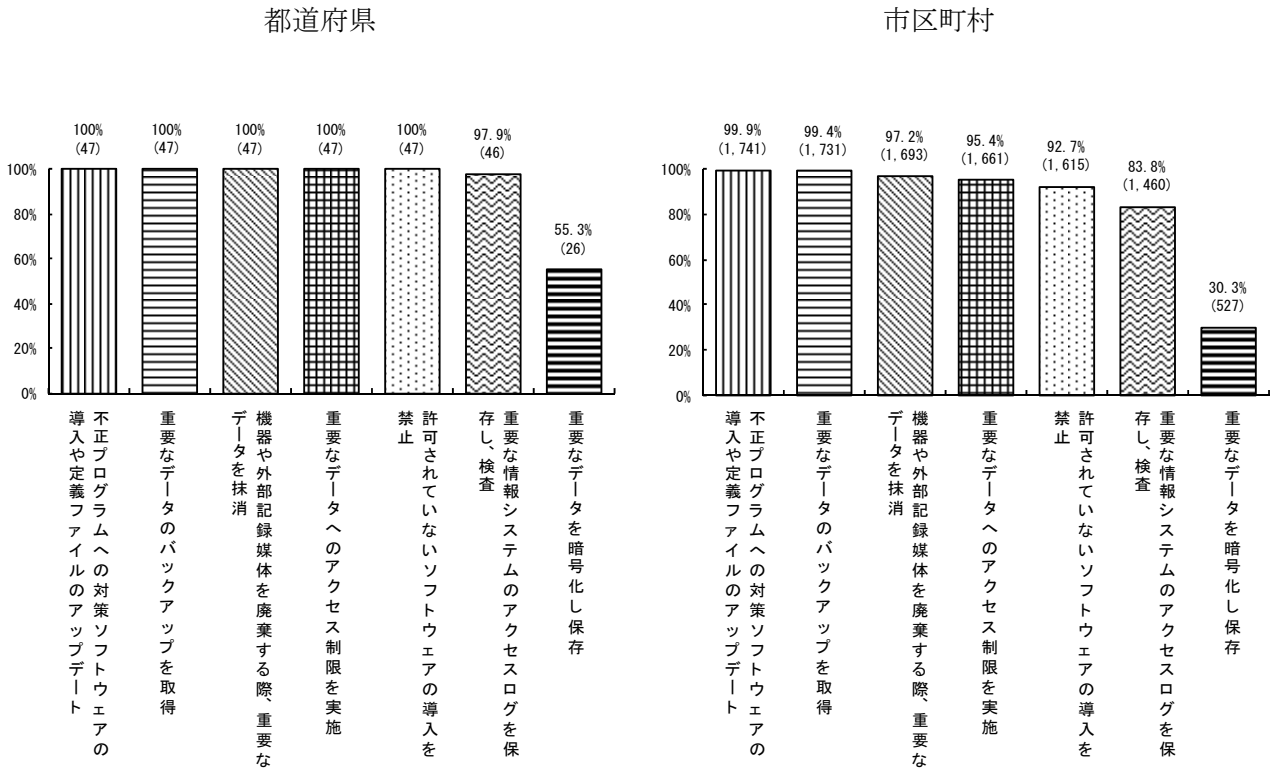




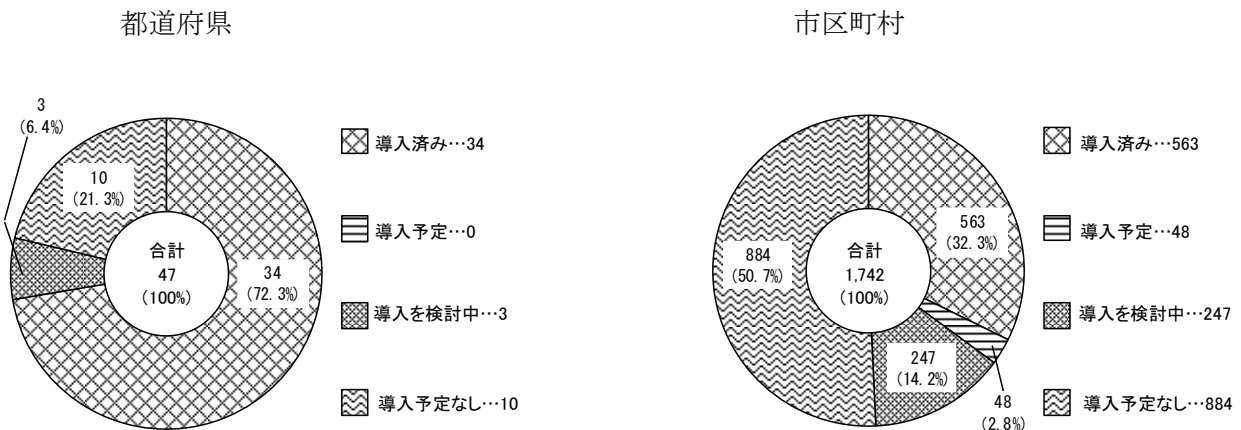
### (3) 技術的セキュリティ対策の実施

技術的セキュリティ対策については、「不正プログラムへの対策ソフトウェアの導入や定義ファイルのアップデート」、「重要なデータのバックアップの取得」等を全都道府県で実施しており、市区町村においては「不正プログラムへの対策ソフトウェアの導入や定義ファイルのアップデート」を行っている団体が1,741団体（99.9%）と最も多く、次いで「重要なデータのバックアップを取得」している団体が1,731団体（99.4%）となっている。一方、「重要なデータを暗号化し保存」している団体は、都道府県では26団体（55.3%）、市区町村では527団体（30.3%）とともに少なくなっている。

第70図 技術的セキュリティ対策の実施（複数回答）



第71図 SPF 認証（送信ドメイン認証）の実施状況

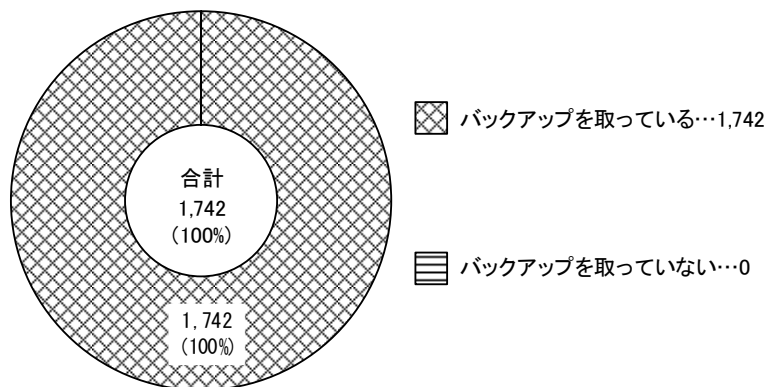


#### 4 各種データのバックアップの状況

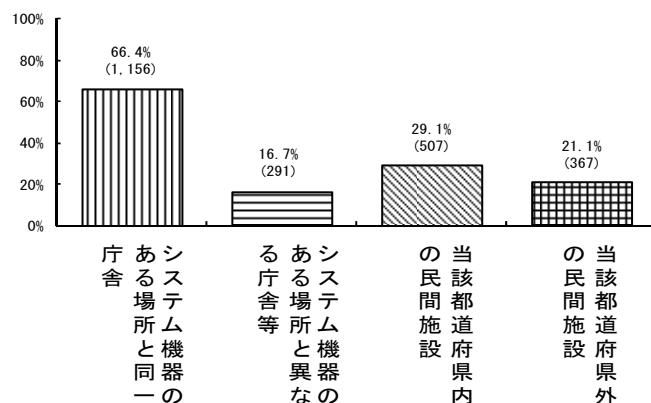
住民基本台帳データのバックアップについては全市区町村が実施している。また、税業務データのバックアップについては、都道府県・市区町村とも全団体が実施している。

##### (1) 住民基本台帳データ（市区町村のみ）

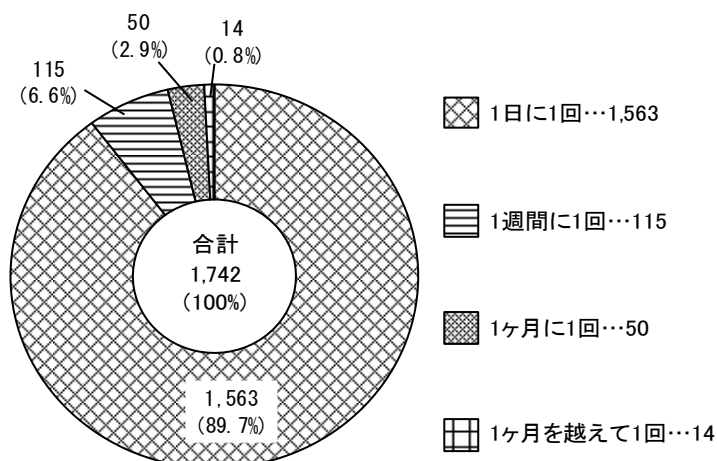
第72図 住民基本台帳データのバックアップの状況



第73図 住民基本台帳データのバックアップの保管場所（複数回答）  
市区町村（1,742団体中）

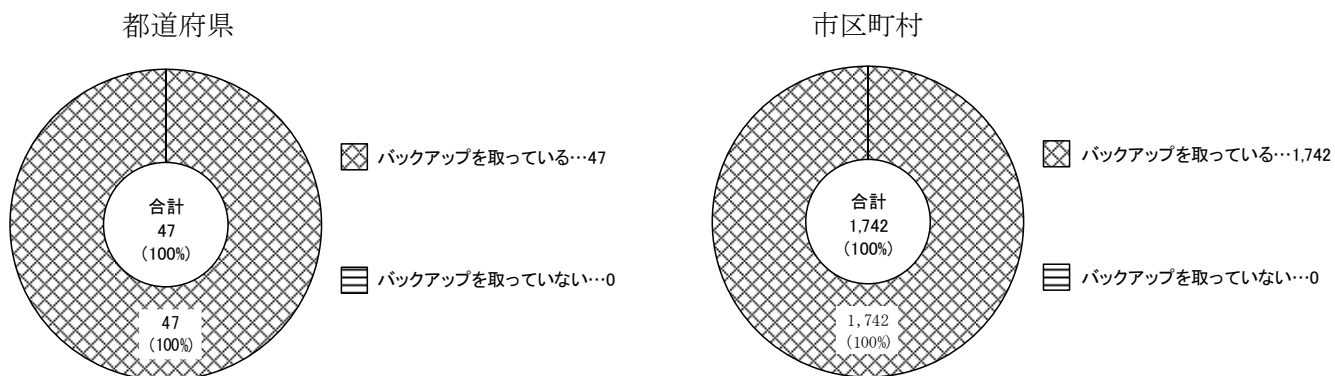


第74図 住民基本台帳データのバックアップの更新頻度  
市区町村（1,742団体中）

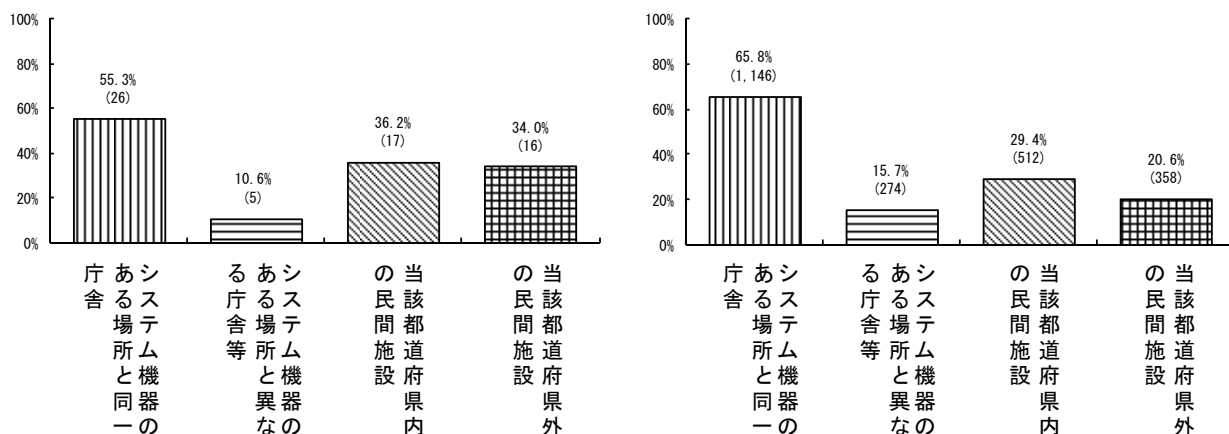


(2) 税業務データ

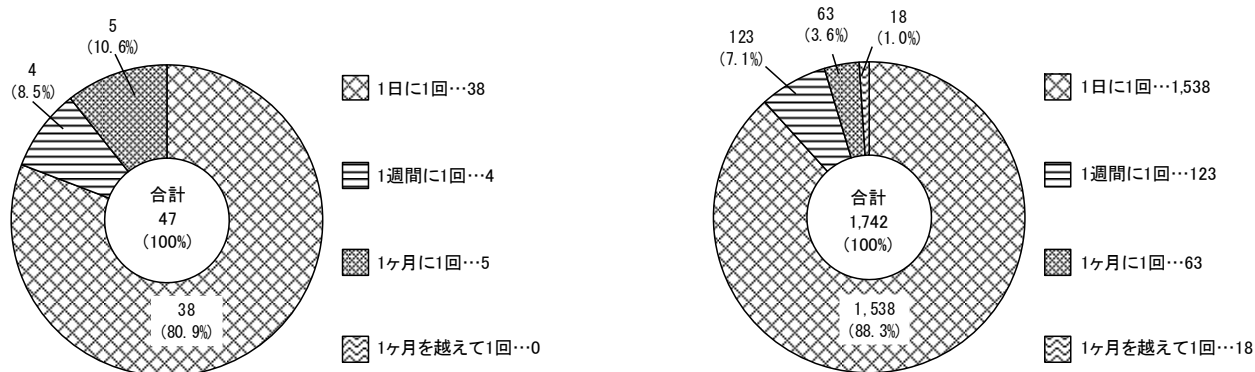
第75図 税業務データのバックアップの状況



第76図 税業務データのバックアップの保管場所（複数回答）  
都道府県（47団体中） 市区町村（1742団体中）



第77図 税業務データのバックアップの更新頻度  
都道府県（47団体中） 市区町村（1742団体中）

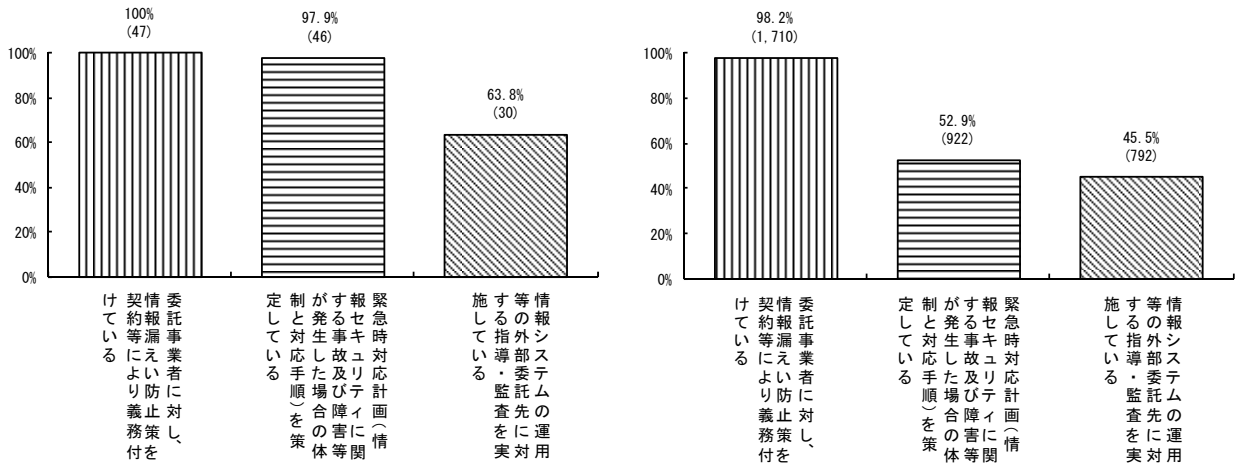


## 5 情報セキュリティ対策の運用

「委託事業者に対し、情報漏えい防止策を契約等により義務付けている」のは、都道府県では全団体、市区町村では1,710団体（98.2%）である。

また、緊急時対応計画を策定しているのは、都道府県では46団体（97.9%）、市区町村では922団体（52.9%）であった。

第78図 情報セキュリティ対策の運用（複数回答）  
都道府県 市区町村

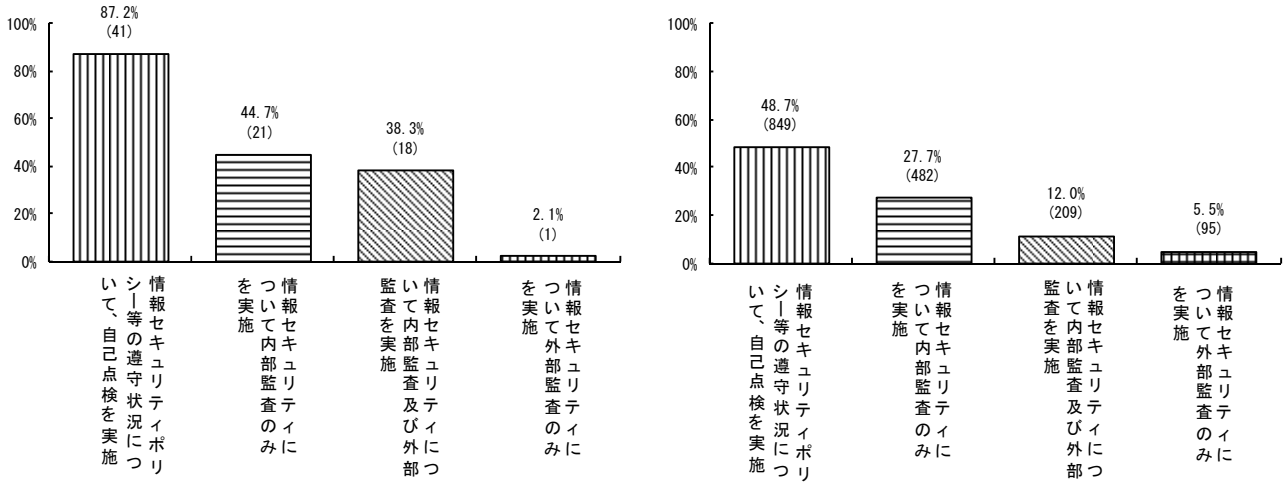


## 6 情報セキュリティ対策の評価・見直し

### 第79図 情報セキュリティ対策の評価・見直し

都道府県

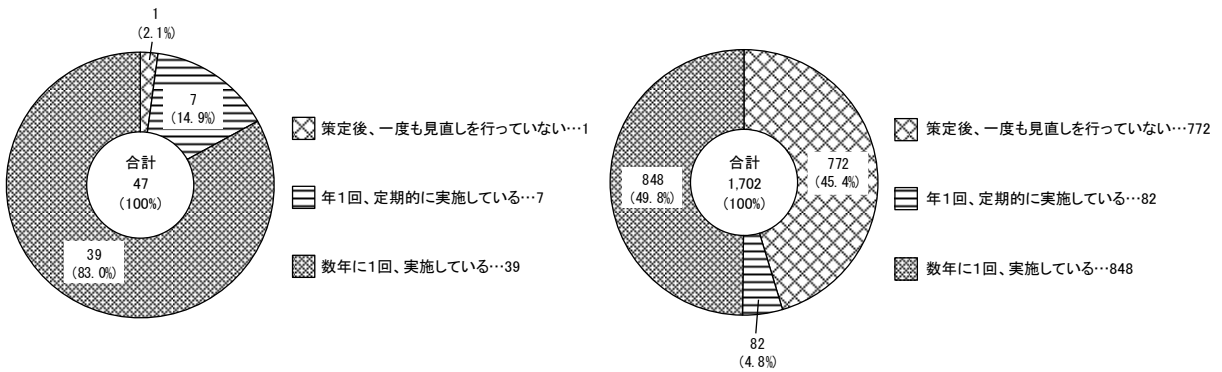
市区町村



### 第80図 情報セキュリティポリシーの見直し状況

都道府県

市区町村

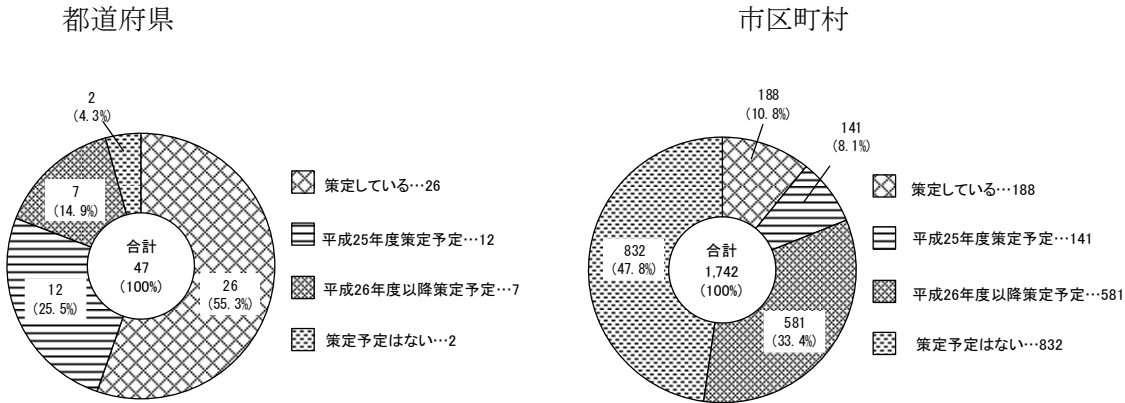


## 7 情報システムに関する業務継続計画（ICT-BCP）の策定状況

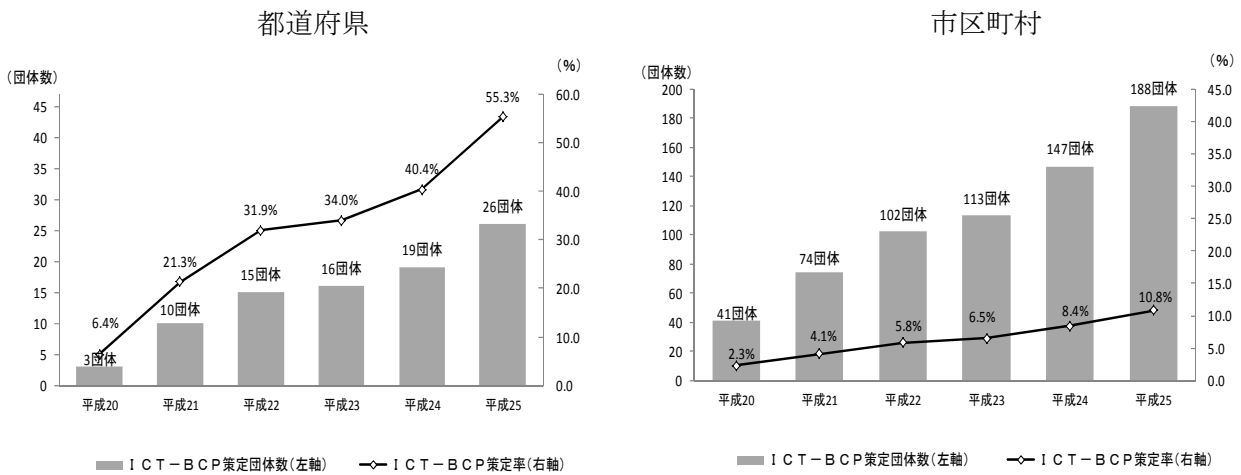
ICT-BCPの策定状況については、都道府県では26団体（55.3%）、市区町村では188団体（10.8%）で策定していた。

なお、今後策定予定の団体は、都道府県においては19団体、市区町村においては722団体であった。

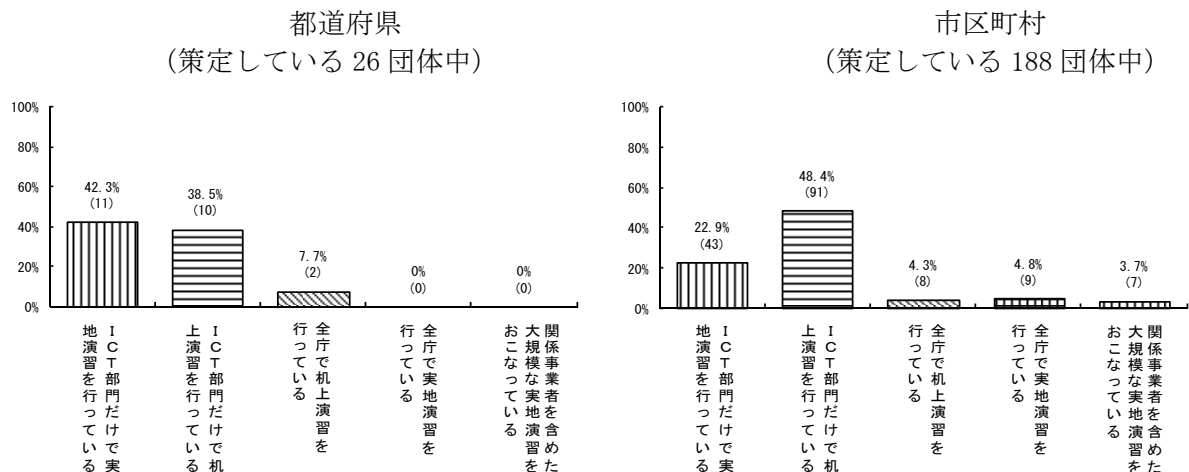
第81図 ICT-BCPの策定状況



第82図 ICT-BCPの策定率の推移



第83図 情報システムに関する業務継続訓練の実施状況



# 凡 例

1 本書で扱うコンピュータ用語等の定義は以下のとおり。

- (1) C I O (Chief Information Officer) : 経営戦略の一部としての情報化戦略の立案・実行、適切な情報技術に基づく経営戦略の提案、情報技術を活用しての組織や業務プロセスの改革、組織のIT資産(人材、ハードウェア、ソフトウェアなど)の管理や調達を最適化することなどをその役割とする最高情報責任者のこと。
- (2) C I O補佐官: 業務分析手法、情報システム技術及び情報セキュリティに関する専門的な知識・経験を有し、C I O及び各所管部門の長(業務改革関係部門、情報システム統括部門)に対する支援・助言等を行うことができる者。単なるコンピュータ担当職員とは異なる。
- (3) ネットワーク管理者: 職員のうち、行政全般及び情報通信ネットワーク技術に関する高度な専門的知識を有する者。当該地方公共団体の全てのネットワークにおける開発、設定の変更、運用、更新等並びに情報セキュリティに関する権限及び責任を有する者。本書においては、C I O補佐官と同義に扱っている。
- (4) E A (Enterprise Architecture) : 組織の構造と機能を体系化・記述し、全体と構成要素の相互関係を明らかにしたうえで、組織活動の全体最適化を行うこと。
- (5) L A N (Local Area Network) (構内通信網) : 同軸ケーブル、光ファイバー等を使って、同じ建物等の中にあるコンピュータやプリンタ等を接続し、データをやり取りするネットワーク。
- (6) L G W A N (Local Government Wide Area Network) : 地方公共団体を結ぶ行政専用のW A N。
- (7) 情報系ネットワーク: 庁内に敷設されているL A Nのうち、一般に、インターネットへのアクセス、メール等の利用、イントラネットとして全庁的な情報共有などのために用いられるネットワークのこと。
- (8) 業務系ネットワーク: 庁内に敷設されているL A Nのうち、一般に、特定業務、特定システムのために敷設されたネットワークのこと。内部業務に用いられているものが多い。
- (9) 電子掲示板: 参加者すべてが読み書きできる電子的な掲示板サービスのことを指し、インターネット上にWebサイトの形態で提供されているもの。
- (10) V o I P (Voice over IP) : I P技術を利用して音声を通信する技術。I P電話などに利用されている。
- (11) S N S (Social Network Service) : 一般的なウェブサイトとは異なり、すでに加入している人が招待することにより参加する形式としたことで、現実社会でのつながりのある会員から構成されるウェブコミュニティ。地域S N Sは新しい住民参画のツールのひとつとして期待されている。
- (12) R S S (RDF Site Summary/Rich Site Summary/Really Simple Syndication) : ホームページのニュースや新着情報など更新された情報をまとめ、R S Sリーダーと呼ばれるソフトウェアにリアルタイムに配信する機能のこと。
- (13) C M S (Content Management System) : ホームページのテキストやグラフィックなどの素材を統合的に管理し、更新・配信するソフトウェア。定型的に素材を登録することで、ホームページの情報が半自動的に更新されることから、一貫性のあるサイト構築が実現でき、ユーザビリティの向上につながるほか、リンクの変更・削除などの管理や公開日時の設定の機能を持つものもある。
- (14) J I S X 8341-3:2010 : 主に高齢者、障害のある人及び一時的な障害のある人がウェブコンテンツを利用するときに、情報アクセシビリティを確保し、向上させるために、ウェブコンテンツを企画、設計、制作・開発、検証及び保守・運用するときに配慮すべき事項について規定。
- (15) e-文書条例: 民間事業者等に対して条例や規則で課している書面(紙)による保存等に代わり、電磁的記録による保存等を行うことを容認する条例のこと。
- (16) G I S (Geographic Information System) : 地理的位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能と

する技術。「統合型GIS」とは、庁内LAN等のネットワーク環境のもとで、庁内で供用できる空間データを「共用空間データ」として一元的に整備・管理し、各部署において活用する庁内横断的なシステム（技術・組織・データの枠組）である。

- (17) ASP (Application Service Provider) ・ SaaS (Software as a Service) : ネットワークを通じて、アプリケーション・ソフトウェア及びそれに付随するサービスを利用させること、あるいはそうしたサービスを提供するビジネスモデルを指す。(ASPとSaaSは特に区別しない。)
- (18) 基幹系業務：基幹系業務とは「住民情報<注1>」、「税」、「国保」、「年金」、「福祉<注2>」等の業務を指す。
- <注1>住民情報とは「住民記録」、「印鑑証明」、「外国人登録」、「学校教育」、「宛名管理」、「選挙人名簿」等を指す。
- <注2>福祉とは「介護保険」、「高齢者福祉」、「障害者福祉」、「生活保護」、「児童手当」、「母子健診」、「乳幼児医療」等を指す。
- (19) BPR (Business Process Re-engineering) : 既存の組織やルールを抜本的に見直し、職務、業務フロー、管理機構、情報システムを再設計、再構築することで業務改革を行うこと。
- (20) レガシーシステム：開発事業者独自のオペレーションシステムを搭載した汎用コンピュータ、オフコンを使用したシステム及びこれらに接続するためのシステム。
- (21) オープンシステム：応札する多くの事業者がシステム開発・導入や運用保守に参画できるシステム環境であり、他社システムと円滑に連携できるシステム。オープン化の効果としては、競争入札による開発・改修等のコスト削減、システムの柔軟性・拡張性の向上などが挙げられる。
- (22) モジュール化：本調査においては、関連の調達案件を分割することをいう。情報システムの調達コスト削減や、中小IT企業が参画する機会の拡大につながることを期待できる。
- (23) SLA (Service Level Agreement) : 契約を行う際に、あらかじめ、事業者から提供されるサービスの内容と範囲、品質に対する要求（達成）水準を明確化して、合意しておくこと。また、その基準と合意を明文化した文書、契約書のこと。
- (24) 地域情報プラットフォーム標準仕様：自治体や民間企業などの情報システムが相互に接続・連携できるようにあらかじめ各々のシステムが準拠しておくべきルールを定めたもの。
- (25) 情報セキュリティポリシー：地方公共団体が保有する情報資産の情報セキュリティ対策について、各地方公共団体が総合的・体系的かつ具体的に取りまとめたもの。情報資産をどのような脅威からどのようにして守るのかについての基本的な考え方、並びに情報セキュリティを確保するための体制、組織及び運用を規定する。
- (26) バックアップ：データの写しを取って別の記録媒体に保存すること（データはシステム上のデータまたは紙ベースでの書類のコピー等）。
- なお、バックアップの設問に関する「税業務」については「法人道府県民税」、市区町村は「市区町村民税」を対象とする。
- (27) ICT-BCP：災害や事故を受けても、ICT資源を利用できるよう準備しておき、応急業務の実効性や通常業務の継続性を確保する計画。
- (28) 中間標準レイアウト：自治体の業務システムにおいて、旧システムから取り出したデータを新システムで使用するために用いる、標準化されたデータの表現形式
- (29) 公共情報コモンズ：地方公共団体が発信する災害時の避難勧告・指示など地域の安心・安全に関する情報の配信を電磁的に簡素化・一括化し、テレビ、ラジオなどの様々なメディアに情報を配信し、これらメディアが放送・伝達することにより、地域住民に迅速かつ効率的に提供することを実現するもの



2 その他本書で用いている用語の定義は以下のとおり。

(1) 情報主管課の職員・要員の範囲は、以下のとおりとした。

① 所属職員

一般事務職員：情報主管課に所属する正規職員

任期付職員：IT関係の識見者としてシステムの開発について助言・指導、企画、システム設計及び契約・調達等を行うため、期間を定めて採用した所属職員。

② 外部委託等による要員

区 分	職 務 内 容
システム管理者	コンピュータ・システムや通信ネットワークを管理する責任者で、ユーザー・アカウントやパスワードの設定、ユーティリティ管理、ディスク・スペース管理、ネットワーク管理などを行う。
プログラマ・SE	プログラマとはSEが設計した仕様内容に従って、プログラムのコーディング作成を主とするエンジニアである。SEとは組織の業務を処理するためのコンピュータ・システムのシステム解析、開発設計から導入計画を行うエンジニアである。
オペレータ	データベースや情報サービスなどで、システム全体が正常に機能するよう、電子計算機を管理する運用者。
キーパンチャ	データ入力を主な作業とする者。

(2) 情報主管課の経費の範囲については、以下のとおりとした。

① 類型区分

区 分	類 型 内 容
自治体クラウド型経費	民間のデータセンターや県域・圏域で所有する外部のデータセンターにおいて、 <u>複数</u> の自治体で共通のサービスを共同で利用している場合を指す。
プライベートクラウド型経費	民間のデータセンターや県域・圏域で所有する外部のデータセンターにおいて、 <u>単独</u> の自治体でサービスを利用している場合を指す。
自庁型経費	外部のデータセンターを利用せずに <u>自庁などの内部</u> において、機器を所有し、データ管理している場合を指す。
イニシャルコスト	機器や設備などを導入する際にかかる費用のこと。なお、設置・導入後にかかる追加費用などは含まれない。(一時経費)
ランニングコスト	設備や機器などの導入後に運用する際にかかる費用のこと。(経常経費)

② 費用区分

区 分	費 用 内 容
機器購入費	パソコン・ケーブル・ハブ等、機器の購入に要した費用（安全対策機器は含まない。）
レンタル・リース	機器のレンタル・リースに要した費用
回線使用料	外部接続等回線の使用料
機器・ソフトの保守料	機器・ソフトの保守に必要な費用、ソフトのレンタル・購入費用
外部委託等による 要員人件費	庁内で勤務する外部委託等による要員の人件費
委託費	運用・開発の外部委託費
安全対策費	安全対策機器・設備の購入費
各種研修費用	研修に要した費用
サービス利用料	A S P ・ S a a S等のクラウドサービスを利用するための費用
その他	消耗品（プリンタのトナー等）費・負担金等、上記以外の費用

## 参考：電子自治体に関する近年の主要な取組

	総務省自治行政局における取組など	法律の施行、政府全体のIT政策・電子政府など（参考）
平成11年 (1999年)		1 2月 ミレニアム・プロジェクト（新しい千年紀）
平成12年 (2000年)	7月 自治省地域IT推進本部設置 8月 IT革命に対応した地方公共団体における情報化施策等の推進に関する指針 1 2月 地域IT推進のための自治省アクション・プラン	2月 情報セキュリティ対策推進会議の設置 7月 情報通信技術（IT）戦略本部／IT戦略会議の設置 9月 各省庁アクション・プラン取りまとめ 1 1月 IT基本戦略 1 2月 重要インフラのサイバー対策に係る特別行動計画 自治事務等に係る申請・届出等手続のオンライン化の推進に関する政府の取組方針
平成13年 (2001年)	3月 地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドラインの策定 7月 統合型の地理情報システムに関する全体指針・整備指針 電子政府・電子自治体推進プログラム 1 0月 総合行政ネットワークの運用開始 地方公共団体における申請・届出等手続に関する汎用受付システムの基本仕様（中間報告） 電子自治体推進パイロット事業（13年度～15年度）	1月 高度情報通信ネットワーク社会形成基本法（IT基本法）の施行 高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部（IT戦略本部）設置 e-Japan戦略の策定 6月 申請・届出等手続のオンライン化にかかる新アクション・プラン
平成14年 (2002年)	2月 LGPKI（組織認証基盤）の運用開始 5月 「共同アウトソーシング電子自治体推進戦略」（経済財政諮問会議で発足） 8月 住民基本台帳ネットワークシステムの稼動 9月 統合型の地理情報システムに関する運用指針・活用指針	2月 地方公共団体の議会の議員及び長の選挙に係る電磁的記録式投票機を用いて行う投票方法等の特例に関する法律の施行 7月 GISアクションプログラム2002-2005（地理情報システム）アクションプラン2002-各府省の行政手続の電子手続等の電子化推進に関するアクション・プランのとりまとめ 9月 各府省情報化統括責任者（CIO）連絡会議の設置
平成15年 (2003年)	3月 地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（一部改定） 地方公共団体における申請届出等手続に関する汎用受付システムの基本仕様（第二版） 8月 公共ITにおけるアウトソーシングに関するガイドラインの策定 電子自治体推進指針の策定 1 2月 住民基本台帳カードの交付開始 電子行政推進国・地方公共団体協議会の設置 総務省電子政府・電子自治体推進本部の設置 地方公共団体情報セキュリティ管理基準の策定 共同アウトソーシング事業（15年度～） 地方公共団体における情報セキュリティ監査に関するガイドラインの策定	2月 行政手続オンライン化関係三法の施行 ・行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律 ・行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律 ・電子署名に係る地方公共団体の認証業務に関する法律 7月 e-Japan戦略Ⅱの策定 電子政府構築計画の策定 1 2月 各府省情報化統括責任者（CIO）補佐官等連絡会議の設置
平成16年 (2004年)	1月 公的個人認証サービスの開始 3月 全地方公共団体が「総合行政ネットワーク」に接続 4月 電子自治体のシステム構築のあり方に関する検討会発足 1 1月 日韓電子政府・電子自治体交流会議	6月 電子政府構築計画の改定
平成17年 (2005年)	5月 ICTを活用した地域社会への住民参画のあり方に関する研究会発足 6月 自治体ISACの具体化のための調査研究会発足（18年3月最終報告） 7月 地方公共団体の情報セキュリティレベルの評価に係る制度の在り方に関する検討会発足（18年3月最終報告） 住民基本台帳カードの利活用法等に関する検討会発足（18年3月最終報告）	1月 地方税電子申告システム（eLTAX）運用開始 4月 民間事業者等が行う書面の保存等における情報通信の技術の利用に関する法律（e-文書法）の施行 個人情報の保護に関する法律の完全施行 5月 情報セキュリティ政策会議の設置
平成18年 (2006年)	4月 業務・システム刷新化の手引き公表（自治体EA事業） 住民参画システム利用の手引き公表 7月 電子自治体オンライン利用促進指針策定 9月 地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（全部改定） 自治体ISAC実証実験開始 1 1月 公的個人認証サービスの利活用のあり方に関する検討会発足 Web2.0時代の地域のあり方に関する研究会発足	1月 IT新改革戦略の策定 2月 第一次情報セキュリティ基本計画 3月 オンライン利用促進のための行動計画 電子政府推進管理室（GPMO）発足 8月 電子政府評価委員会発足 電子政府推進計画の策定 1 1月 電子署名にかかる地方公共団体の認証業務に関する法律の一部を改正する法律の施行
平成19年 (2007年)	1月 システム効率化ベストプラクティス公表 3月 新電子自治体推進指針策定 自治体CEPTOAR創設 5月 電子自治体推進のための住民アンケートと改善のポイント公表 6月 住民基本台帳に係る電算処理の委託等に関する検討会発足 7月 地方公共団体におけるセキュリティ監査に関するガイドラインの公表（全部改定） 地方公共団体におけるITガバナンスの強化ガイド公表 1 0月 オンライン利用促進ワーキンググループ及びセキュリティワーキンググループ設置	2月 「セキュリティの日」創設 3月 GISアクションプログラム2010策定 8月 電子政府推進計画の改定 地理空間情報活用推進基本法施行

平成20年 (2008年)	3月 統合型GIS推進指針の公表 オンライン利用促進ワーキンググループ報告書（「携帯電話を活用した電子申請システムの構築」、「地方公共団体における証明書等の電子交付等」）の公表 8月 地方公共団体におけるICT部門の業務継続計画（BCP）策定に関するガイドラインの公表 11月 第1回日韓電子自治体政策交流会議	4月 地理空間情報活用推進基本計画の策定 6月 IT政策ロードマップ策定 9月 オンライン利用拡大推進団の設置 オンライン利用拡大行動計画の策定
平成21年 (2009年)	1月 オンライン利用促進ワーキンググループ報告書（「インセンティブ付与」、「証明書のペーパーレス化」）の公表 3月 セキュリティワーキンググループ検討結果（「外部委託に伴う個人情報漏洩防止対策に関する検討について」、「情報資産のリスク分析に関する検討について」）の公表 5月 地方公共団体ASP・SaaS活用推進会議第一次中間報告の公表 地理空間情報に関する地域共同整備推進ガイドラインの公表	2月 第二次情報セキュリティ基本計画 4月 デジタル新時代に向けた新たな戦略～三か年緊急プランの策定 7月 i-Japan戦略2015の策定
平成22年 (2010年)	4月 地方公共団体におけるASP・SaaS導入活用ガイドラインの公表 7月 自治体クラウド推進本部設置 10月 地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン（一部改定） 地方公共団体における情報セキュリティ監査に関するガイドライン（一部改定）	2月 「情報セキュリティ月間」創設 5月 新たな情報通信技術戦略の策定 国民を守る情報セキュリティ戦略 6月 新たな情報通信技術戦略工程表の策定 新成長戦略（閣議決定）
平成23年 (2011年)	6月 自治体クラウド推進本部有識者懇談会とりまとめの公表 8月 自治体クラウドへの取組を支援するため、特別交付税による地方財政措置を創設	8月 電子行政推進に関する基本方針 新たなオンライン利用に関する計画
平成24年 (2012年)	1月 災害に強い電子自治体に関する研究会発足 6月 中間標準レイアウト仕様の公表	3月 地理空間情報活用推進基本計画の策定 8月 政府CIO任命
平成25年 (2013年)	4月 地方公共団体におけるICT部門の業務継続計画（ICT-BCP）初動版サンプルの公表 7月 電子自治体の取組みを加速するための検討会発足 12月 番号クラウド推進プロジェクトチーム発足	5月 行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律の成立 6月 世界最先端IT国家創造宣言
平成26年 (2014年)	3月 電子自治体の取組みを加速するための10の指針の策定	